ミッドナイトハイスクール

non. no

この作品はR18描写を含むため、18歳未満の方は閲覧禁止です。

HinaProject Inc.

注意事項

このＰＤＦファイルは小説家になろうグループサイトで掲載中の作品をＰＤＦ化したものです。
このＰＤＦファイルおよび作品の取り扱いについては、小説家になろう利用規約が適用されます。そのため、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止いたします。作品の紹介や個人用途での印刷および保存にはご自由にお使いください。

【作品タイトル】
ミッドナイトハイスクール

【Ｎコード】
Ｎ０２５１ＢＫ

【作者名】
ｎｏｎ．ｎｏ

【あらすじ】
突然学校に現れたキャスパーにより、学園内に残っている女子高生達は純潔を散らされてしまう…
セーラー服を引き裂かれた女の子達に…何が待ち受けているのか？

エロガッパｎｏｎ・ｎｏが贈るスプラッターエロス小説

エロス大好きな君達に俺様が書き綴る官能なストーリーを存分に味わってくれ！！

ストーリーや構成は抑えたラブドール小説です、苦手な方は読まない事！

１日のアクセス数１８０００件エロ好きな貴方の密かなアイテムとして使って欲しい♪

ｎｏｎ・ｎｏは石川美由紀さんを全力で応援しています♪代表作品（僕のファーストキスと彼女の初体験）（この空の下で）

パソコンや携帯で検索して読んで見て下さい。

感想お待ちしています！！

女子高生レイプ（前書き）

一体キャスパーは何が目的なのか、少女達の運命は・・

椎名学園で起こる、集団レイプ事件に、次々と犠牲になる女子高生達・・・

セーラー服を破かれて、裸体をさらされる…

抵抗も出来ない女子高生達にキャスパーは更なる羞恥を始める。

女子高生レイプ

相原夏実は今年椎名学園に入学したセミロングで面倒みの良い一年Ｂ組の委員長
ゴールデンウィークを明日に控えて、生徒会役員と遅くまで、打ち合わせをしていた。詩織は身長１６０センチでダブルテールでＤカップ白いセーラー服に水色に青のチェックのスカート姿夏実の手伝いをしていた。

恵美は身長１５８センチにショートヘア、テニス部に入り新人戦の為に練習を遅く迄していて、クラスに戻った処だった、テニスウエアーにスコート姿

亜美は身長１５０センチと小柄でロングヘアをポニーテールにしている、小柄の割には胸だけはＤカップが自慢の女の子、夏実の手伝いをしていた。

のぞみは身長１７２センチでバレー部の練習を終えてクラスに戻っていた。

其処に、ボストンバックを抱えたスナイパーが堂々とドアから侵入してきた。夏実はスナイパーに話し掛けた!?

「何か修理でもするのですか?」

男はボストンバックのチャックを開けて、中から猟銃を取り出した！

「キャー！！」

一斉に悲鳴を挙げる女子高生達に襲い掛かる

委員長の夏実は男に向かい

「貴方は、誰ですか？私達に何か要求でも有るんですか？」

男は「五月蝿い！！黙れ…君には、少し痛い目を・・・」

男は５人の女子高生達にむかい、教室の真ん中に来るように指示をした。

女子高生達に机をかたずける様にキャスパーは命令した。

委員長の夏実は他の四人に指示をした、

「抵抗しないで、かたずけましょう…」

ライフルを見てしまい、この男は見るからにヤバイと判断したから、夏実は取り敢えず様子を伺う事にした。

机や椅子を教室の隅に移動して、中央に五人は集まった。

夏実はキャスパーに「かたずけは終わりました！」

すると、「君たちに命令する今着替へて貰うから、着ている物を脱いで、セーラー服だけにしなさい！」

のぞみは「そんな命令には従えません！」

スポーツウーマンでバレー部ののぞみは、キャスパーに反抗して、教室から出ようとした。

キャスパーは、銃口をのぞみに向けた！

「死にたいのか！、俺様の命令は絶対だ、拒否は許さない！」

女子高生レイプ（後書き）

学園内では、ゴールデンウィーク前日の為にまだ数十人の女子高生達が残っていた。

キャスパーの存在に気づかない少女達の運命は・・・・

拘束

のぞみに目線を向けて、
キャスパーは手錠を取り出した。

「反抗した少女はどうなるか教えてやるから、見て置け！」

天井の蛍光灯からロープを二本吊るした。

自分に反抗した、のぞみに近づいて、中央に体育座りをするように命令した。

泣きながらのぞみは体育座りをした。

キャスパーはのぞみのを後ろ手に縛り上げた！

他の四人は静かにキャスパーを刺激しないように、のぞみを見つめている。のぞみの後ろからゆっくりと近づいて、セーラー服越しに胸を触りだした。

「キャー！嫌だ…止めてよ！」

「五月蝿い！静かにしろ！」

正義感の強いのぞみは、更に抵抗を強めた！

両手が使えないのぞみは、立ち上がり、キャスパーに足で蹴りを入れた！

キャスパーは、お腹に蹴りを食らい、よろめいた…

しかし、直ぐにのぞみの髪の毛を掴み、床にねじ伏せた！

お前には制裁が必要の様だな・・

倒れたのぞみの両足にロープを結んで、逆さ吊りにした、更に両足は別々に天井からロープに縛られた。

足は大きく開かれて、スカートは翻りスクールキャミソールも逆さまの顔の近くまで捲られて、純白のパンティが丸見えに成っていた。
両手は後ろで縛られたまま、髪の毛は逆さ立ちをして床に触れていた。

「何をするの…止めて～！！」

キャスパーは、夏実に向かい命令した。

更に抵抗（前書き）

この娘のパンティを剥ぎ取れ！

夏実は「嫌です！！出来ません！」

「なら死ぬか！」

キャスパーは銃口を夏実に向けた！

仕方なく、夏実は「ごめんね…のぞみ」

泣きながら叫ぶのぞみ！

「イヤ～ッ！止めてよ…」

夏実は逆さ吊りに成っているのぞみに近づいて、パンティを見た。

「さあ破くんだ！」

夏実はのぞみの純白のパンティに手を掛けて思い切り引っ張り破いた！

夏実の右手からのぞみの引き裂いたパンティが床に落ちた！

更にキャスパーは夏実に命令した。

キャスパーは、手に女性性器用の挿入機器を手にしていた。

露に成っているのぞみの女性器

まだ誰にも触られた事がないのぞみのオマンコをキャスパーはゆっくりと見つめていた。

更に抵抗

ｎｏｎ．ｎｏファンの皆様にお知らせします。
エロガッバｎｏｎ．ｎｏ再び参上
エロの世界に皆様を招待します。

ｎｏｎ．ｎｏからのプレゼントだ皆受け取ってくれ！！

女子校で興るレイプ魔による処女強姦

更なる恐怖が女子高生達に襲い掛かる！！名門女子校の椎名学園ではゴールデンウィークを明日に控えて学生達は、海外旅行に…又は恋人とのデートにと計画を仲間内で賑やかに話していた校舎に入り一年生の居る三階までたどり着いた！

教室にはまだ５人の女子高生が残っていた。時間は６時を少し過ぎて空は夕焼けに染まり初めた。

のぞみに屈辱的の限りを味合わせてやる…

俺の思い付く限りの恐怖を与える事にした！

更に抵抗（後書き）

のぞみの運命は・・

引き裂かれたセーラー服（前書き）

キャスパーは、銃口をのぞみに向けた！

「死にたいのか！、俺様の命令は絶対だ、拒否は許さない！」

のぞみを中央に引っ張り、体育座りをさせた！

キャスパーは、のぞみを後ろ手にして縛った！

「何をするの…止めて～よ」

更にセーラー服の上から胸をゆっくり触り始めた！

「いいオッパイをしているね、何カップかな、Dカップ位かな」

更にセーラー服の襟裳元から、中に手を入れて、スクールキャミソールの上からオッパイを触った。

「止めてよ、気持ち悪い！！」

正義感の強いのぞみは、両手を縛られた為に、抵抗ができない。

キャスパーはキャミソールの上から、乳房を揉んでいる。

遂に我慢が出来なく成った！

触られるのは御免だ！立ち上がり、まだ自由の足でキャスパーに蹴りを入れた！

キャスパーは、急に蹴られたがよろめいた程度で、立ち直り

のぞみの髪の毛を掴んで床に押さえ付けた！

「痛い！！止めてよ…」キャスパーは天井の蛍光灯にロープを掛けて吊るした、のぞみの足にロープを結んで、両足を開いて逆さ吊りにした。

スカートは捲られて、スクールキャミソールは顔の付近まで捲られた。

純白のパンティが露に成った！

「イャ～ァア～ッ…」

キャスパーは夏実に命令した。

パンティを剥ぎ取れと！！

「嫌です！！出来ません…」

夏実は断る

「死にたいなら別に俺様は構わないぞ」

キャスパーは銃口を夏実に向けた。

「やるのか、やらないのか？」

夏実はのぞみに近づいて「ごめんね…」

と言った。

「イャ～ッ止めて～っ」

夏実は純白のパンティに手を掛けて、思い切り引っ張り、剥ぎ取った。

夏実の右手から、パンティが床に落ちた…

のぞみの女性器が露に成った！

キャスパーは、手に産婦人科で膣内検査に使う器具を持って、近くの机の上に置いた。

夏実に次の命令をした。

のぞみの露になった女性器には、うっすらと茂みが有った為に、剃るように命令した。

安全剃刀とソープを夏実に渡した。

断ると何を去れるか解らないから、仕方なく夏実はのぞみの女性器に生えている茂みにソープを塗り、剃り始めた！

夏実がアンダーヘアを剃っている間にキャスパーは他の三人に新たな命令をした。

腕を頭の上に上げなさい！

詩織と亜美は白いセーラー服に水色に青のチェックのスカート

恵美はテニスウェアの姿をしていた。

三人は先ほどキャスパーが言った言葉を思い出した、セーラー服だけの姿になれと言った言葉を…

三人は震えながら、手を頭の上に上げた！

俺様に何を去れても動くなよ！解ったかな

三人は頷いた、此れから酷い事をされるのを感じながら、涙を流した。

最初に小さい亜美の前にきて、セーラー服の上から胸を触り始めた！

ゆっくりとDカップのオッパイを堪能していた。

亜美の頬にキャスパーは自分の唇を近づいて舐め始めた。

「イャ～ッ！」

五月蝿いな～！

キャスパーはそのままのぞみの唇に自分の唇を重ねて黙らせた。

更に舌を口の中にいれて、のぞみの舌に絡ませた。

「うっ～っ」

うめき声しが出せないのぞみ

夏実はキャスパーに「剃り終わりました」
と告げた！

すると「お前も此方に来るんだ！手を頭の上に上げなさい！」

夏実は手を頭の上に上げた！

キャスパーは亜美のスカートを捲った、純白のパンティを摘まんで足元に下ろした。

イャ～っ！

亜美の茂みに目を向けて！

「足を開くんだ！」

亜美はゆっくりと足を開くいた其処にソープを塗り、剃刀で剃り始めた。

他の三人にキャスパーは、自分でパンティを脱ぐように命令した。

夏実や恵美に詩織はパンティを脱ぎ始めた！

亜美のアンダーヘアを剃り終わったキャスパーは、次に夏実を更に恵美を最後に詩織のアンダーヘアを剃り四人は女性器をツルツルの露にした。

キャスパーは四人にM字開脚するように命令した、

四人は一列に座って、足を開いた！

よし！次はお前達の大陰茎を開いてクリトリスと膣口を見せなさい！

四人はしぶしぶと自分の大陰茎を開いてまだ皮の被っているクリトリスと膣口をキャスパーに見せた。

四人共に涙を流しながら、震えている手を大陰茎に当てて自分の女性性器を拡げている。

次なる命令は、自分の処女幕を見せろ！とキャスパーは四人に命令した、

キャスパーは、夏実に近づいて、大陰茎のビラビラの中央にある膣口の中を見渡した、夏実は涙を泣かして屈辱に絶えていた。

キャスパーは夏実に良く見えないな、もっと大きく開きなさい！と告げた！

夏実は更に膣口を両手で左右に開いたら…膣壁の奥にピンク色をした、ヒダが見えてきた。

キャスパーは夏実に確かに君の処女幕は確認した、と告げて、君はセーラー服が似合うから、それ以外は要らないから脱ぎなさい！

と言った。

夏実は言うままに、スカートのホックを外して、脱いだ！

しかしスクールキャミソールがまだ見えていた。

キャスパーは夏実の肩に手を入れてスクールキャミソールの肩紐を片方づつ千切ってしまった！セーラー服の裾から一気にキャミソールを引き抜いた！

後はセーラー服の下にはブラジャーが有るだけ…

キャスパーは嫌がる夏実のセーラー服の胸元に手を差し込んで、ブラジャー越しにオッパイをもみくちゃにした。次に夏実のブラジャーを鷲掴みにして、破いてセーラー服から抜き取った！

夏実は下半身はツルツルの全裸で上半身は白いセーラー服だけを着ている状態にされた。手を頭の上に上げたまま処女の女性性器を去らしている。

次にキャスパーは他の女子高生達に命令をした。

恵美はテニスウェアのスカートだけの姿にされた。テニスウェアは、キャスパーに脱がされ、純白のブラジャーは、引き千切られて恵美の白二つのい乳房が露になった。

スコートを捲るとツルツルのオマンコが見えていた。

次の詩織の前にキャスパーはきた。

君にはスクールキャミソール姿が似合うからそれ以外は要らないな～！！

キャスパーは嫌がる詩織のセーラー服の上からDカップのオッパイを鷲掴みにしてもみだした！

更にセーラー服の胸当てに両手を当てから、一気にセーラー服を引き裂いた！
徐々にセーラー服は破かれてキャミソール越しにオッパイが見えだした。更に引き裂かれたセーラー服はお腹の辺りで二つに引き裂かれた。

イャ～ッッ！

詩織は泣き叫ぶ！！

続いて破いたセーラー服を床にすてて、スカートのホックを手で弾いて、スカートも破り棄てた！

キャミソールにブラジャーが浮いて見えていた！

キャスパーは、キャミソールをたくしあげて、ブラジャーを引き裂いた！

これで詩織は下半身を露にしたキャミソールだけの姿にされた。

最後に亜美の前にキャスパーは近づいて、君にはどんな姿が似合う

かな？

亜美のセーラー服の上からオッパイを触り始めた、優しく両手で乳房をもみだした！

両手を頭の上に上げたまま、嫌がって身体をくねくねさせる…

キャスパーは他の女子高生達と同じように、セーラー服の胸当てを両手で掴んで一気にセーラー服を破いた！

キャミソールも肩紐を掴んで破り棄てた！

白いブラジャーに包まれたDカップの胸がさらされた！

スカートもホックを弾かれて、地面にずれ落ちた！

下半身のツルツルのオマンコが露になった。

続いて最後に残った白いブラジャーにキャスパーの手が掛かり、真ん中から引き裂かれた。

乳房が露になった。真ん中の蕾が上を向いて立っているのが見えた。

キャスパーは可愛い亜美の乳首を摘まんだ！

「痛い！！」

亜美の乳首にキャスパーはしゃぶりついた、舌で転がすように乳首を堪能している。

亜美からは、快感するように声がした。

「イャ～っ触らないで…」

乳首から口を離したキャスパーは亜美にむかい…

君には全裸が似合うかな…何も身に付けるなよ！

亜美は全裸で震えていた。四人は夏実がセーラー服だけの姿に

恵美はアンダースコートだけを着ている状態に

詩織はスクールキャミソールだけの姿に

亜美は生まれたままの全裸

キャスパーは探さ吊りをされているのぞみの回りに四人を集めた！

此れからのぞみの処女を確認するから、皆は良く見るんだ！

「イヤ～ッ！」

五月蝿い！！黙れ！

キャスパーはのぞみの大陰茎を両手で開いたら、まだ皮の被っているクリトリスと誰にも触られたことのない膣口が現れた！

指でクリトリスの皮を剥いて露出させた。

「イヤーッ…そんな所触らないで…」

「五月蝿い！！」

キャスパーは怒鳴った！

更クリトリスを指で激しく愛撫しだした。

「あっ～あっダメ～！」

あえき声を上げるのぞみ…多分感じて要るんだろう。

キャスパーは指で膣口を拡げた、膣の奥にピンクのヒダが見えていた。

四人の女子高生達に、のぞみの処女幕を見るんだと命令した。

四人は自分な処女幕は勿論の事、同じ女子高生の処女幕なんて皆初めて見て、それぞれに少しずつ興奮しはじめていた。キャスパーは次の命令を出した！

のぞみの膣口に器具を挿入しろ！

夏実は産婦人科で検査用に使う器具をのぞみの膣口にゆっくりと挿入した。

五センチ入った所で器具を大きく開いた！

「痛い！！止めてよ…」

器具の入り口から膣壁やピンクの処女幕のヒダが良く見えてきた！

キャスパーは回りに居る四人の女子高生達に、「では！のぞみの処女幕を奪い取りなさい！」

四人にピンセットを一つづつ渡した。

のぞみの器具で限界まで開いた膣壁にピンセットを入れて、ピンクの処女幕のヒダを剥がすのです！！

とんでもない命令を出した。

「夏実は私には出来ません！」

渡されたピンセットを床に落とした！

キャスパーは夏実を睨んだ！

「落ちたピンセットを直ぐに拾うんだ！」

夏実は、鳴き声を挙げながら、振るえている手でピンセットを拾い上げた！

此方に来るんだ！

キャスパーに命令されて、最初にのぞみの膣口からピンセットを差し込まされた！

震えたてでピンク色の処女幕のヒダを掴んでだ、まだ引き抜けないでいた夏実の手をキャスパーは握り、ピンセットを膣口から引き抜いた！

「痛い！！」

一部の処女幕が引き裂かれた！

キャスパーは膣口からスポイトが差し込ませて、処女幕から出血している血を吸出した。

次の命令はまだ残っている「処女幕を全て摘出せよ！」

女子高生達は順番にのぞみの膣口にピンセットを入れて残ったピンクのヒダを摘出した。

その度に、のぞみの「痛い！！止めてよ…」
悲鳴がした。

膣口の中には処女幕からの鮮血か溜まり、キャスパーはスポイトを使い吸出した。

一辺も処女幕が残っていない事を確認して、のぞみの処女幕摘出は終了した。キャスパーは興奮が収まらなかった！

全裸の亜美に新たな命令をした。

キャスパーのペニスを口に加えて、逝かせろ！精液を亜美の口で受け止めれ！

亜美はキャスパーのズボンを脱がせ始めた、

他の女子高生達には近くで良く見ている用に命令した。

亜美はキャスパーの股関の膨らみに視線を向けた。

ブリーフの越しにペニスがある場所が大きく膨らんでいた。

亜美は覚悟を決めて、キャスパーのブリーフに手を掛けて、引き下ろした！

目の前には大きく勃起したキャスパーのペニスが現れた！

こんなに大きく勃起したペニスを見たのは初めてだった！

小さな時にお父さんと一緒にお風呂に入った時に見たそれとは、違っていたから～

亜美は、ゆっくりとキャスパーのペニスを舐め始めた、先っぽからは我慢汁が滲んでいた！

口の中にペニスを含んだら息が出来ない！？

苦しかったから鼻で勢い良く呼吸をした。

キャスパーのペニスを口の中で出し入れした、

舌を使え！！と命令されて、チュパチュパと舌でペニスを舐め、口で出し入れをしたら、

「イクっ―つ！！」

キャスパーは亜美の口の奥に射精した。

苦い味と、生臭い臭いに、亜美はむせた…ゴホゴホ…

口からキャスパーの精液がたれだした。

慌ててキャスパーはその射精した精液をビーカーで受け止めた！

勿体ないことをするな！

キャスパーは亜美に激怒した。キャスパーはスポイトを使い自分の精液をビーカーから救い取った。

そのスポイトを逆さ吊りに成って今処女幕を摘出されたばかりでまだ膣口を大きく開いたままの、のぞみの膣口から子宮口の奥の子宮の中に流し込んだ！

「何をするの？止めて～妊娠しちゃうよ！」

のぞみは泣きながら訴えた！

種付け完了！だ君にはセックスする価値もない、此で十分だ！

「イャ～ァ…赤ちゃん出来ちゃうよ！」

キャスパーはのぞみに

「そんなに、俺様の種付けは嫌か？」

「イャ～妊娠したくないよ！」

「俺様の赤ちゃんは要らないんだな？」

のぞみはキャスパーの言葉に逆さまに成りながら頷いたのだった。

そんなに俺様の赤ちゃんが嫌なら仕方ないな！

赤ちゃんが要らないなら、子宮もオッパイも要らないな！

キャスパーは道具箱からニッパーを取り出した。

のぞみは怯えていた。

他の四人もキャスパーが何をするねか震えて見ていた。

全裸の亜美にキャスパーは、「これは、電線を切る時に使うニッパーと言うものだ！知って要るだろう！！」

亜美は頷いた。

何をするか教えて挙げよう、のぞみは俺様の赤ちゃんを要らないと言ったから、

俺様はのぞみの一番大切な感じるクリトリスを貰うことにした。

キャスパーは亜美に教えた！

のぞみに近づいてクリトリスを指で摘まんだ！

「後少しでお前の一番感じるクリトリスを切除するからな、クリトリスの無い女の子はもう、女の子じゃあ無いな、一生快楽が味わえなきなるぞ」

「そんなこと止めて下さい…お願いします！！」駄目だ！俺様の言う事を聞けない娘には制裁が必要なんだ！

もう数秒でお前のクリトリスはオシマイだ！

のぞみのピンク色をしたクリトリスが風前の灯火になった。

五秒前…4・・3…2…1…

キャスパーはクリトリスを挟んだニッパーを思い切り握りしめた！

「ぎゃーぁ！！」

のぞみの激しい叫び声が鳴り響いた！

クリトリスのあった場所から鮮血が流れ出ていた…

キャスパーはニッパーの先に付いていたのぞみのクリトリスの豆を自分の口に運んで飲み込んだ！

「イャ～っ！」

見ていた女子高生達が叫び出した。

キャスパーは次に、のぞみに近づいて、「クリトリスは美味しく頂いた！」

「次は、要らない子宮を頂くとしよう」

キャスパーはのぞみの膣口に挿入した器具を取り出した！

処女幕を摘出され、膣口を大きく開かれた為に、膣口にはキャスパーの右手がゆっくりと子宮口にまで達する用に入って行った！

「痛い！！止めて下さい…お願いします…」

クリトリスを千切られた痛みに今度は、キャスパーの右手がのぞみの子宮口にまで入れられている！

激しい痛みがのぞみを襲う！！

引き裂かれたセーラー服（後書き）

のぞみは子宮を失うのか？

子宮の恐怖（前書き）

のぞみの子宮口にまづキャスパーの右手は挿入された、物凄い痛みにさらされていたのぞみをキャスパーは容赦無く…子宮口から子宮の中に右手を入れ始めた！

温かい液体が溢れるように分泌していた。

右手に液体か絡まる！！

更に潤滑油となった液体を使い子宮の奥にまで右手を入れて、子宮内を指で激しく揉んだ！

更に激しく体液が噴出してきた！

「イャ～っ痛いの！早く抜いて！」

キャスパーは子宮内壁を右手で強く握りしめた！

「痛い！！痛い！！死んじゃう！！」

キャスパーは握りしめた子宮を膣口から引きずり出した！

のぞみの膣口から子宮口が見えてきた。

のぞみは痛さで気を失った！

キャスパーはザバイバルナイフを取り出して、のぞみの膣口から覗いている子宮口にナイフを当てて、のぞみの女の子である証を切り取った！

膣口からは鮮血が滴り、逆さまに吊るされている、のぞみの白いキャミソールや白いセーラー服は鮮血で赤く染まっていった。

回りで見ていた女子高生達は大声で鳴きわめいている。

女の子の証を奪いとられた、のぞみにキャスパーは近づいて逆さ吊りの足に縛ったロープをザバイバルナイフで一本つづ切った！

ドサッ！のぞみは床に倒れ込んだがまだ意識は無い！

女子高生達に机をかたずける様にキャスパーは命令した。
委員長の夏実は他の四人に指示をした、

「抵抗しないで、かたずけましょう…」

ライフルを見てしまい、この男は見るからにヤバイと判断したから、
夏実は取り敢えず様子を伺う事にした。

机や椅子を教室の隅に移動して、中央に五人は集まった。

夏実はキャスパーに「かたずけは終わりました！」

すると、「君たちに命令する今着替て貰うから、着ている物を、セーラー服だけにしなさい！」

のぞみは「そんな命令には従えません！」

スポーツウーマンでバレー部ののぞみは、キャスパーに反抗して、

教室から出ようとした。

キャスパーは、銃口をのぞみに向けた！

「死にたいのか！、俺様の命令は絶対だ、拒否は許さない！」

子宮の恐怖（後書き）

のぞみの運命は更なる仕打ちが…

女子高生の末路（前書き）

遂に女子高生のぞみは女の子の証をキャスパーにより奪いとられた。

女子高生の末路

のぞみはキャスパーにより、机の上に仰向けにされた。

赤く染まっているセーラー服を胸当てから破られてスクールキャミソールにスカート姿にされた。

更にスカートのホックを外されて脱がした！

のぞみの膣口からは鮮血がながれて、大腿部を染める。

キャミソールを掴むと引き裂いた！

白いブラジャーは鮮血を浴びて赤く染まっている。

そのブラジャーを胸元に手をやり左右に引きちぎった！

二つの乳房が露に成った！

乳首はピンク色をして立っていた。

キャスパーは右手にザバイバルナイフを持ってそのまだ誰にも触れられていないふくよかな柔らかいのぞみの左の乳房を左手で鷲掴みにして、乳房にナイフを刺して切り取った！

更に右の乳房も鷲掴みにしてナイフを刺して切り取った！

机の上にには切り取った、のぞみの乳房が二つ並べられた。

のぞみの乳房の有った胸からは、鮮血が留まらなくながれている。

息も次第に小さくなり、やがて深い眠りに就いた！

女子高生の末路（後書き）

更に残された女子高生達にキャスパーの魔の手が迫っていた。

純潔の崩壊（前書き）

夏実の処女喪失

純潔の崩壊

女子高生達に机をかたずける様にキャスパーは命令した。
委員長の夏実は他の四人に指示をした、

「抵抗しないで、かたずけましょう…」

ライフルを見てしまい、この男は見るからにヤバイと判断したから、
夏実は取り敢えず様子を伺う事にした。

机や椅子を教室の隅に移動して、中央に五人は集まった。

夏実はキャスパーに「かたずけは終わりました！」

すると、「君たちに命令する今着替て貰うから、着ている物を、セーラー服だけにしなさい！」

のぞみは「そんな命令には従えません！」

スポーツウーマンでバレー部ののぞみは、キャスパーに反抗して、

教室から出ようとした。

キャスパーは、銃口をのぞみに向けた！

「死にたいのか！、俺様の命令は絶対だ、拒否は許さない！」キャスパーは夏実に目を付けた！

此方に来なさい！

夏実はキャスパーに従って近づいてきた、

君の初めてを貰う！良いな！

夏実は殺されるのは嫌だ！仕方なくキャスパーの言う事を聞いた！もう処女は諦めた！頬に涙が滴り落ちた！

キャスパーは夏実に床に仰向けに成るように命令した。

夏実は床に仰向けになった。

キャスパーは夏実のセーラー服姿に興奮した。下半身は何も身に付けていない、ツルツルのオマンコが露出している。

ゆっくりと夏実の上に股がり、セーラー服の上から、乳房を揉んだ！

「あっ！ダメ♪」

優しく乳房を揉まれて、喘ぎ声を出した！

キャスパーは夏実の唇に自分の唇を当てた、無理矢理に口を開いて夏実の舌を絡め取って自分の口の中に引き込んだ！

セーラー服の胸当てから中に手を差し込んで、夏実の乳首を探し出して、摘まんだ！

「痛い！！」

咄嗟に反応する夏実に

「気持ち良くして欲しいな！」

キャスパーは自分のズボンを右手でずりさげた…

ブリーフ越しに、ペニスを夏実の下腹部に当てた。

夏実は温かく大きく勃起したペニスをブリーフ越しに感じていた。

キャスパーは夏実の唇から首筋に…更にはセーラー服越しにふくよかな乳房の真ん中にある蕾に舌を這わせた！

セーラー服は濡れて下の乳首が透けて見えだした。

キャスパーのペニスは最大に勃起しだした。

セーラー服の胸当てに手をやり、引き裂いた！

「イャ～ァ！」

露になった乳首にむしゃブリついた！

「ああっ～つ！ダメ…」快感が全身を突き抜けた！

キャスパーは乳首からおへそへ、更にはツルツルのオマンコへ舌を

這わせた！

「足を開くんだ」

夏実は諦めて、ゆっくりと足を開いた。

キャスパーは夏実の大陰茎を舌で愛撫した。更には皮の被っていたクリトリスを舌で探し出して、剥き出しにして、舌で転がした！更にクリトリスを口の中に吸い込んだ！

「イャ～ッもうだめだよ」

夏実は初めての絶頂を迎えていた！

更にキャスパーは大陰茎を舌で開いて、処女の膣口を舌でなめまわし、中に舌を入れた！

「もうだめ、いっちゃう！！」

夏実は初めて絶頂を迎えて、膣口内が痙攣しはじめた。

キャスパーは我慢出来なくなり！ブリーフを脱いで、勃起した、ペニスを夏実の膣口に当てた！

ゆっくりと勃起したペニスが処女の膣口から中に入れられてゆく。

「痛い！！痛いよーっ！」

キャスパーのペニスが夏実の処女幕に触れて、侵入が一旦止まった！

キャスパーは腰に力を入れて一気にペニスを押し込んだ！

「痛い…　！！」

夏実は処女喪失の悲鳴を上げた！

キャスパーのペニスは夏実の子宮口に達した。夏実の子宮口にペニスの頭があたった！

更にキャスパーはペニスを子宮内にまで押し込んだ！

遂にキャスパーも絶頂を迎えた、全ての精液を夏実の子宮内に射精した。後から後から精子か夏実の子宮内に放出された、

夏実は温かい液体を自分の子宮内で感じていた！

処女喪失の痛みを忘れて二回目の絶頂に達した！

キャスパーはペニスを膣口から引き抜いた！

夏実の膣口から、キャスパーの精液と夏実の処女喪失の証の赤い血が流れ出した

純潔の崩壊（後書き）

夏実はキャスパーにより初めてを奪われた、キャスパーの精液を自分の子宮で受け止めるしか助かる方法は無かったから…

処女膜喪失（前書き）

新たな獲物を獲得したキャスパー…

彼女達には何をするのか？

処女膜喪失

キャスパーは夏実の処女幕を奪った！

次の女子高生はと…詩織を見た…

詩織はキャスパーに見られただけで、愛液が子宮から流れ出した

次は私が処女を奪われて終うと…詩織は恐怖とエクスタシーの両方を感じていた！

その時教室のドアが開けられて！

隣のクラスの女子高生二人が現れた！

尚美と静香だった！

尚美は叫び声がしたからと言って、ドアを開けた、後ろから静香がついて来ていた！

尚美は教室に入るなり、「イャ～ア！何よこれは！？」

のぞみの無惨な姿に驚愕した。乳房を切り取られ、股関からは鮮血が流れ出している姿に驚愕して、叫び出した。

静香ものぞみの無惨な姿に叫び声をだした。

「イャ～っ！！」

キャスパーは新しくまた奴隷を手に入れた喜びで微笑んでいた。

銃口を二人に向けて、「手を頭の上に上げて此方に来るんだ！」

二人は言われた通りに手を頭の上に上げてゆっくりキャスパーの傍に来た。

二人の両方の手を頭の上で紐で縛った！

そのまま、尚美はロープで天井から吊るされた格好にされた。

静香は、机の上で仰向けにされて、両手を頭の上で縛ると机に縛られた、足は開かれて、机の足に縛られた。

先ずは、静香の傍に寄って小振りの胸をセーラー服越しに揉み始め

た！

「イャ～っ触らないで…」

五月蝿い静かにしろ！
キャスパーは静香のセーラー服の赤いスカーフを引き抜いて、静香の口に詰め込んだ！

静香はこの男に犯されると覚悟した、涙が頬を伝い流れ出した。

キャスパーは静香の乳房をゆっくりと堪能している

処女膜喪失２（前書き）

遂にキャスパーの餌食に成った、静香と尚美

処女膜喪失2

静香の乳房をセーラー服越しに堪能したキャスパーはスカートをたくしあげた。

「君もスクールキャミソールを着ているんだね」

静香も清楚な女子高生だった、セーラー服の下に白いキャミソールと白いブラジャーにパンティを着けていた。

キャミソールも腰までたくしあげて、キャスパーの左手が静香のおへその下からパンティの中に入れられてゆく。

静香のまだ処女の割れ目に中指でゆっくりと刺激を与えた！

「君も処女なんだね♪答えなさい！？」

静香は頷いた…恥ずかしい…！！

パンティの中で、指で処女のクリトリスを探したし、まだ皮の被っていた先を愛撫し出した。

親指ど人差し指でゆっくりとクリトリスを剥き出した！

「あっ♪ーーつダメです…」

キャスパーはクリトリスを愛撫しながら、処女の膣口に中指で軽く触れた！

ピッピッと全身が痙攣しだした。「かなり興奮しているな　この淫乱女が！！」

「違います…興奮なんてしていません…」

「嘘を吐くんじゃない、これは何だか解るか？」

キャスパーは静香のパンティから左手を抜いて、愛液のべっとり付いた指を見せた！

もう、準備は良いな！

キャスパーは夏実の処女幕を奪ったばかりだったが、新たな処女を手に入れたのでペニスは最大限に勃起していた。

静香の白いパンティをゆっくり脱がし始めた、右手で掴んで、大腿部まで下ろした！

マンコの茂みが現れた。

綺麗なマンコをしているじゃあないか♪

右手でパンティを足首まで下ろした所で静香の左足を持ち上げてパンティを脱がした白いパンティは右足首に引っ掛けた！

全部脱がすよりもエロイ！

静香に足を開けと命令した。

キャスパーは最大限に勃起したペニスを静香の膣口に当てた！

静香は涙を流して「お願いします…酷い事はしないで下さい…」

キャスパーに涙ながら訴えた！

するとキャスパーは膣口の中にペニスを一気に挿入した！！

「痛い！！痛いよ～っ！」

キャスパーは静香の処女幕を突き抜けて子宮口まで一気にペニスを

入れた！

「俺様の精子をお前の子宮内にたっぷり出してやるからな！」

イャ～ッヤメテ～ッ！！

キャスパーは隣の机に置いたのぞみから剝り落とした乳房を鷲掴みをして、静香に見せた！

「お前も俺様の言うこと聞かないと、こうするしかないが！良いのか！」

静香は切り取った乳房を見て、頭を横に何回も振った！

「良い娘だ！たっぷり子宮内に種付けしてやるからなよろこべ！」

キャスパーは激しく腰を動かした！

いくぞ！確り子宮で受け取るんだぞ♪

静香は処女喪失の痛さと、男の精子で種付けされる恐怖で涙が留まらなく流れた…

キャスパーは、いくぞ！大量の精子を静香の子宮内に放出した。

静香も温かいキャスパーの精子が子宮内に流れ込んで来るのが解った…汚され要るんだ…男精子で種付けされてしまった。静香は今日が生理から二週間目の危険日だと気が付いた…

そろそろ排卵日なんだと…男の精子で妊娠してしまう…
キャスパーは静香の涙を舐め始めた…

「気持ち良かったのか？俺様のペニスでイッタのか？」

静香は恐くなり、頷いてしまった！

全く淫乱な女の子だな！

静香の膣口からペニスを引き抜いた！

膣口からはキャスパーの精子と処女喪失の証の赤い血が流れ出した！！

キャスパーは「俺様の赤ちゃんを産むんだぞ、解ったな！」

と静香に告げた！

静香を犯して処女幕を奪ったキャスパーは、次に吊るされている少女の前に近寄った！尚美は静香の処女喪失を泣きながら見ていた…

次は私が男の餌食になると…

キャスパーは尚美のスカートを捲った！

尚美の白いパンティが見えた！

「君はキャミソールを着ていないんだね！勿論処女幕はまだ有るのかな？」

尚美は頷いた…

キャスパーは尚美のスカートから手を離して、道具箱から極太の（足の形が男根）セーラー服姿のドールを出した。

今処女喪失した静香に向かい命令した。

「このドールで君の友達の処女幕を奪うんだ！」

静香は拒否したら、酷い目にあうと思い、頷いた…

キャスパーはドールを静香に渡した。

そして、尚美に近付いて、「君の友達がお前の処女幕を奪ってくれるからな、期待して居ろよ！」

「イャです！！そんな酷い事はしないで下さい…」

キャスパーは微笑んで「俺様の命令は絶対だからな…」

尚美のスカートのホックに手を掛けて引きちぎった！

スカートは床に落ちて、白いパンティが露になった。

キャスパーは尚美の右足首を紐で縛り、天井のロープに結んで、右足を引っ張り上げた！

「痛い！！」

尚美の右足は頭の横にまで吊り上げられた！

両手は頭の上で吊るされ、左足一本で立っている格好にされた。

キャスパーは静香に命令した。

友達のパンティを脱がして、ドールを射し込めと！

静香は尚美に近付いて「尚美ゴメンね…」

白いパンティを掴んで、脱がし始めたが？左足を上げられた状態では脱がせない…

仕方なくパンティを破り始めた…

尚美はパンティを取られて、オマンコを露にした。

「さあ、やるんだ！」

静香は尚美のオマンコを見た、左足を上げられた状態でクリトリスや膣口、アナルまでモロに見えていた。

キャスパーは静香に「お友達の処女幕を確認してからドールを挿入するんだぞ！」

と命令した。

静香は尚美の開かれたオマンコに右手を添えて、尚美の膣口を指で開いた…膣壁の奥にピンク色をした処女幕のヒダが見えてきた。

キャスパーは静香に「処女幕は有ったのか？」と解いた？

静香は「尚美の処女幕見えました」

挿入するんだ！

「静香止めてよ！」

尚美の膣口からは大量の愛液が流れ始めた…

友達の静香に処女幕を奪われると思ったダケなのに…

静香はセーラー服姿のドールの足元を尚美の膣口に近づけた…

尚美は叫びだした。

「静香止めなさいよ…ヤメテ～っ触らないで…」

尚美ゴメンね…ゴメンね…

ゆっくりとドールは尚美の膣壁を捕らえて中に中に挿入されて行った…

一旦処女幕で侵入が止まった!?

キャスパーはそれを見ていて「其処に処女幕があるんだ、更に強く押し込め!」

静香はドールを両手で押し込んだ!処女幕を突き抜けたドールはセーラー服を捲り上げて首元迄挿入された、先端が子宮口に当たっていた。

尚美は処女喪失の悲鳴を上げた!

「痛いよ～っ!もう、抜いて!」

尚美の膣口からは処女喪失の証の赤い血が流れ出して、右足を伝い床に落ちていた…

静香はドールを尚美の膣から抜いた。

種付け（前書き）

種付けを始めたキャスパーの次の目的は…

種付け

キャスパーは外を見渡した…すっかり暗く成り始めていた、お腹も空いてきたのを感じて、食事の準備をしようと決めた！

既に種付けを済ませた、夏実と静香を呼んだ！

君達はここに居る全員の食事を造りなさい、メニューはシチューにしなさい、調理教室を使うと良い、材料は冷蔵庫に入っているはずた！

キャスパーは更に全裸の夏実と静香にエプロンを渡した、裸エプロンである。

「逃げ出すなよ！逃げたら命は無いと思え！」

「二人は頷いた…」

夏実と静香は裸エプロン姿で教室をでて調理教室に向かった！

キャスパーは全裸の亜美に命令した、俺様の精子をお前の口で受け止めれと！フェラを強制した。

亜美はキャスパーのペニスを口に含んで舐め始めた！右手で玉をゆ

っくり揉んでペニスのガリを舌で舐め回した！

キャスパーは「いくぞ！」

精子を亜美の口に放出した其れをビーカーに移した。

亜美に新たな命令をした。

俺様の精子をまだ種付けしていない、女子高生達に種付けするように！！

「俺様も食事の準備をするから、帰って来るまでに済ませるんだ！」

亜美は頷いた！

キャスパーは倒れているのぞみを担いで、切り取った乳房を持って教室を出ていった…

残された女子高生達には少しだけ安心した。恐怖が一旦去ったから。

詩織と恵美はロープで吊るされて、左足を上げて、セーラー服姿の

ラブドールで処女喪失されて膣口から鮮血を垂れ流している尚美に近付いて話し掛けた！

「酷いね…大丈夫なの！？痛いでしょう…」

尚美はまだ処女喪失のショックで喋れないでいた…
身体が小刻み震えて痙攣していた。

亜美はキャスパーの命令通りに、先ずは自分の子宮に種付けをしょうと決心した。

震える手でビーカーからスポイトで精子を抜き取って、自分の膣口を開いて中にスポイトを入れた！？
しかし自分では、子宮の位置が解らなく困った…

仕方なく亜美は恵美に頼んだ！

「恵美お願い私の膣口から子宮に種付けしてくれないかな…」

恵美は亜美を見て、「解ったしょうがないわね…亜美に種付けしたら、次は私の子宮にも種付けしてね」

恵美はスポイトを亜美から取って、ゆっくりと処女幕を傷つけ無いように子宮内まで挿入して、スポイトを掴んで精子を放出した。

亜美は自分の子宮内に液体が流れ込んで来たのを感じた…遂にキャスパーの精子で孕んで仕舞うのかと…涙が頬を伝い流れ出した。恵美は「亜美に今度は私の子宮にお願いね…」

「詩織は次は私の中にも種付けしてね…」

涙眼で喋った…

亜美は先に床に座って両足を開いた恵美のスコートを捲り、まだ誰の侵入も許していない、処女の膣口をゆっくり開いた、指で左右に大きく開いて中を覗き込んだ、膣壁の奥にピンク色をした処女幕のヒダが見えた！

恵美は亜美に処女幕を見られた恥ずかしさで顔を両手で覆った！

「痛くないかな?、入れるよ…」

「大丈夫だよ、優しく入れてね」

亜美はスポイトをゆっくり開いた膣口から子宮に向けて挿入した、処女幕を傷つけ無いように慎重にスポイトが子宮口から中に入って行った…

亜美はスポイトを握りしめて、恵美の子宮内にキャスパーの精子を放出した。

恵美も自分の子宮内に精子が流れ込んで来たのを感じた、恵美も排卵日が近い事に気付き…好きでもない男の精子で妊娠させられるん

だと…涙をながしながら哀しんだ…恵美に種付けをした、亜美はビーカーにスポイトを入れて精子を抜き取った。

次は詩織に種付けをするために…

詩織は亜美に「私始まったみたいなの…」

キャミソール姿の詩織はオマンコを右手で触りながら呟いた…

亜美は生理が来たの？

詩織は恥ずかしそうに頷いた！

「なら妊娠の心配はしなくて大丈夫だね」

「それはそうだけど…」

詩織も床に座って両足を開いた…

亜美はそっと詩織の膣口に指を添えたら、中から生理中の証が流れ出した。

「嫌…恥ずかしいから、早くして」

亜美は詩織の膣口を指で左右に大きく開いて、スポイトを差し込んだ、

生理の血で中が良く見えない亜美は、「痛かったら言ってね！」と詩織に告げて膣壁を伝いゆっくりとスポイトを挿入して処女幕を傷つけ無いように子宮口の奥に入れる事に成功して、ほっとした、スポイトを握りしめて、子宮口に精子を放出した。

詩織も子宮内に流れ込んで来た液体を感じていた、生理中の為に妊娠はしないと安心はしていた。

亜美はスポイトを詩織の膣から抜いた…

「どうしょう?後は吊るされている尚美だけだよね」

恵美は、「しょうがないよ、やらなければ、キャスパーに酷い事を去れちゃうよ！」

詩織は「尚美はもう処女喪失させられているから、早く中に精子を入れようよ」

詩織はビーカーからスポイトで精子を抜き取って、尚美に近付いて「ごめんね、此れから種付けするね」

大きく開いた尚美のオマンコに指を当てて、膣口からスポイトを挿入した、処女幕がないためにスンナリ子宮内までスポイトは入った！詩織はそのままスポイトを握り精子を子宮に放出した。

全ての娘に種付けが終わり、吊るされている尚美はまだ放心状態だったが、他の三人は床に大の字に寝た、疲れと恐怖で心身とくたくたただったから…夏実と静香は調理教室でシチューの下ごしらえをしていた、キャスパーから肉以外を下ごしらえする用に言われていた…恥ずかしい裸エプロン姿で野菜を洗ってから、上手に切り刻んでいた。

キャスパーは隣の調理準備室に居た、担いでいるのぞみを台の上に置いて…

まだ生暖かいのぞみの下腹部を眺めていた。

この娘のお腹にはまだ卵巣と卵管に子宮の残りと膣が残っている、取り出してモツ煮にしたら美味しい頂ける、太ももはシチューの具に成る…

切り取った二つの乳房を見て、ステーキにしょうと微笑みを浮かべた…

ザバイバルナイフを出してのぞみの下腹部を切り裂いて、中から卵巣と卵管に繋がっていた残っている子宮を取り出した！続いて膣を上手に取り出した！

机の上から前に切り取った宮口をつかんで、のぞみの女性器を上手に繋いだ、

膣から子宮、卵管、卵巣と並べた…

手鍋に其れを入れて火に掛けた、のぞみの女性器のモツ鍋が出来ると、更にフライパンにオリーブオイルを挽いて火に掛けた、フライパンの温度が上がり、オリーブオイルの弾ける音がしたのを確認して、のぞみから切り取った二つの乳房をフライパンの中に入れた！

焼き方は、表面が少し焦げて中はジューシーが良いからな！

二つの乳房をフライパンで軽く炒めてから、オーブンに入れて調理した。

表面がうっすらと焦げて、乳首が上を向いた二つの乳房のステーキが完成した。

まだのぞみの女性器のモツ煮は完成していなかった…

キャスパーはのぞみの大腿部をザバイバルナイフで切り取って一口サイズのサイコロにした、のぞみの大腿部の太ももはピンク色をした血の滴る美味しそうな肉片に変わった！

キャスパーは其れをボールに山盛りに入れて、隣にいる夏実と静香の調理教室に入って行った…

「新鮮なお肉が有ったから、此れをシチューに使いなさい！」

夏実と静香はキャスパーの手にしたボールに入っていたピンク色をしたサイコロ状のお肉を見て

「綺麗なお肉ですね…」

「美味しそうなお肉ですね…」

と言った…のぞみの太ももだとは知らずに…

夏実と静香はキャスパーからピンク色をしたサイコロ状のお肉を受け取り、調理の続きを始めた！

「美味しそうな柔らかいお肉だから、美味しいシチューが作れますね」

二人は調理に夢中に成っていた、嫌な事を忘れようと…

キャスパーは調理準備室に戻り、のぞみから切り取った女性器のモツ煮を眺めていた、早く食べたいと・・・

種付け（後書き）

何も知らないで調理を始めた夏実と静香…

食事（前書き）

キャスパーの食事はのぞみの身体なのか…

食事

夏実と静香は大量のシチューを作った！
パンとご飯も炊いて用意した。

台車にシチューとご飯の炊飯器を乗せた！
夏実は台車を自分達の教室に運んだ！

静香は食器を台車に積んでパンと飲み物を一緒に教室に運んだ！

隣で自分用にのぞみの生殖器で作ったモツ煮が完成した。キャスパーは閃いた！

まだ学校に残っている女子高生達にも食事を取らせようと…キャスパーは放送室に向かった

中に入り校内放送を始めた

「残って居る女子生徒に告ぐ一年A組で美味しいシチューを作ったから食べたい女子生徒は直ぐに来なさい！」

キャスパーは新たな獲物を狙い、隣の教室に女子高生達を集める事にした。

調理準備室に戻り、調理したのぞみの生殖器のモツ鍋と二つの乳房ステーキを運搬車に乗せて教室に運んだ！

教室では、夏実と静香がシチューを食器に取って分けていた。

キャスパーは其処に自分の調理した料理を台に乗せて運び込んだ、二つの乳房ステーキには蓋がしてあり外からは見えない…

キャスパーは机の上に乳房ステーキを置いた！
のぞみの生殖器で出来たモツ煮の鍋も机の上に置いた！

夏実にキャスパーは、俺様の放送を聞いた女子高生達が隣の教室に来るかも知れないから、君は隣の教室に行き待機しなさい！

と告げた！

夏実は「シチューは持って行かないのですか？」

「持って行くな！隣の教室に集まったら、此方に連れて来るんだ！、逃げるなよ解って要ると思うが…此れを見てみろ、美味しそうに焼けて要るだろう！！」

キャスパーはのぞみから切り取った二つの乳房ステーキの蓋を取って夏実に見せた！

乳首が上に向いてこんがりと焼き揚がった二つの乳房がお皿ののっ

ていた！

「イャ～っ！！」

夏実の叫び声を聞いて他の女子高生達も夏実を見た。

夏実は二つのごんかり焼けた乳房ステーキを見つめていた。

「ギャーッ！なにそれ…乳房じょないよね…」

詩織は信じたく無いように叫んだ！

キャスパーは、ナイフとフォークを取り出した！

見ての通り！美味しそうな乳房ステーキだろうが！

キャスパーはナイフで乳房ステーキを小さく切り取ってフォークで刺して口に運んで食べ始めた！！

「うん美味しいぞ、旨い旨い！」

「君達も早くシチューを食べなさい！」

目の前で、のぞみから切り取った二つの乳房を美味しそうに食べて

いるキャスパーをみて、ほとんど女子高生達には吐き気を催した、食事処ではない…

キャスパーは鍋からのぞみから切り取った生殖器のモツをお椀に入れて、箸で中に入れたのぞみの生殖器をつかんで女子高生達に見せた！

此が何だか解るかな?箸の先にはのぞみの卵巣かあった！

「これはあの娘の卵巣だ、また別の生殖器を箸で掴んでこれは卵管だ、子宮だ・・膣だよ、君たちも食べたいだろうがあげないよ…、俺様の精力剤だからな」

見ていた、女子高生達には目をそらしておう吐し出した。

キャスパーはそんな女子高生達ちは目をやらないでひたすら、二つの乳房ステーキを綺麗にたいらげて、のぞみから切り取った生殖器のモツ鍋も空にした。

食事（後書き）

食事を済ませたキャスパーの次の目的は…

新たな獲物

キャスパーは女子高生達に「冷めない内にシチューを食べなさい！」これは命令だ！！

夏実は仲間に「少しずつでも食べよう、体力付けないと弱ってしまうから…」

静香も「大丈夫だよ、シチューは、最初から最後まで私と夏実で作ったから」

夏実はキャスパーに吊るされている尚美ちゃんを自由にして下さいとお願いした。

キャスパーは尚美に近付いて、手足のロープをほどいた…

夏実は尚美に近付いて「大丈夫じゃあ無いと思うけど体力付けないと、弱ってしまうから…少しずつでも食べてね」

シチューをお碗に入れて、パンと飲み物を尚美の前に用意した。

キャスパーは隣の教室から声が聞こえて来たので夏実に命令した。

「隣の教室へ行き、集まって来た女子高生達を此処に連れて来なさい！解って要ると思うが！逃げるなよ！！」

セーラー服を夏実に渡した

！

夏実はセーラー服を着てエプロン姿に着替えた、しかし下半身はまだ何も着けていない状態のまま教室を出て隣の教室へ入って行った…

中には七人の女子高生達が居た。

その中には生徒会長の姿も有った！

夏実はまたキャスパーの餌食に成るのかな…皆逃げれば良いのに…

しかし声に出して言えないもどかしさを感じていた。

生徒会長の芳野さんが夏実に向かって話し出し！

校内放送が有ったから来てみたけど、何も無いじゃない！どうしてなの！？

夏実はシチューは隣の教室に用意してあります、皆さん隣の教室へ移動して下さい。

生徒会長を先頭に七人の女子高生達は隣の教室のドアを開けて、驚愕した！

中には、ほとんどの女子高生達が全裸に近い姿で居たから…

自己紹介

生徒会長の芳野は「何なのよ貴女達の格好はハシタナイ…」

「こう言う事だよ！」

キャスパーは生徒会長の芳野にライフルの銃口を向けた！

「貴方は一体誰ですか、私達に何を求めて要るんですか？」

「俺様の名前はキャスパーだ、この学園は俺様が全て押さえたから、助けは来ないぞ！」

「命令だ！教室に入って来た順番に学年と名前にスリーサイズとバストのカップそれにセックス経験を教えなさい！これは命令だから逆らったら命は無いからな！」

生徒会長の芳野は「その様な命令には従えません…」

夏実は生徒会長に「会長、逆らってはダメです、嫌でも従って下さい。お願いします！！」

夏実は泣きながら生徒会長の芳野に告げた！「解ったら、順番に応えるんだ！終わったら食事にしなさい、温かい内に食べたいだろう

！！」

生徒会長の芳野は渋々承諾して、後ろの女子高生達にも自己紹介するように指示をした。

私は三年生で生徒会長の芳野です、スリーサイズは解りません、バストはDカップです、セックス経験はあります。

「キャスパーは解った・・此方に来て食事しなさい、その前に此処の皆と同じ様に君にはセーラー服だけに成ってもらうから、セーラー服以外は直ぐに脱ぎなさい！」

「出来ません、私達に何をしたいのですか？」

「君は死にたいのか！！」

詩織も生徒会長に「会長逆らってはダメです、本とに殺されますから」

生徒会長の芳野はスカートに手を掛けて、涙を流しながら、脱ぎ始めた…

「良し！次の娘だ早く始めろ、自己紹介しなから、セーラー服以外は直ぐに脱ぎなさい！」

私は二年生て生徒会長副会長の川口みずほです、スリーサイズは解りません、バストはDカップです、まだ処女です。

恥かしげに、スカートに手を掛けて脱ぎながら話した…

スクールキャミソールの下に白いパンティが見えてきたそれも恥ずかしそうに脱ぎさった。次の娘は胸とお尻が大きな女子高生だった。

私は一年の井上紗知です、スリーサイズは８８、５８、８８です、バストはEカップです、セックス経験はないのでまだ処女です。

キャスパーは井上紗知に「君はセーラー服は脱ぎなさい！素晴らしい乳房が見たいのだよ！スカートだけに成ってもらうから、セーラー服は邪魔だな！」

井上紗知は恥ずかしそうに頷いて、セーラー服の赤いリボンを襟元から外した…

キャスパーは「俺様が脱がして挙げよう！」

と言って、井上紗知のセーラー服の胸当てに右手を差し込んで、引っ張ってセーラー服を破き出した、

手は頭の上に上げなさい！

涙を流し始めた井上紗知はゆっくりと両手を頭の上に上げた…

キャスパーはゆっくりと井上紗知のセーラー服を破いていった…先ずは乳首の辺りまで破くと、白いスクールキャミソールを持ち上げる用に現れた！

乳房の下までセーラー服を破いて一旦其処で破くのを止めた！白いキャミソール越しに乳房を揉むために…

キャミソール越しにゆっくりと乳房に触れて、両手を使い乳房を堪能し始めた。

井上紗知は喘ぎ声をあげ始めた…

「あっ・・・っそんなに強く揉まないで・・あっ・・っ・・い・・」

「だいぶ感じて要るみたいだな！、これは邪魔だな…」

キャミソールの肩紐を引き下げてちぎり取った！

イャーッ…！！

井上紗知は叫んだ！

白いブラジャーから二つの乳房がはみ出しそうに見えた！

キャスパーはブラジャーの下から両手を左右別の乳房を触りだした！

「良いおっぱいだな、食べて見たく成ったぞ！」

ブラジャーはフロントフォックだったので指を掛けて、外した！「ぷりんとした、二つの乳房が露に成ったぞ！」

キャスパーは二つの大きな乳房の上でピント立っていた乳首にしゃぶりついて、舌を使い乳首を転がす用に口の中で堪能した。

「あ～ん・・ダメです…意識か…飛びそうです、もう止めて・・・」

処女紹介

巨乳を堪能したキャスパーは次の女子高生に自己紹介するように命令した。

私は一年の千鶴です、スリーサイズは解りません、バストには自信がありません小さいですから…セックスはまだ体験していません…身長は１５０センチにも満たないような女子高生だった胸の膨らみは無くまだ中学生にも見える幼さが有った

千鶴はスカートのホックをはずしてからチャックを下ろして、スカートを床に脱いだ！

恥ずかしがって、手が震えている、中々パンティを脱げないでいた。

キャスパーは千鶴の細い締まった下半身に興味を抱いた！

この娘の生殖器を見たいと

千鶴に足を開いて、処女幕を見せるんだ！

千鶴は床にしゃがんで恥ずかしそうに、足を開いた。

パンティを両手でゆっくりと脱ぎ始めた…

腰から下げて、千鶴の秘部が見えてきた、まだ毛が生えていない、ツルツルの割れ目！

千鶴は膝までパンティを下げて顔を赤くしてはにかんでいる…

キャスパーはそのパンティを右手で掴んで一気に奪い取った！

早く足を開いて、膣口を両手で大きく開いて、処女幕を見せるんだ！

千鶴はゆっくりと足を開いて、まだ誰にも見せた事のない、オマンコを広げ始めた、

ピンクの大陰口が大きく開いて、まだ皮の被ったクリトリスが可愛く見えた…

千鶴は震える両手で膣口を大きく開いて、膣壁の先にあるピンク色をした処女幕を見せた。

キャスパーは膣壁の先に処女幕のヒダを見て興奮した、

この娘は処女のままにしょう・・・手を浸けないでいよう、後で美味しくこの娘の生殖器をしゃぶしゃぶとして、ごま垂れを子宮幕の付いたままの膣の中に入れて、更に子宮の中にまでごま垂れを入れて、子宮をパンパンに膨らませたい！！処女幕の付いた生殖器を食べたい欲望が渦巻いた！

キャスパーは、もう良いから君はパンティを履きなさい！セーラー

服にパンティ姿で要るんだ！

キャスパーは、この娘の生殖器を早くしゃぶしゃぶで食べたい欲望が後から後から沸き上がってきた。

子宮紹介

次の女子高生が自己紹介を始めた！

一年の菜々美です、スリーサイズは解りません、バストはCカップです、まだ体験は有りません…

キャスパーは「菜々美ちゃんか♪俺様がスリーサイズを測ってやるから腕を頭の上に上げるんだ！動くんじゃ無いぞ！」

キャスパーがメジャーを道具箱から取り出したのを見て菜々美は両手を頭の上に上げた。

「此れから測るから動くんじゃあ無いぞ！」

キャスパーは菜々美の胸の周囲にメジャーを当ててメモリを読んだ！

「８２センチだな、次はセーラー服と下に着ているキャミソールとブラジャーを外すからな！」

「えっ！？胸の計測は終わったんでしょう！？」

今のは外観の計測だ、実測は此れからだからな、トップとアンダーを測るからな、他にも乳輪の大きさや乳首の形を詳しい調べてあげよう、胸が終わったら、ウエスト、その次はヒップた、最後にオマンコを念入りに調べるからな、解ったら返事をしなさい！」

菜々美は恥ずかしい裸体を初めて男に曝す恥ずかしさと屈辱的仕打ちに、声が出ない…

解ったら頷くんだ！

菜々美は仕方なく、ゆっくり頷いた！

キャスパーによる菜々美の全身測定がはじまった。

セーラー服のファスナーをゆっくり上げて、下から脱がしてゆく、余り大きいとは言えない、バストがキャミソール越しに見えた、キャミソールを捲り上げて首から頭の上に上げて、最後に両手を抜いて脱がした。

菜々美の白い肌が現れた、ブラジャーは薄い水色をしていた、

背中のフックを外して、ブラジャーを脱がした。

菜々美は身体中を震わせて嫌がっていた。

頭の上に上げた両手も小刻みに動かしていた。

キャスパーは道具箱から、乳首用の計測機器を取り出して、乳首の直径や高さ、弾力性を測ってゆく…

計測機器が乳房や乳房に触れる度に菜々美は両足をくねくねさせていた。

最初は乳房の先にある乳首の場所…トップバストを測った、そして乳房の下のアンダーバストを計測した。

トップっアンダーの差が七センチだった、「以外と小ぶりの乳房だね、」

またまた恥ずかしさと屈辱的な言葉で菜々美は、下を向いて、震えるいた。

乳輪の直径を計り、乳首の直径や長さを測った。

乳房の弾力性は、キャスパーは色んな角度から、中指を乳房に押し当ててチェックした。乳首も引っ張ったり、摘まんで感触をしらべた。

乳房や乳首に触れる度に菜々美気持ち良さそうな歓喜を上げた♪

「あっ～ダメですオカシク成っちゃう♪」

キャスパーは胸の膨らみの計測は終えた！

「次は生殖器の計測をしょう、床に腰を降ろして足を開きなさい！手は頭の上に置くんだぞ！」

菜々美は床にしゃがんで恥ずかしそうに足を開き始めた。

スカートを捲り水色のパンティが露になった、キャスパーはパンティの中に右手を入れて、手前に引き裂いた！

「イャーっ！恥ずかしい…」

肛門と大陰唇が現れた！キャスパーは大陰唇を開いて小陰唇のビラビラを両手で左右に開いた！

「もっと足を開きなさい！」

菜々美は鳴き声を上げながら、更に足を広げた。

薄いピンクのまだ皮の被ったクリトリスと尿道唇が露に成ってきた、更に小陰唇を広げると膣口がゆっくり開いて膣の中のピンクの壁の先に処女幕が見え始めた！

キャスパーは、計測機器を使い、先ずは大陰唇の大きさを測定した、

縦と横を計り、左右の小陰唇のビラビラの長さや幅を計測した、皮の被ったクリトリスを舌を使い、皮を剥いて舐め廻すように愛撫した、菜々美のクリトリスが少し勃起してきた。

勃起したクリトリスを指で掴んで計測機器で直径と長さを測った。

尿道唇の直径や色も記入して、肛門の大きさを測定した、残るは膣口と締まり具合、それに膣口から処女幕までの距離、更に子宮口までの距離に色、形をデジカメで撮影した。

菜々美は、生殖器をさわられる度に更に淫乱な声を出して、興奮していた。

菜々美の生殖器の測定が終わった！

キャスパーは、処女の菜々美に「中に入れようか、イキタイのだろう♪」

菜々美は生殖器を嫌と言うほどに愛撫された♪

遂には、もう…好きにしてください…菜々美の膣の中からは愛液が止めどなく溢れていた。

処女崩壊

菜々美はキャスパーにより初めての絶頂期を迎え始めた…クリトリスと膣の両方を指で愛撫されて、膣口からは激しく愛液が滴り落ちて、唇からも唾液が垂れ流し状態になっていた。

身体は熱く火照り、息はハアハアと乱れていた。生殖器を指で掻き回され全身がピクンピクンと痙攣してきた。

イック～ゥゥ～ッ！イッチャウ―ヨ―ーオ！！

膣の中から、暖かい液体が止めどなしにどくどく流れて来て菜々美は何回も絶頂期に達して…全身を痙攣しながら気を失った…

キャスパーは、気を失った菜々美の膣口から、最大化したペニスを挿入して、処女幕を突いて子宮口から子宮内に大量の精子を放出した。

菜々美は絶頂期を迎えた後に気を失った為に、処女崩壊の痛みを味わいで済んだ…

キャスパーは菜々美の膣からペニスを抜いた！

中から処女の証の赤い液体とキャスパーの白い精子がどくどくと流

れ落ちた。

ゲーム

キャスパーは残った女子高生三人に命令した！！

名前とスリーサイズを報告後に、下半身を裸に成って、処女の確認しょう、膣の中を広げで見せなさい！

見せながら、イクまでオナニーしなさい！

いち早くイッタ娘はら下着の着用を許す！

最後の娘は俺様に生殖器を全て提供して貰うからな覚悟して、他のふたりより早くエクスタシーを迎えるんだな…

では、始めなさい！

三人は一斉に自己紹介を始めた！

佐々木美幸です、二年生でスリーサイズは解りません、カップはＣ４です。性体験はあります、
美幸は床に座り込み、スカートを捲り、右手をパンティに左手をセーラー服のうえから、胸に当てて触りだした！

一年の和美です、スリーサイズは解りません、バストはDカップです、まだ処女です、和美も床に座り込みで、セーラー服をゆっくり託しあげて、キャミソールの上からゆっくり乳房を触りだした。

一年の江口加奈です、スリーサイズは85、56、84です、バストはDサイズです、性体験は・・
ひっ～っ・・・・
全身を震わせて鳴き声をあげて、床に座り込た・・

加奈がうずくまったのを見て、千鶴が近寄って、背中を撫で始めた…

千鶴はキャスパーに向かいお願いをした。

加奈は入学して直ぐに、実の兄にレイプされちゃったの、…今加奈のお腹には、赤ちゃんが居るかも知れないの…今日一緒に病院へ行こうねと・・・

だから、加奈をゲームから外して下さい…お願いします…

キャスパーは素直に「解った！加奈はゲームから外してやろう、代わりに君がゲームに参加して貰うからな覚悟して、オナニーを始めなさい！

負けたら、君の生殖器はすべて俺様の物に成るから！！

ゲーム開始

遂にエクスタシーバトがスカートした！

美幸と和美に加奈の代わりに千鶴が恥ずかしそうに、床に座り込み、両方の足を開いて、大陰唇を両手で左右に開いて、小陰唇のビラビラを露にして、更にビラビラを左右に開いた～

美幸の皮を被ったクリトリスと薄いピンクの膣口が露になり、膣口からは愛液が滴り初めていた、膣口を拡げて、内壁の中を見せた…美幸は既に経験者の為に、子宮口の奥まで見えた…

美幸は、クリトリスな皮を剥いて、激しく指で愛撫しながら、膣の中にも中指で掻き回し始めた！

「あっ…気持ち～良い～ょ～う！！」

キャスパーは美幸に近寄って、シチューをスプーンですくって、美幸の興奮して、息を吸ったり吐いたりすている口元に運んだ！

「冷めないうちに食べなさい！わらかいお肉の入った美味しいシチューだぞ！」

美幸は美味しいシチューの臭いを嗅いで、興奮も忘れて、スプーンのシチューにじゃぶりついて、口の中に運んだ！

「美味しいです、肉がジュシィで柔らかくとろけますね…」

和美と千鶴はまだ処女の為に、大陰唇をゆっくりと左右に開く手が震えていた、負ける訳に行かない二人も、小陰唇のピンクのビラビラを開く、膣口の中にピンクの壁の先に処女幕を見せてから、まだ皮の被ったクリトリスを二人もゆっくり愛撫しながら興奮し出した…

キャスパーは和美と千鶴にも近寄って、同じように口元にシチューを運んで食べなさいと言って、二人もシチューを口の中に運んだ♪

二人も同じように美味しいですね、特にお肉が柔らかくて、初めての食感ですねと言った！

他の女子高生達も、三人のオナニーを見つめながら、美味しい、と良いながらシチューを食べていた…

のぞみの柔らかく新鮮な太ももの入ったシチューをたいらげている。美幸は、セーラー服の裾を捲り、乳房を激しく気持ち良さそうに揉んでいたら、ブラジャーの中に右手を入れて、乳首の先に指の先を当てたり、親指と人差し指で摘まんだり、愛撫したりしだした…

左手ではクリトリスと膣口の中を激しく指で愛撫して、今にもイキ

ソウな声を上げた！

「イクッッ～ツッ♪」

膣口からは愛液が留まることなく流れ出していた…気持ち良さそうに…

遂に最初のエクスタシーが訪れて、絶頂期を迎えて、膣口の中が痙攣しはじめてから、全身へ痙攣と震えが拡がって、ピクピクと脚や下腹部が震えている。

キャスパーは美幸のエクスタシーを確認して、美幸の右手をあげて、勝利を確定した。

美幸はその場に、ぐったりと…座り込んだ

まだ和美と千鶴は、ビラビラの小陰唇の回りやクリトリスを愛撫していた、恐くて膣口の中には指を入れていない…

乳房もセーラー服の上からしか触っていなかった…

キャスパーは和美に近寄って「応援して上げようかな?負けたら酷い事に成るぞ…どうする?」

和美は虚ろな瞳でキャスパーに訴えていた、初めての絶頂期を迎え初めていたから…

キャスパーは和美の後ろに回り、セーラー服の襟元から右手を中に入れて、ブラジャーの上から乳房を揉み始めた、更にブラジャーの肩紐を肩からずらして、乳首を直接指で愛撫した。

「あっ…っッッ♪」

和美はキャスパーに誰にも触られたことの無い、乳首を初めて攻められ愛撫されて、絶頂期を迎えた…

ピクピクと乳房が、全身が痙攣し出して、床に崩れ落ち着いて行った…

キャスパーは和美の手を上げて二着でエクスタシーバトルを終えた事を告げて、バトルは終了した。

バツゲームは、千鶴に決まった!!

キャスパーは千鶴に近寄って、耳元で囁いた!君の生殖器は俺様の物に成ったからな・・・

千鶴はガックリと肩を落として、項垂れた・・涙を流しながら…キャスパーに純潔を奪われて仕舞うんだと…

千鶴はまだキャスパーに純潔を奪われて処女幕を奪われて仕舞うんだと思っていた…

しかしキャスパーの仕打ちはそんな物では無かった…

裸体解体ショー

キャスパーは新たなショーを思い付いた！

加奈に君はお兄さんにレイプ去れたのか…

加奈は恥ずかしそうに頷いた…

妊娠の心配をして要るんだな…君は、俺様は一応医師だから、俺様が妊娠を確認してあげようじゃあないか！

突然、生徒会長の芳野がキャスパーに話し出した！

「貴方の目的は私達女の子の身体か目的なの?、こんな事をして許されと思って要るんですか?先生や警備員がもう直ぐ此処に来て、貴方は警察に通報されて捕まりますよ…私達を解放しなさい…」

キャスパーは微笑み、生徒会長の芳野に告げた！

「此れから素晴らしい解体ショーが始まると言うのに邪魔をしたいのか君は…」
「貴方はもう直ぐに警備員に確保されて終わりますよ…」

「君は生徒会長何だろう…理事長から話しは聞いている筈だろ！今日からゴールデンウィークが終わるまで警備会社がこの学園の全ての警備をすることが！！」

「だから、貴方は椎名警備保障の警備員に見付かり警察に通報されて捕まるんですよ！」

キャスパーは名刺入れから一枚の名刺を取り出して生徒会長の芳野に渡した！

芳野はキャスパーから手渡された名刺を見て、がく然として、腰から床に崩れ堕ちていった…

名刺には椎名警備保障総括責任者キャスパーと肩書が書いて有った…

「私がその警備保障総括なんだ、理事長を初め先生方には既にお引き取り頂いた！今学園には君達女子高生達しか居ないよ♪」

「そんな…！！」

生徒会長の芳野は肩を落としてがく然とした…私達はどうなるのよ…と涙を流しながら呟いた…

「残念だったね…じきに私の仲間が学園を封鎖する筈だ、学園内に残った女子高生達は、全て隣の教室に集められて、今晩中には孕まされてゴールデンウィークが終わるまで学園からは出れないからな♪」

そんな…私達女の子が孕まされて仕舞うの…嫌だよ…絶対に嫌だよ…！

キャスパーの話を聞いた周りの全ての女子高生達も鳴き声を上げた！

「家に帰りたいよ～っ！！！」

「お母さん～！助けて…」

キャスパーは鳴き叫んでいる女子高生達を無視して、加奈に近づいた！

机を二つ並べて

床に座っていた加奈を抱き抱えて、机の上に寝かせた！

セーラー服だけにして、スカートを脱がし、白いパンティーに手を

掛けて腰から引き抜いた…

足を大きく開きなさい！

加奈は、足を大きく開いた…

キャスパーは道具箱からクスコを取り出して、加奈の大陰唇を拡げて、小陰唇のヒダを左右に拡げて、膣口を露にした。

クスコをゆっくりと膣口の中に挿入して、先端が子宮口に達した処でクスコの取っ手に付いている拡張ダイヤルを回して膣壁を拡げてゆくと、子宮口の中が見えてきた…

キャスパーはライトで子宮内部を照らしたら…子宮に着床した小さい塊を見つけた…

加奈に「君はお兄さんの赤ちゃんを孕んで居るね♪」

其れを聞いた加奈の頬から涙が流れ出した…

やはりお兄ちゃんの赤ちゃんを孕んでいた…お兄ちゃんにレイプされ妊娠させられた怒りと悲しさで切なく成って…

キャスパーは「どうする?このまま、お兄さんの赤ちゃんを孕んで

生むか？」

加奈は首を横に振った…

お兄ちゃんの赤ちゃんは要らない…加奈の悲しそうな表情を見てキャスパーは、

俺様が赤ちゃんを君の子宮から摘出してあげよう…直ぐに済むから安心しなさい、まだ赤ちゃんは着床したばかりだから、小さい…

周りの女子高生達も加奈を心配そうに眺めていたのをキャスパーは見て

君達も加奈に近寄って来なさい…此れから素晴らしい解体ショーを始めるから良く見て置くんだ！妊娠しても極初期なら、身体に影響が少なくて、直ぐに処置も済むからな！

女子高生達も加奈の周りに近寄って、見守る・・・

キャスパーはクスコの中に器具を挿入しつ子宮内部から、着床した小さい塊を掴んだ！

「痛い…ッ！」

加奈の身体が震えていた、恐さと痛みで…

子宮内部から少し鮮血が流れて、塊は子宮内壁から剥がされた…

クスコから、小さい塊が取り出された！

キャスパーは、其れをビーカーに入れて、女子高生達に見せた！

外見ではまだ肉の塊出しかない小さい塊だった！

妊娠して二、三週間しか経っていない小さい塊…を女子高生達も見ていた…

女子高生解体ショー

いよいよキャスパーは千鶴の処女の生殖器を解体することにした…

その前に、千鶴の解体ショーを見て騒がれては困る為に女子高生達を後ろ手にして縛りあげた。

生徒会長の芳野だけは、生意気な口を利いたために、セーラー服の赤いリボンで猿ぐつわをしてからセーラー服を託しあげて二つ乳房を露にして、荒縄で乳房を挟む用に上下で縛った、ピンクの乳首が強調されて上を向いていた。

全身を振るわせて、目からは涙を流しながら、まだキャスパーを睨んでいた！

キャスパーは生徒会長の芳野に近寄って、無理やり足を大きく開き、まだ濡れていない膣口を指で開いて、子宮内まで見た！！

縛られて乳首がピンと勃起している…

キャスパーは乳首にシャブリ附いて舌で舐めまわしながら、右手では小陰唇のビラビラを拡げて、クリトリスの皮を剥いて愛撫する。更に中指を膣口の中に入れて、掻き回した！

セーラー服の赤いリボンで猿ぐつわをされながら芳野は絶叫して、泣き叫ぶ!!

「うっ…ッッ!ううううっーつ!!」

乳首から口を離して、左右の乳首を洗濯バサミで挟んだ!

「いっッーっい!」

更に洗濯バサミで盛り上がった右側の乳首の先端からマチバリを乳房に向かって一本刺した!

「いっーっっぃぃ!!!

左の乳首には、糸のついた針を真横に刺して乳首を突き抜けて先がとびたした!

糸のついた乳首をキャスパーは軽く引っ張ると乳首が飛び出す!!

更にキャスパーは芳野の足を大きく開いて、小陰唇の左右のビラビラにも洗濯バサミを挟んで両側に引っ張る。膣口が大きく開かれた。皮の被ったクリトリスを親指と人差し指で剥き出して摘まんで、引っ張った、更にクリトリスの根元をミシン糸で輪を作り、結んで縛った!

縛ったクリトリスは、先端の色がピンクから紫色に変わっていった…血液の流れが停まったから色が段々と紫色から、薄黒になり始めた…

キャスパーは糸を最初はゆっくりと引っ張って、芳野を苛めていたが、次第に強く引っ張ってゆく…

芳野の先の腫れて色が変わり始めたクリトリスが五センチ以上も延びて千切れそいに成っていた…

夏実は叫んだ！
「止めッて～！！ちぎっれちゃうよ！！」

キャスパーは糸を離した！次にテニスラケットを右手に握り！

なんと…テニスラケットの取っ手の部分を膣口の中に突っ込んだ！
さらにラケットのネットの淵を右足でけりだした！

生徒会長の芳野は猿ぐつわをされた口で唸り声を上げた！

「うっ～っッツ！」
テニスラケットは、芳野の子宮口を強く押し上げていた

痛みでもん絶し出だす芳野
テニスラケットの先をキャスパーは右足で力強く蹴り続けた！

ブリッツ！！

鈍い音がしたと同時に生徒会長の芳野は気を失って倒れた！全身を痙攣させながら…

テニスラケットは芳野の子宮を貫通して、卵管や卵巣を潰して胎内にめり込んで要るみたいだった！

ラケットのグリップの部分は全て芳野の膣口の中に埋もれていたから…

テニスラケットが刺さった膣口からは鮮血が流れ出した・・・

千鶴や女子高生達は生徒会長の芳野が酷い仕打ちに逢っている姿を、後ろ手に縛られながら、涙を流しながら見ているしかなかった…

更に凄い千鶴の生殖器解体が…始まろうとしていた…

キャスパーは千鶴に命令をした。

此れから君の生殖器を全て俺様が頂くからな、覚悟が出来たら、此を飲むんだ！

キャスパーは千鶴にコップに入れた飲み物を渡した！

千鶴は机に寝かされていた身体を起こして、覚悟を決めて、キャスパーから、飲み物を受け取り飲んだ…

美味しい、オレンジジュースだった。

「美味しいジュース、ありがとうございました！」

涙を流しながら、今まで守ってきた、処女をキャスパーに奪われると・・思っていたのは千鶴だけだった…

あれ…段々とまぶたが重く成って、視界がボヤけてきた、頭のなかがフワフワして、ついに睡魔に襲われてしまった…

キャスパーはセーラー服にパンティー姿の千鶴の顔に近づいて、唇にキスをした、口の中に舌を入れて、こじ開けて、千鶴の舌に自分の舌を絡めて、絡め取ったり、吸ったりして、デイプキスを堪能し

た。

キャスパーは唾液が止めどなく、流れ出して千鶴の口の中を汚した…

キスを堪能したあとは、白いセーラー服の上から小ぶりの乳房に手を被せて、ゆっくり揉んだ！

セーラー服の襟元を掴んで胸当てを破いた！さらに赤いリボンを抜いてから、胸元からゆっくり破いてゆく…段々と白いセーラー服が破れて、白いスクールキャミソールに包まれた千鶴の乳房があらわれた…

セーラー服を全て破り、キャミソールの肩紐を肩から脱がして、胸元から左右に引き裂いた…

今度は、二つの乳房を包んだブラジャーが露に成った…

背中に手を廻して、ブラジャーのフォックを外して、肩紐を下げて、千鶴の生の乳房を露にした。

両手で乳房を触り、最初はゆっくりと次第に乳房の形が変わる程に小ぶりの千鶴の乳房を揉んだ！

乳首を親指と人差し指で摘まんでから、口の中に入れて、舌で転がす…乳首に吸い付く…乳首を歯で軽く噛んだ…乳首は勃起して硬く立ち初めていた。

乳首や乳房を堪能したキャスパーは、いよいよ白いパンティーに視線をやり、パンティーの両端に手を掛けて、ゆっくりとずり下げていった、可愛らしい茂みが現れた・・

キャスパーは茂みに軽くキスをした、さらにパンティーを引き下げて、足から抜いた！

両足をゆっくりと開いてゆく…

千鶴の大陰唇とお尻の肛門が見えた！

キャスパーは興奮しながら、小陰唇のビラビラを両側に引っ張ると、皮を被ったクリトリスと尿道口に、膣口が現れた。

キャスパーは、ゴクリと唾を飲み込んだ…

膣口を拡げて、膣壁の先にあるピンク色をしたヒダを確認した、千鶴の処女幕である、此れからこの生殖器を頂くと思うと、キャスパーの口の中に唾液が次々溢れ出していた…

キャスパーは皮を被ったクリトリスの先を指で愛撫した、けしてクリトリスの皮は剥かないようにしながら、新鮮なままの状態で解体したかったから…

尿道口から下腹部に手を這わせて…

この中には尿道口に繋がっている膀胱が有るのだと♪
この膀胱も尿道口に繋げて頂くとしょう…

キャスパーは、いよいよ千鶴の生殖器解体をしょうと新品のザバイバルナイフを道具箱から取り出した！

最初は膀胱からと…眠っている千鶴にキスをしてから、下腹部の膀胱のある辺りからザバイバルナイフを当てて、切り始めた…

処女解体

千鶴の下腹部が少しずつ開かれて、薄いピンク色脂肪を掻き分けてなかから膨らんだ膀胱が少しずつ見えてきた…

キャスパーは千鶴の膀胱を傷つけないように、尿道から尿道口にかけても丁寧に解体していった。

千鶴は呼吸がゆっくりになり、小刻みにお腹を動かしていた。

キャスパーは膀胱を取り出して、ゆっくりと握りしめると、尿道口から薄い黄色い液体が勢い良く飛び出した！千鶴のオシッコである…

膀胱を取り出したキャスパーは次に大陰唇の回にザバイバルナイフを差して丁寧に切り出した…

クリトリスや尿道口、小陰唇、膣を大陰唇ごと千鶴の下腹部から切り離した！

膣口の先には、膣壁や処女幕、子宮口から子宮、更に卵管や卵巣を傷つけないようにしながら、胎内から摘出するのには、時間が掛かっている。

周りの女子高生達も、千鶴の生殖器解体ショーを興奮しながら見守っていた。

何故なら、キャスパーは解体ショーが始まる前に女子高生達に媚薬の入ったジュースを飲ませていたから…

周りで見ている女子高生達も段々と膣壁から愛液が漏れだしてくるのを感じていた…

処女解体ショー

千鶴の下腹部が少しずつ開かれて、薄いピンク色脂肪を掻き分けてなかから膨らんだ膀胱が少しずつ見えてきた…

キャスパーは千鶴の膀胱を傷つけないように、尿道から尿道口にかけても丁寧に解体していった。

千鶴は呼吸がゆっくりになり、小刻みにお腹を動かしていた。

キャスパーは膀胱を取り出して、ゆっくりと握りしめると、尿道口から薄い黄色い液体が勢い良く飛び出した！千鶴のオシッコである…

膀胱を取り出したキャスパーは次に大陰唇の回にザバイバルナイフを差して丁寧に切り出した…

クリトリスや尿道口、小陰唇、膣を大陰唇ごと千鶴の下腹部から切り離した！

膣口の先には、膣壁や処女幕、子宮口から子宮、更に卵管や卵巣を傷つけないようにしながら、胎内から摘出するのには、時間が掛かっている。

周りの女子高生達も、千鶴の生殖器解体ショーを興奮しながら見守っていた。

何故なら、キャスパーは解体ショーが始まる前に女子高生達に媚薬の入ったジュースを飲ませていたから…

周りで見ている女子高生達も段々と膣壁から愛液が漏れだしてくるのを感じていた…後ろ手に縛られて、セーラー服の赤いリボンで全員猿ぐつわをされている唇からは、唾液が流れ出して顎から、首筋が光っている、足を恥ずかしげも無く開いている女子高生もいた…膣壁から溢れ出した愛液体が膣口から滴りでている女子高生もいた…下腹部から床に垂れた液体が溜まっているのが見えていた…

キャスパーは全身をピクピクさせて、膣口の中にテニスラケットを射し込んで鮮血を垂れ流している、生徒会長の芳野に近付いて、乳房を挟んでいる洗濯バサミを外した、マチバリを抜いて、芳野の右側の乳首口に含んだだ、軽く舐め廻してから、乳首から唇を離した…芳野の右側の乳房から先が無くなっていた、丸い膨らみの先の乳首が見当たらなかった…キャスパーに噛み切られていた…

更にクリトリスを縛った糸を勢い良く引っ張ると、芳野のお腹が少し浮かび上がってから、ドスンと床に落ちた…クリトリスでは芳野の身体を支えきれずに、遂に女の子の一番感じる部位が千切れて、教室の天井にぶつかり…床に堕ちて小さく赤黒い肉片と成った…

キャスパーはそのクリトリスを靴のかかとで、ブッチ！と踏み潰して、口の中から芳野のお腹に、

ペッ～ッ！！

と小さな豆粒を吐き出した…

それは、噛みきられた芳野の千切れた乳首だった。

更に糸の付いた左の乳首を思い切り引っ張ったら、乳首が千切れて、窓ガラスまで飛んで、ピチャッと音がして、窓ガラスを赤く染めて…千切れた乳首はに落ちた…

新たな侮辱

キャスパーは処女の千鶴のピンク色をした生殖器を大きめのトレーに入れて、微笑んで、子宮や膣壁の処女幕の有る辺りを両手で触って堪能した。

周りにいる女子高生達もかなり、うっとりとして、要るのを見てキャスパーは、まだ処女の娘が数人要る筈だなと思い出して、全員の処女を頂く事にした、間もなく自分の仲間が、学園を封鎖する前に…

部下達に女子高生達も次々孕まされるだろうから、その前に俺様の精液をたっぷりと彼女達の子宮内に放出して孕ませようと…

テニスウエアのスコートだけの恵美から犯し始めた、媚薬の効果もあり、誰も抵抗しないのは少し物足りなく感じているキャスパーは、恵美を激しくレイプしょうと、いきなり足を拡げて、膣口のなかに極大に勃起したペニスをぶち込んで膣壁を掻き回して、一気に処女幕を破いて子宮口まで乱暴に挿入した。

恵美は「あっ…いいよ～気持ち～良いの～もっと・・突いて…奥まで♪」

初めての子宮到達や処女幕を破かれて痛いのに、媚薬の効果もあり、最初のセックスから淫乱全快の娘だった!

キャスパーは、二つの乳房も形が変わる程に両手でもみくちゃにして、恵美の唇にも舌を入れて、激しくディープキスをして、徹底的に恵美の身体を犯した。

大量の精液を子宮内に放出したら、恵美の子宮内や膣壁は痙攣をして、ぐったりと床に恵美は倒れ込んだ…

孕ませる

キャスパーは教室いる女子高生達に次々とレイプしていた、既に子宮を喪っている三人を除いた１２人の女子高生達の子宮内に精液をたっぷりと放出した、生理中の娘を発見した、キャスパーは全員に排卵誘発剤をジュースに混ぜて飲ませた！

此れで全員が孕む可能性が飛躍的に高く成ったとキャスパーはウキウキして微笑んでいた。

教室に居る全ての女子高生達を孕ませるには、一人種付けを済ませた後には必ず精力剤を使ってペニスを復活させてから、次々に１２人の女子高生達を犯し続けた…奥までペニスを突いて一気に子宮内に精液をたっぷりと放出する繰り返して、いよいよ最後の処女幕をぶち抜きにかかった！

最後の女子高生は詩織に決めていた…

Ｄカップの乳房を包む様にスクールキャミソールを着て、下半身から見えるオマンコからは愛液が垂れているのが見えていた…

詩織も、媚薬と排卵誘発剤により淫乱女子高生に成っていた、自分でキャミソールの中に手を這わせて直に乳首を愛撫している、下半身にも手を這わせて、皮の被ったクリトリスを指で摘まんだり、小陰唇を撫で廻したりして、絶頂期を何回も迎えていた…

キャスパーは詩織に近付いて、「俺様のペニスが欲しいかい、お嬢さん！」

処女の詩織は「身体が…焼ける様に熱いの～早く…頂戴！私の中に…」

キャスパーはにやけて！？

「何が欲しいんだい！！ちゃんとお願いしないと、挙げないよ…」

「大きい…オチンチンを・・私のオマンコに…ちょうだい…」

詩織は膣口を開いてキャスパーを求めていた…

処女の女子高生だとは信じられ無いような姿でキャスパーを求めている。

これも媚薬や排卵誘発剤の賜物だった。

キャスパーは詩織の子宮内に精液をたっぷりと放出して、全員の種付けを終了した、多分ここに居る女子高生達全てが孕んだに違いな

いと確信した。

ハンター到着

キャスパーが教室にいる全ての女子高生達に種付けを終了した直後に奴等が学校に現れた・・・

キャスパーの部下達の車が学校の敷地内に侵入してきたのが見えていた…

大型のトラックと大型のバンに乗って、十数人の作業員達が、台車に大きな荷物を幾つも乗せて、学校内に入って来た。

門は鍵が掛けられて、校庭や外の街灯は全て消された!!

まだ数人の女子高生達がクラブ活動や明日からのゴールデンウィークの計画を　立てて学校の体育館や各クラブ活動中の教室に残って居る筈なのに!!

キャスパーの部下達に学校は全て占拠されて、帰宅前の女子高生達は、キャスパーの部下達に、体育館やクラブ活動中の教室から探されて、隣の教室に集められ始めた…

キャスパーからの指示に従って！！

配置

キャスパーの部下は、四つに別けられて、学校に侵入した。

1班は器具の搬入チームで、教室に吊り下げ道具を初め、強制オナニー用の電動器具や、交流電気用の電動巨大バイブレイター等は膣内に挿入されて何時間も拷問されたら、女子高生達も気絶して、泡を吹いてしまう程の本格的な物まで運び込まれた、ゴールデンウィーク期間中に女子高生達も次々に男どもの餌食に成って仕舞うだろう…

明日に成れば、クラブ活動で新たに女子高生達が登校して来る筈だから…

キャスパーの指示で二班は一階全ての教室を見回り残って居る女子高生の発見と拉致してレイプする事！

三班は二階の教室に居る女子高生の捜索と拉致して、からレイプする事！

四班は体育館とクラブ活動中の教室の捜索とグランドや校庭に残っている女子高生達を探しだして来る事を指示した！四班にはレイプ禁止命令が出されていた。

キャスパーは処女の女子高生達も少しは残したかったから、四班には可哀想だが、レイプ禁止命令を出した、しかしキスや、乳房を触っても良いと付け加えた…

キャスパーの仲間が教室や体育館に侵入した瞬間から、あちこちから、女子高生達の悲鳴が鳴り響いた！

宴

一班の男達はキャスパーの隣の一年A組の教室に宴の準備を始めた…

様々な器具や道具を教室の中央を向く様にセットをして、中央にはバーベキューをするための道具やガスバーナーに鉄板が用意され始めた…

何人かの料理人も居るようだ！料理人は隣のキャスパーから、ある物を預かって、解体していた・・

ピンク色をした、血の滴る新鮮な柔らかい、若い娘達の美味しい肉を…

子宮を摘出された二人の娘の身体を丁寧に切り分けていたのだった…

子宮や卵巣に卵管を潰された、生徒会長の娘は、身体も潰されてそのまま、スープや出汁にされていた・・

キャスパーに逆らった娘は、無残にも原型さえ去れていない…

キャスパー用に、処女幕の付いた生殖器は、ゴマだれのしゃぶしゃぶにされて用意されていた、ピンクの乳首が上を向いた二つの乳房ステーキと共に…

一方二班の男達は、一階の電気の点いている教室を目掛けて一斉に突入して残っている女子高生達を探しだしていた！

一階は三年生達の教室が有る、先ず三年Ａ組は電気が点いていなかったが、男達は教室に電気を点けて確認した、すると暗い教室に女の子が二人でうずくまって…身体を触りあって要るのを発見した！

女の子達は、セーラー服をお互いに捲り上げて、乳房を触っていた…レズだった！
下半身はスカートが乱れて、パンティーが露出して見えていた…

「きゃーっ！！誰なの？」

如何わしい行為の最中に、男達の侵入で二人の女の子達は悲鳴を上げて、男達の入って来た方に視線を向けた！

男達は一斉に二人の女の子に向かい襲い掛かった！

イャ～っ！！止めてー！！

女の子一人に対して男達は三人で襲った、一人は女の子の両手を頭の上で押さえた！

また一人は両足を開いて押さえつけた！

三人めが女の子の腰の上に乗っかり、セーラー服の襟元を両手で掴んで破り、下のスクールキャミソールや白いブラジャーも破り棄てた！

更にスカートをたくしあげて白いパンティーもわしづかみにして、破り取って、ギンギンの勃起した、男のペニスを膣内にぶち込んで女の子達を男三人で代わるがわる犯し撒くって、女の子達の子宮内に大量の精液を流し入れた。

逃げ惑う処女

二班の男達は、捕らえた女の子達を破れたセーラー服だけの姿にして、両手を後ろで縛り、次の教室へと向かった！一階の各教室を全て捜索したら、合計５人の女の子を見つけて、セーラー服を破いて、集団て子宮内にペニスをぶち込んで大量の精液を流し入れて、犯し撒くっていた…

男達は可愛らしい少女を見つけて、二人係で押さえつけた、一人が両手を押さえてもう一人が、少女の唇をうばった！

「イャー～ッ…離して…！！」

近くで他の男達に羽交い締めにされていた、良く似た女の子が叫んだ！

「止めて～妹だけには…手を出さないで…紗智はまだ処女なんです…お願いします…」

涙を流しながら、訴えていた！

男達は、この可愛らしい少女の名前が「紗智」でしかもまだ処女何だと知って！更に興奮して欲情してきた。

「イャー！！イャーッ！」

男達は、姉妹を近づけて並べた！

「お姉ちゃん～助けて…」

「お願いします…私は何でも、言うことを聞きますから…紗智だけは助けて下さい～助けて下さい…お願いします…」

男達は、姉に向かって！

「仲良く姉妹でイカしてヤルからな！」

容赦なく姉妹のセーラー服を胸元から引き裂いて、二人ともにキャミソール姿に成った…

「お願いします、私は何をされても構いませんから…紗智だけは許して下さい…お願いします…」

男達は姉の慈悲に、

しょうがないな！一回だけチャンスをやろう…

今から、一分間妹に逃げる時間を与えよう、その間に逃げるといい！一分過ぎたら追いかけて捕まえに行くからな！

男達は妹の紗智から、手を離した！

良いか！逃げろ今からスタートだ！

男達は時計をみて叫んだ！

「紗智逃げて！、時間がないから私に構わず逃げて！」

お姉ちゃん～ッ！！

紗智はキャミソールにスカート姿のまま教室から逃げて出て行った…

男達は姉を押さえつけて、時計を見ながら、カウントダウンを始めた…

処女の女の子をわざと逃がしてから、追い詰めて強姦したいと、考えての一連の行動だった！

カウントダウンは進んで

残り１０秒９、８，・・・３、２、１、０

男達は一斉に妹の紗智目掛けて走り出した…

紗智は生徒玄関に居た。

鍵が掛かり出られないで、近くに有る消火器や植木鉢を玄関の入り口のドアにぶつけてガラスを割ろうとしたが、ヒビが入る程度でなかなか割れなかった！

男達は玄関にいる紗智を見つけて、一斉に肩や、頭を押さえつけた。

「イャー！！来ないで…離して…！！」

遂に紗智は男達に捕まってしまい、姉の居る教室まで連れ返された！

紗智が男達に連れ戻されたのを見て姉は、がく然と肩を落として震え出した…

「お姉ちゃん…ごめんなさい…逃げれなかった…」

男達は姉妹に「約束通りに逃がしてやったのに！！残念だったな！」

二人に覚悟は出来て要るだろうな♪と男達は告げて…

姉妹をまた隣り合わせに並べて、先程の続きを始めた。

姉に向かい

「何でもするんだと言ったからな！タッブリと君達姉妹の身体を楽しませて貰うからな！処女の子宮を孕ましてやろう…楽しく姉妹を一緒にイカセテ挙げよう」

姉妹の身体を男達はもてあそび始めた！

男達は掛け声を掛けて姉妹を一緒にもて遊ぶ事にした。

姉妹を三人で

手と顔

乳房や上半身

オマンコと下半身

に担当を分けて始めた！

最初は唇を奪うぞ！

両手を頭の上で押さえつけて姉と妹の唇を奪った！

唇を無理開けて、舌を絡めたり、歯茎やのどちんこを触って姉妹の唇を堪能してた。

次ははスクールキャミソールを破り取れ！

姉妹を同時に上半身担当の男がスクールキャミソールのカタヒもを摘まんで、お腹まで引き裂いた！

姉妹の乳房がブラジャー越しに露に成った！

姉の担当が「Ｄカップの８５くらいだな、そっちの妹の乳房の大きさはどうなんだ？」

妹の担当は「妹はＣカップだなちょっとこぶりたがそれがまた良いんだ！」

次はブラジャーを引き裂け！

姉妹はブラジャーを一緒に胸元を掴まれて破かれた！

白い二つの乳房と山の中にピンクの乳首が露に成った！

ゆっくりと乳房を揉み始めた…

まだ乳首には触れないで、焦らしながらゆっくりと乳房を堪能してから、

乳首を舐め廻したり、噛んだりして姉妹の身体を楽しませて貰っている、

顔を担当している男達はディープキスをして、姉妹の唇を激しく汚して居るために姉妹は声を出せないで、涙を流して全身震えていた。

いよいよ下半身担当が叫んだ！

スカートはそのままでパンティを破れ！

男達は、姉妹の足を開いてパンティを見た、姉の担当は此方は白いパンティだ！妹はどうだ？

妹も純白のパンティだぜ！

いくぞ！破り棄てろ！

姉妹の足を拡げてパンティを掴んで引き裂いた！

「おお！綺麗なオマンコだ！」

イャーッ…！ヤメテ…ッ…！

姉妹達は泣き叫び、涙を流して抵抗したが男達は姉妹の足を拡げて、大陰口を開いて小陰口を拡げてまだ皮の被っているクリトリスをしゃぶり口のなかで舌を使って舐め廻したり、歯で噛んだりして姉妹の身体を堪能した

膣口の中に指を入れてかき回し始めた！

痛いよ―ヤメテ～！！

処女の紗智は初めての経験の為に泣き叫んでいる。

乳房やクリトリスをたっぷりと触った後には…

男達は膣内に指をいれて拡げて膣壁の奥にある子宮幕を見つけた！

妹だけでなく姉にも膣壁の奥にピンク色をしたヒダを見つけた…処女幕だった。

男達は指先で姉妹の処女幕に触り感触を確かめていた。

姉の担当男は
「まだ処女幕は破るなよ！姉妹をタッブリ一緒にイカセテから、にしょう」

妹の担当の男は同意した！

「良かった、まだ処女幕は破らないからな」

次はクリトリスの皮を剥いてしゃぶれ！

膣内に指先を入れてかき回しながらだぞ！

姉妹のクリトリスの皮を剥いて口のなかで舌を使って舐めたり転がしたり、

しゃぶって堪能していると♪

姉妹の息づかいが荒くなって、体温が上昇しはじめて額や、乳房か

ら汗が滲み出した。

膣口からも愛液がスッーと流れて指にまとわり付いてきたのを感じた！

男達は互いに姉妹のクリトリスを口に含んでしゃぶったり、皮を剥いて歯で噛んだりしてして堪能した、指を膣口のなかでかき回して感じさせてあげていると、

姉の担当が

「まだ処女幕は破るなよ、姉妹の絶頂期を確認してからにするからな」

妹の担当も同意した！

姉妹の唇をディープキスで塞いでいる男達は一旦キスを止めて、姉妹に聞いた？

「どうだ！？初めての快感は、イキソウか？」

先に妹の紗智が

もう…ダメ…頭が…白く…成って～何かが・・胎内に…暑い…何かが・・死んじゃう～ょ・・！！」

妹は初めての体験に自分の身体の中で何かが起き初めて要ることに気が付きはじめた、此がイク…と言うこてなのかと…
初めてを知らない男達に汚された哀しみと屈辱感は絶頂期を迎える事で、何処かに飛んでいきそうな位の、全身が初めての快感に包まれ出していた。

姉も妹につられて

「イク～ッ！もうだめ～止めて～！！」

姉妹の全身から湯気が立ち込め始めた…体温が急上昇しているのが解る。

膣口の指には子宮から流れてきた愛液がスッーと伝い指を絡めていた。
唇は再びディープキスで塞がれて汚され始めた…

乳首も激しく口のなかで愛撫されたり、歯で噛んだりして刺激して、しゃぶっていない乳房は形が変わるほどに強く揉まれていた。

クリトリスも口に含んで、皮を剥いて歯で噛んだりして刺激していると、膣壁が痙攣しはじめた！

もうすぐに姉妹は絶頂期を迎えそうだ！

姉がだいぶ全身を震えて、息づかいが荒くなってきているのを見て、妹の担当している男達は更に激しく乳房や乳首を愛撫して刺激しだした。クリトリスや膣内も激しく吸われたり愛撫して妹も全身で絶頂期を迎えそうだ！

今だ！

男達は巨大なペニスの先端から我慢汁を出しながら、姉妹の膣唇にペニスを触れた！

二人の男達は姉妹の初めてを奪い始めた、ゆっくりとペニスを膣壁に添わせて膣内に挿入して、処女幕にペニスが触れた処で一旦ペニスの動きを止めた！

姉妹は初めてを奪われる恐怖や痛さは、絶頂期の興奮ど喪われて、目が虚ろになり、全身が小刻みにビクビクと痙攣して、初めての快感を味わっていた。

もちろん唇は男達に激しくディープキスされて声はだせないでいる。

ペニス越しに膣壁の痙攣が激しく成ったのを確認して

突っ込むぜ！

一気に処女幕を破り巨大なペニスは姉妹の初めてを奪い子宮口にペニスの先端が触れた！

男達は更に激しく膣内でペニスを出し入れして、妹の担当して男が

「凄く締まる良い、オマンコだ！もうイキソウだ！」

姉の男も

「此方も最高の膣内（中）だ素晴らしいぞ」

男達は、一緒に絶頂期を迎えて、処女の子宮口から子宮内に大量の熱い精液を放射した。

姉妹も男達の熱い精液を子宮内で感じた、次々に射精されて子宮に注がれる精液に姉と妹は二回目の絶頂を迎えて、遂に気を喪ってしまった…

しかし男達は気を喪ってしまった姉妹の膣内に変わるがわる巨大はペニスをぶち込んで、姉妹の子宮内に大量の精子を放射している、初めてのセックスが一度に何人もね巨大な男のペニスが姉妹の子宮口に触れて射精されて、彼女たちは気絶したままで子宮内を汚され

続けていた。

三班

三班は男達五人で二階の教室を隅々まで探索して女子高生を三人見つけ出していた。

二階は二年生の教室があり、まだ帰宅前のクラブ活動が終わり着替えている最中の下着姿やまだトレナー姿をしている女子高生達を男達は覗き見ていた。

白やピンクのブラジャーやキャミソールにパンティだけの姿を舐め廻して見ていた。

ゴールデンウィーク明けに地区予選が有るために遅くまで連絡をしていた、陸上部の女子高生達はまさにトレナーの上下を脱いで、ブラジャーとパンティだけの姿を男達に曝していた…

男達は三人の下着姿を舐め廻しながら、近づいていた。

女子高生達は一斉に悲鳴を挙げた!

ギャー!近寄らないで…!

男達は彼女らの悲鳴を聞いて更に興奮を覚えながら、三人の女子高生達に近づいて、

男達のリーダーは、薬品のビンを取り出して、ハンカチに染み込ませていた!

薬品の染み込ませたハンカチを三人の女子高生達の口に宛がった、女子高生達は激しく手で口元のハンカチを退かそうとしたが、男達の力には叶わなかった！

三人は次第に意識がオボロになり、手足の力が抜け出して床に沈んでいった…

男達は眠った女子高生を抱き締めた！！

男達は直ぐに彼女達の唇を奪い、無理やり口の中に指を入れて、舌を引っ張ったり、喉の奥まで指を入れた！彼女達は、口の奥まで指を入れた為に、むせかえり、

胃の中の未消化の酸っぱい物を口から吐き出して、むせていた！

男達は眠っている女子高生三人を五人係りで力付くで押し倒して、ディープキスをしたり、ブラジャーの上から乳房を揉み始めた…

三班のリーダーは、薬品を使い女子高生達を眠らせから、強姦をする手筈に決めていた通りに作戦を決行した。

眠らされた女子高生

男達は女子高生が三人しかまだ確保出来ていなかった為に、彼女達の身体を触るダケにした…

五人以上の女子高生達を捕まえて眠らせてから、強姦レイプして、勿論子宮内に大量の精子を放射したかったから…男達は全員で女子高生達を孕ませようと…

次の教室を捜索しはじめた！

電気の点いている教室の前に男達は来て中を覗いたら、白いセーラー服姿の女子高生達を見つけ出した。

二人の女子高生達は、お互いに向かい合って話をしていた！

明日からのゴールデンウィークのスケジュールでも話して要るみたいだった！

男達は教室の入り口で止まり中の様子ながら三班の中の二人の男達が、この教室に居る女の子は俺たち二人で頂くから、お前等は、この眠らせた女の子を堪能していてくれ！！

と言って、二人の男は気付かれ無いように、二人の女子高生の後ろから近づいて、「逝くぞ！」後ろからセーラー服越しに乳房に抱きついた！

男の声がした瞬間に二人の女子高生は男達に胸を触られて悲鳴を上げた！

イャ～っ！何…？どうして…？！

突然男達に抱きつかれてしまった事に信じられないと何が起きたのか…まだ理解出来ないでいた…

男達は、女子高生のスカートを廻り、パンティを見た

1人は白いパンティとキャミソールだった、もう1人は黄色いパンティとキャミソールだった。

キャミソールを捲って、女子高生のおへその下から、パンティの中に右手をいれて、秘唇に手で触れた！

割れ目に沿って指を這わせた！

イャ～ッ！触らないで…！

女子高生達は足をもじもじさせて、抵抗したが、男達は、薬品の染み込ませたハンカチを二人の女子高生の唇に充てた…

女子高生は突然目の前が真っ白に成り初めて？

「何なのよ…これは…何…？」

だんだんと意識がもうろうとして、男達にもたれ掛かる用に意識を喪っていった。

男達は、意識がもうろうとしてきた女子高生の耳元で囁いた！

君の子宮内に俺たちの精子を放射して、孕ませるからな、夢の中でゆっくりおやすみ～たっぷりと夢の中でイカせてやるからな…

女の子は、私の胎内が汚されて仕舞うの？と虚ろに思っつつ意識が無くっていった。

四班

四班は校庭やプールサイトに各屋外灯の点いている場所を捜索しはじめた！
屋外から帰宅しないで、残っている女子高生達を見つけ出して拘束してから、屋内の体育館や施設を捜索することにした。

グラウンドを探していると数人の女子高生達に混ざり男の子を見つけ出してた。

明日からのゴールデンウィークに何処かに遊びに行く為の打ち合わせでもしているのかと近づいて行くと…

「お姉ちゃん、明日からのゴールデンウィーク何処かに行きたいんだけど、お姉ちゃんの友達紹介してよ！」

「何…信人はそれだけの為に私の学校に来たわけ？自分のクラスや学校で見つければ良いじゃあないの！」

「だって…クラスメイトは子供ポイから嫌なんだ！お姉ちゃんの学校には大人の色気がたっぷりの可愛女子高生達が大勢いるからさ、わざわざお姉ちゃんに会いに来たんだよ！」お姉ちゃんは学校の女子高生達三人と明日からのスケジュールを話していた処に弟の信人が現れので、ビックリしていた、折角女の子同士での会話を邪魔されたから…

四班の男達は、三人の女子高生と男の子の会話を聞いていた！

なるほど、あの男の子は、あの三人の女子高生内の誰かの弟なんだと…

男達は、男の子と三人の女子高生達を纏めて、拉致することにした…男の子を使い悪巧みを思い付いたのだった♪

男の子

お姉ちゃんの泉は信人に、「しょうがないな！紹介するからおとなしくしていろよ」

姉の泉は、隣にいる女子高生二人を弟に紹介した。

肩まで髪の毛をダブルティールにしている娘が瞳さん
「瞳です、初めまして、信人くんの事は泉から聞いていましたよ！可愛い弟くんだね！！」

「初めまして、瞳さん♪弟の信人です、瞳さんは、俺のタイプです、宜しくです」

「メガネっ娘の千秋です、宜しくね」

「千秋さんも僕タイプです、素敵なお姉さん達ですね」
千秋は「信人君は…口が上手いですね♪」

４人が紹介しあって居る処に
四班の男達は、ライフルを持って、４人の背後から近づいて、

「おとなしくしろ、声を出したら殺すぞ！」

と一言つげて、４人の傍に来た。

４人は声を掛けてきた男達を見たら、手にライフルを持っていたので…

女子高生達は声を出せなくなり…小さく下を向いて震え始めた…

男達は男の子に

「君の名前と学年を教えなさい！」

「信人、中学三年です…」

「信人君は女子高生の身体に興味が有るのかな?」

「はい…有ります…」

男達は三人の女子高生に

「信人君のお姉さんは誰かな?」泉は「私です…」

「君の名前と学年を教えなさい、あと其処の二人の女子高生も教えなさい！」

「私は信人の姉の泉、高校二年生です」

ツインティールの女子高生は「私も二年生です、名前は瞳です。」

怖くて震えながら応えた！

メガネっ娘の女子高生も

「私も二年生です…名前は千秋です。」

男達はメガネっ娘の千秋に、命令した。

「千秋さんは、男の子のチンチンを見たこと有るのかな?信人君のズボンを脱がして、見なさい！」

千秋は、信人に「ごめんなさいね、命令には逆らえないからズボンを脱がすね…」

男達は信人に「両手は頭の上に置くんだ！抵抗したら、お前のお姉さんを痛い目に遇わせるからな！」

千秋は、信人のベルトを外して、ズボンを脱がし始めた…トランクス越しに信人のチンチンの形がうっすらと感じられた…

男達は、それも脱がしてしまうんだ！

信人のトランクスを指して千秋に命令した。

千秋は、信人のトランクスに手を掛けて、ゆっくりと下げて脱がしていくと、中学三年のおチンチンが現れた！

足からトランクスを抜いて脱がした。

男達は、三人の女子高生達に信人のおチンチンを見る様に命令した。

姉の泉は、弟のチンチンを不思議そうに見つめていた、小学生の時に一緒にお風呂に入った時に見たのとは随分変わっていたから…

男達は女子高生に向かい命令した。

スカートを捲って、信人君にパンチラを見せなさい！

信人君だけ、下半身裸は可哀想だろう、君達もスカートを捲ってパ

ンチラを見せなさい！

「女子高生達はスカートをたくしあげて、スクールキャミソールやパンティを信人君に見せなさい！」

男達は信人に聞いた？

「最初はどの娘のスカートの下を見たいんだ？お姉さんからにするかい？」

「・・・・」

信人は怖くて声が出せないでいた…

男達は「そうか！君が女の子達のスカートを捲って見たいんだ」

「・・・」

男達は女子高生三人に命令した。

「両手を頭の上に置くんだ！此れから信人君にスカート捲ってもらうからな、騒ぐなよ、話し掛けてもダメだからな！おとなしくしろよ♪」

男達はライフルを女子高生達に向けて命令した。

信人にも

今から一人づつスカート捲って中を見るんだ、最初はお姉さんからにしろ、一分以内にスカートを捲らなかったら、お仕置きするからな♪俺たちにお姉さんを犯されて孕まされたいのか？

女子高生三人は、男の犯すや孕ますの言葉を聞いて！泣きそうに成った！

時間がなくなるぞ！スカート捲りぐらい早くやるんだ！

信人は震えた手付きで姉のスカートを捲り、下に着ているキャミソールも捲った、白いパンティが露になった。

男達は「もっとスカートを捲って俺達にも見える用にするんだ！信人はお姉ちゃんのスカートとスクールキャミソールをおへその辺りまで捲って男達に白いパンティを見せた！

姉の顔が恥ずかしそうに、赤く成っていた、足をもじもじと動かして男達の視線に去らされている。

男達は「次はツインティールの娘だ、早くスカートを捲って俺達に見せろ！」

信人は、瞳さんのスカートを一気におへその辺りまで捲った、スクールキャミソールも左手で同じように捲り上げると、白い太ももの

付け根に水色のパンティが有った！

信人は興奮してきた証拠に自分のチンチンが大きく成って上を向き始めた…

男達は信人のチンチンを眺めて！

「次はお前のトランクスを脱がしてチンチンを出してくれた、メガネっ娘だ！」

信人は、メガネっ娘の千秋の前でセーラー服姿の可愛い千秋を見つめた…

男達は信人に

「その娘が気に入ったのか？キスをしたいのかな？なんならおっぱいも触ってみたらどうだ！」

男達はどんどんエスカレートをした命令を出し始めた…

「よし！キスをしながら、セーラー服越しにおっぱいを揉んでから、スカートを捲りなさい！」

信人は興奮しながら、千秋の唇に近づいて、女子高生の憧れの唇にキスをした、柔らかな唇に触れると信人は感動と興奮がいっぺんに噴出した…

次の行動に移るんだ、初めての女子高生のおっぱい…
両手で二つ乳房をセーラー服の上から触り始めた…セーラー服のすべすべの生地の上から、ふくよかに膨らんでいる二つ乳房を触って、先端にある乳首を探し出して摘まみたいと信人は思い付いたて、乳房の上にあるはずの乳首を探し出して摘まんだ…

瞬間…

千秋の身体から、ピックッと動いた…

悪戯

信人は女子高生との初めてのキスを堪能する事が出来た幸せを感じていた…ソフトタッチの軽いキスだったけども…

いまは、千秋のDカップぐらいの二つの膨らみを優しく触って、乳房や乳首の感触を味わっている、千秋には、抵抗や喋る事が禁止されていて、男の子にキスされたり、胸を触られる屈辱や恥ずかしい気持ちを歯を喰い縛って我慢していた。男達はどんどんエスカレートした命令を出す!!

信人に

「もう、キスやおっぱいは終わりだ!スカートを捲ってパンチラを見せてくれ!!」

すると…

別の男が

スカート捲りだけじゃ、君も納得しないなら、序でにその娘も君と同じようにパンティを下げて脱がして下半身を露にしたら楽しいぞ!

「イャ〜ッ!そんなことしないで…」

五月蝿い！！喋るなと言ってある筈たろうが！！

これは見せしめの罰を与える必要があるな…

男達は信人に

スカート捲りは中止だ！

君は女子高生を脱がした事はあるか？ゆっくりと一枚一枚ぬがして、その娘の身体を生まれたままの姿にして見たいだろう…

「・・・・」

信人は、女子高生をこの手を使い脱がしたい…セーラー服にスカートをブラジャーにパンティを全てこの手を使い脱がしたい…と一瞬思った…声には出せなかった…目の前にいるメガネっ娘の全裸を見たい…触りたい…

男達は、メガネっ娘に騒いだり、喋ると今度こそ、俺達が君を犯して孕ませるからな！

と告げた！

千秋は、信人を見つめながら、両手を頭の上に上げて、涙が頬を伝い流れていた…

此れから、信人に脱がされて、男達の目の前で自分の裸を曝すと・・・

さあ、先ずはセーラー服の赤いリボンを外してから、セーラー服を脱がしなさい！

信人は、千秋に近づいて、セーラー服の胸元に付いている、赤いリボンに手を掛けて外した…

続けて、セーラー服の脇のファスナーを少しずつずらした…
触りたい、胸を触りたい…と思っていた。

男達はその仕草に気が付いて

「その娘のおっぱいに触りたいのか？好きにしていいぞ♪キスしたり、おっぱいやお尻を触りたいだけ触ると良い…存分に女子高生の身体を味わうんだ…」

悪戯2

信人は男達に目の前のメガネっ娘の身体を味わうんだと言われて、直ぐに千秋の唇目掛けて自分の唇を併せた、今度はゆっくりと舌を千秋の口の中に入れて、初めてのディープキスを味わった…舌を絡めたり、自分の口の中に吸い込んだりしながら、二つの膨らみを両手で激しく揉んだり、乳首を摘まんで堪能した。

千秋は、目が虚ろに成り、気持ち良さそうな息をしだした。信人は、セーラー服を少しずつ捲り上げてゆく…

腰から、胸の下に更におっぱいまで捲ってキャミソール越しに千秋の膨らみを両手で揉んだ、セーラー服がおっぱいの上で止まっている、キャミソール越しに千秋の膨らみを愛撫した、更にセーラー服を首まで捲り上げてから、一気に頭から脱がした!

上半身キャミソールの白い生地に包まれた千秋のボディを眺めてから、スカートのホックを外した…

スカートは地面にゆっくりと落ちてゆく…

千秋の白いスクールキャミソールが全身を包んでいる姿を、恥ずかしそうにしている顔からゆっくりと眺めて、二つの膨らみ乳房を・・・

くびれた腰からお尻を…

更に白いスクールソックスから紺のスクールシューズを眺めた！

憧れていた女子高生のそれも…キャミソール姿の可愛い千秋を視姦するように…眺めた！

千秋は声が出せないで、足や頭の上に上げている両手を振るわせていた！

悪戯3

信人は白いスクールキャミソールの肩紐に手を添えて引きちぎり、キャミソールの生地を掴んでゆっくりと肩から下に…引き下げ始めた…

白いブラジャーが見えてきた…二つの膨らみを包んだ柔らかい乳房の山が信人の興奮を一層に刺激した。

更にキャミソール引き下げて、お腹から腰に…

可愛い千秋のお腹の真ん中におへそが見えてきた…

ゆっくりと引き下げると、初めて見ることになる、千秋の白いパンティが少しずつ見えてきた…

お尻がプリンと露になり、キャミソールは太ももから膝に下げられて、遂に地面に落ちて、千秋はブラジャーとパンティだけの下着を男達の視線に曝した!

信人は、ブラジャーの上に両手を被せる用に添えてゆっくりと乳房を触り、もみくちゃに揉んだり、パンティの上から、千秋の秘密の花園を触り始めた…

千秋は、下着姿を男達や信人にさらして、恥ずかしさの余り、眼を閉じてしまって、口をパクパク動かして我慢していた。

悪戯4

信人はメガネっ娘のブラジャー越しに乳房を揉んで興奮が段々と込み上げてきて、チンチンの先に我慢汁がにじみ出てきて、光だした…

それを見ていた男達は

信人の姉に

「弟のチンチンが、メガネっ娘の身体を見て、弾けるばかりに勃起しているのが見えるだろう、弟のチンチンをしゃぶって、お姉さんの口の中でイカせるんだ！」

姉は信人のチンチンが大きく勃起して、先から我慢汁を出して射るのをみた、何て大きく反りだしているんだろうと、こんなのが女の子の胎内に入るのだろかと!?

弟のチンチンを見て少しずつ興奮を覚え初めていた…

弟のチンチンに近づいて、大きく反りだした物を目の前で眺めていた。

男達は姉に

「両手を使って、チンチンの先にあるガリを握ってゆっくりとしごいてから、口の中に入れて、奥までチンチンを加えて、舌で先を舐めながら、入れたり出したりして、イカせるんだ！」

信人はメガネっ娘の乳房や白いパンティに夢中で姉が近づいてきて、自分のチンチンに今にもしゃぶり付こうとしているのに気が付いていない…

姉は、勃起した弟のチンチンに右手を添えた…

熱く、ピクピクと波打っていた♪

信人は姉にチンチンを触られて、ビクンとして何が起きたのかと？

メガネっ娘の唇を愛撫するのを止めて！？自分の下半身に眼を向けると…姉がチンチンを触っているのを…

自分の姉がチンチンをしごいていた♪

男達は信人に

「お姉さんに口でイカせて貰いながら！君はメガネっ娘を全裸にしなさい！」

信人は姉にチンチンをしごかれて、全身が興奮に包まれてきた。

早くメガネっ娘を脱がして、全裸の素肌を見たい…

ゆっくりとブラジャーの背中に手を廻して、ホックを外した…肩からブラジャーの紐をさげたら、白い肌から、二つの膨らみが現れた、先っぽにピンクのさくらんぼが見えてきた…綺麗だ！

ピンクの乳首をしゃぶってみたくなり、口に含んだ！

メガネっ娘は眼を閉じながら、息づきかいが荒くなって、乳首が固く勃起しはじめた♪

悪戯5

信人は姉にチンチンをしごかれて、今にも絶頂期を迎えようと、ピクピクと波打っていた…

イクマエに…メガネっ娘のオマンコを見たい…

乳房から両手を離して、パンティの両脇を掴んでゆっくりと下げると、股の付け根にうっすらと茂みがあらわれた…

更に膝ぐらいまでパンティを下げ降ろした…

茂みに隠れてメガネっ娘のオマンコが良く見えない!?残念だ・・・

更にパンティを脱がして、片方の足首を持ち上げてパンティを脱がした!

メガネっ娘は全裸になり信人や男達の視線に去らされた…

遂にはメガネっ娘は地面にしやがみ込んでしまった…

姉ちゃんイキそうだ…
イク・・イク♪

信人は脱がした直後にお姉さんの口の中に精液を放出しはじめた♪
暖かい液体が口の中に流れ込んでくる、びくびくとチンチンを震えさせながら…
姉は弟の苦くて生臭い精液を舌で味わっていた…
眼は虚ろに、唾液と、弟の暖かい精液を口から、垂れ流した・・・

男達はメガネっ娘に命令した！

立ち上がって、両手は頭の上に上げて、俺達にも君の素晴らしい身体を見せなさい！足は開いて措くように！！

メガネっ娘はゆっくりと両手を頭の上に上げて、立ち上がった…

男達は姉に
「弟の精液を両手の中に出して、見せてからゆっくりと舐めて飲み込むんだ♪」
姉は口の中から暖かい弟の精液を両手の中に出して、男達に見せてからゆっくりと舐めはじめた、ごく・・ごくと苦い弟の精液を舌で味わって飲んだ…

信人に
「メガネっ娘の足を拡げてオマンコの中を見たいだろう！」
信人は姉にイカされたばかりだったが…見たい♪と思って頷いた！

「なら、見るがいい♪女子高生のオマンコを触るのも初めて何だろう？但し膣内には指を入れるなよ…クリトリスや小陰唇は触ったり、しゃぶっても良いぞ♪」

男達はメガネっ娘に
「君は処女なのか？」

彼女はゆっくりと頷いた…

信人もその仕草を見て、股のチンチンが脹らみ始めた…処女の女子高生のオマンコを見れるんだ、更に触ったり、舐めたり出来るんだ♪

信人はゆっくりとメガネっ娘の太ももを開いてゆくと処女の大陰唇が現れてきた、更に開いてゆくと小陰唇のピンクのビラビラが露になり、左右に開いて、皮の被ったクリトリスに尿道口に膣唇が露に見えてきた…初めて見る処女のオマンコにチンチンは更に巨大化してきた。

メガネっ娘は恥ずかしさの余り眼を閉じて、涙を流しながら、全裸の身体を震わしていた。

四班2

四班の別動隊は体育館に侵入していた。まだ電気が点いていた為に、入口のドアから中を観察したら…

体操部なのか?体操着すがたの女子高生達がいた。
クラブ活動を終了して、掃除やあと片付けをしている最中だった。

中に居る人数を数え始めた…1、2、3、…　まだ随分残っていた♪

全員で八名の女子高生達を確認した、まだ他にいるのかも知れないから、用心してから、体育館に突入しょうと、ライフルを用意してから、再度中の人数を数えた!

やはり八名の女子高生達を確認した、テキパキと後片付けをしている、先輩達に言われた、一年生みたいだった。

男達は、三人で一斉に体育館に突入した!

大きな声で叫んだ!
「皆!注目するんだ!」

急に男達の侵入に後片付けをしていた女子高生達は、なにが起きたのかと?男達の姿に視線を向けたら、ライフルを手にした怖そうな

男達三人がドアから入って来るのが見えて、一斉に叫び声を上げた！

ギャー～ッ！

キャー！キャーッ！！

女子高生達は一斉に体育館の隅に逃げ出した…

「騒ぐな！動くと容赦なく撃つからな！おとなしくするんだ！」

集合場所

男達は女子高生におとなしくするんだ！と告げた。

女子高生達が

「貴方達は誰何ですか？目的は・・・！？」

君達は、おとなしく我々の言う通りにすれば其れで良いんだ！質問は許さないからな、逃げたら俺達は容赦しないで犯して孕ませるから覚悟しろ！

俺達は女子高生達を体育館の真ん中に集まる様に命令した。

体操着の女子高生達は、ゆっくりと体育館の中央に集まると、俺達に犯されてしまうのか？または恥ずかしい想いをさせられるのかと、ひそひそ話をしていた…

「五月蝿い！！喋るんじゃあ無い！！静かにしろ！」

「犯されたいのか？」

男達はキャスパーに決して女子高生達を犯してはいけないと忠告されていたが…

目の前に恥らしい格好をした、初々しい女子高生を見詰めて、早く犯したい！！子宮内に精子をぶちまけたい…と内心思っていた。

男達は

「君達の他に仲間は居ないのか？」

と彼女達に聞いた！

「はい！先輩達は、私達一年生に後片付けと掃除をしろと告げて、帰宅しました、ここにいる８人の一年生だけです。」

男達は「解った！」

と一言告げた。

其処に校内放送が入った

キャスパーが遠隔操作で、放送室経由で、話し出した！

定期連絡！定期連絡！

各班に告ぐ、只今よりすぐに、捕獲した女子高生達を一年Ａ組の教

室に案内しろ！体操部や私服の女子高生達にセーラー服姿に着替えさせてから、連れて来るんだ！

定期連絡を終了する♪

体育館の男達は、目の前の体操着すがたの女子高生達に直ぐにセーラー服に着替える様に命令した。

「私達の制服は、更衣室のロッカーに有るから…更衣室に行かないと着替えられません…」

すると男の一人が、目の前に居る女の子に命令した。

「君の名前とスリーサイズを教えろ！」

「名前はめだかです！スリーサイズは解りません！」

俺が調べてやるから、後ろを向くんだ！

めだかはゆっくりと後ろを向いた…

男はめだかの後ろから、胸を触りだして、体操着の上から乳房をゆ

っくりと揉みはじめて、「８５のCカップだな、」腰に手を廻して「５６ぐらいかな?」
お尻や太ももをゆっくりと触ったりして、「８８位かな?良く覚えて措くんだ!」

「俺と更衣室に行くぞ、皆のセーラー服をここまで持って来るんだ!」

俺は、めだかの右手を自分の目の前まで引っ張ってめだかの唇にキスをした!

挨拶代わりだ!更衣室まで一緒に行くぞ!

めだかはいきなり俺とキスをして、あたふたした!

教室に集合

キャスパーは各班に指示を出した！

今から１０分以内に一年Ａ組に集まる様にする事！捕まえた女子高生にはセーラー服を着せる事が義務づけられた。

体育館では、更衣室にセーラー服を取りに行った女子高生と男を四班の男達と体操着すがたの女子高生達は待っていた。

男達は体操着姿の女子高生達に、体操着を脱いで、下着だけの姿に成るように命令した！

「時間がないから直ぐに体操着を脱ぐんだ！セーラー服が届いたら直ぐに着れる様に準備しなさい！」

めだかと男は更衣室に入って、ロッカーに入っているセーラー服やスクールキャミソールにスカートを出して集めた！全員の制服を抱えて、体育館に急いで向かった！

体育館に着いためだかは、仲間が下着だけの姿に成って要るのを目にして、恥ずかしさと、ビックリしたことにより…入り口で固まった…

男達はめだかに

早く体操着を脱いでセーラー服に着替えるんだ！
と命令した。

めだかは頷いて、ゆっくりと体操着に手を掛けて脱ぎ始めた！下着姿を男達の視線に去らす恥ずかしさで、直ぐには脱げないでいると

「何ぐずぐずしているんだ、犯してやるぞ！！」

男達から催促の罵声が飛んだ！

めだかは、震えながら体操着を脱ぎ捨てて、自分のスクールキャミソールを手にして、頭から被り着た、続けて、スカートやセーラー服を着て身なりを整えた。

他の仲間の女子高生達は既にセーラー服にスカートを履いて見出しなみを整えていた。

教室

キャスパーの指示で各班の男達は、次々に一年A組に向かっている最中！

その教室では宴の準備が既に出来上がっていた…

真ん中を囲む用に置かれた機器が並べられて…

真ん中には宴の為の、柔らかくピンク色をした血の滴っているお肉が、バーベキューの材料として、股肉や骨付きカルビにハラミ、内臓のモツ煮、キャスパー様用に乳首の付いた二つの小振りなスペシャルステーキに処女のオマンコの大陰唇から小陰唇やクリトリスに膀胱と尿道口や膣唇から膣壁には処女幕付、更には子宮唇、子宮から卵管に卵巣まで繋がった、フルセット生殖器しゃぶしゃぶが用意されていた。

後はメインの女子高生達の到着を待っばかりであった♪

いち早く教室の前に到着したのは、三班だった！

直ぐ下の二階に居たので、到着は早かった！三班は七人の女子高生を眠らせて連れて来ていた！

あれから更に二人の女の子を探し出してから、薬品で眠らせて連れて来ていた！

三班の男達は、拘束器具に連れて来た眠っているセーラー服姿の女

子高生達を天井から吊るしたり、分娩台に設置したり、M字開脚に脚を開いて固定してから、宴の席に付いた…

女子高生達は、これから男達の遊び道具にされて仕舞うのだが、まだ全員が夢の中にいた。

処女検査

次に教室に到着したのは四班の別動隊だった！

８人のセーラー服姿の女子高生達を連れて教室の前に到着した。

宴の準備でまだ女子高生達に触ることも出来ていなかった男達が、待ちに待っていた、手付かずの女の子達が来たのだ！

一班のリーダーは此処で提案をした、８人の女子高生達の中に何人処女幕のある女の子が居るか？

見事に正解した男には、女子高生の中から１人選んで朝まで自由に出来る！と言う景品がついた♪自分専用のセーラー服姿のメイドである。犯して処女を奪おうが子宮内に精子を中だしして孕ませ様が自由である♪

一班の男達は８人の女子高生達に教室に入るように命令した。

一班の男達は５人
それぞれ、処女幕のある女子高生は３人予想が１人
４人予想が２人
５人予想が１人
６人予想が１人
だった！７人や８人予想は居なかった！

８人の女子高生達は、順番に教室に入って来て中を見渡して、全員が驚いて目を見張っていた、先に連れて来られた女の子達が、眠らせられて、吊るされたり、Ｍ字開脚にさせられて、下着が見えていたのだった…

「何よこれは…?!?」

「イャ～ッツ!」

「五月蝿い静かにしろ!」

リーダーは女子高生達に命令した。

「パンティを脱いで、脚を拡げるんだ、両手は頭の上に置いて、声を出すなよ!騒いだり、暴れたら直ぐに犯してやるぞ!勿論子宮内に精子をぶちまけて孕ませるからな!」

女子高生達８人はゆっくりとスカートを捲り、パンティに手を掛けて脱ぎ始めた…

男達は女子高生達の脱ぐ姿を視姦していた。

パンティの色は白が３人、水色２人、青とピンクに水玉が１人づつ

だった。

女子高生達は恥ずかしさで涙を流しながら、震える手でパンティを脱ぎはじめて、腰から、膝に下げていた、女の子達のオマンコが見え始めた…

うっすらと茂みのある娘や丁寧に両端を剃って毛並みを整えている娘もいた。

一体この女子高生達の中に何人処女の女の子が要るんだろかと!?わくわくしながら、男達は女子高生達のパンティを脱いでいる仕草を堪能していた。

全ての女子高生達が足首からパンティを抜いて、脚を拡げ始めた…

リーダーは女子高生達を一列に並ばして、1人づつ床に座って、名前とスリーサイズを申告してからM字開脚をするように命令した。

身体検査

最初の女子高生が自己紹介を始めた！

紀子です、スリーサイズは解りません！

すると一班のリーダーは

丁度俺達男と女子高生達は同じ８人づつ何だから、男どもは、女の子の後ろについて、身体検査をしょうじゃあないか、オマンコの中身もこまめに検査するんだぞ！

男達は女子高生の後ろに順番に着いた…

紀子の後ろにはリーダーが付いた！

めだかの後ろには、一緒に更衣室に行った男が居た。

男達は、前に要女の子のセーラー服の上から胸の膨らみにに両手を当てて触りだした！胸当てのホックを外して、胸元から、セーラー服の中に手を入れて、キャミソールやブラジャーの中に手を入れて、直接乳房や乳首を触りだした男もいた。

順番に名前だけを言うんだ！後ろの男どもは、サイズを調べて報告する事！無論膣壁の中のヒダも確認して報告する事！

先ずはリーダーが男達に手本を見せた！
紀子の二つの小振りな膨らみに手を添えて揉みながら、バスト８２のＢカップ、腰に手を充てて５６、お尻に触って、８５位だな！
さあ！お嬢さん脚を拡げるんだ！

リーダーは、女子高生達に「決して触られても、脱がされても騒ぐんじゃあ無いよ、叫んだり、騒いだらその場で強姦して、子宮内に精子をぶちまけて、孕ませるら覚悟しろよ！」

再度念を押した！

さあ…脚を拡げるんだ、自分で大陰唇を拡げて、ビラビラの小陰唇を拡げて、クリトリスや尿道口に膣唇を俺様に見せてくれ、膣唇も両手で大きく開いて、中まで見える様にするんだぞ！

紀子は震えながら、脚をＭ字開脚して、両手を使いオマンコを開いてまだ皮の被ったビンクの突起や可愛い尿道口にまだ使っていないみたいな薄いビンク色をした膣唇を見せた！

さあ！膣唇を開いて膣内（中）を見せてくれ！

紀子は震える両手を使いゆっくりと膣唇を開いた…

膣壁はビンク色をしていて、中から液体が漏れて出していた、更に膣壁の先にはビンク色をしたヒダが膣壁に付いているのが見えた！
リーダーは皆なに告げた！

「紀子は処女だ！」

さあ、次は順番に俺がしたようにするんだぞ！

身体検査2

リーダーに続いて身体検査は行われた！

次の女子高生はめだかが指名された。

名前はめだかです、スリーサイズは、８５、５６、８８です先ほど後ろの男に言われた通りにサイズを言った！

後は恥ずかしそうに、脚をＭ字開脚に拡げて、オマンコを両手で開いて、クリトリスや膣唇を見せなければならない…震える両手で膣唇を開いて膣壁内部を開いて見せた…

めだかも膣壁の奥にピンク色をしたヒダか有った！

男は「めだかちゃんも処女です！！」

と告げた！

最初の女の子２人が処女だった。

３人めが紹介された。

「名前は知抄です！！」

直ぐに後ろの男がスリーサイズを告げた、８６、５５、８８です、多分Ｄカップです。

知抄も恥ずかしそうに、両足をＭ字開脚して開いた…

すると後ろにいた男が知抄の前に来て、オマンコを覗き込んだら、ナプキンが見えた！？

男はわくわくして、「君は女の子の日なんだね？」

リーダーに男は告げた！

「この娘は、テーブル確定です！！」

知抄はテーブルって何？と思った…

男は、知抄のオマンコの中を覗いた、知抄も両手で膣唇を開いて、生理中の膣壁の奥を見える様にした。

男は、生理中の膣壁を鑑賞出来て、ドキドキした、膣壁の奥にピンク色をしたヒダか有った！

「この知抄ちゃんも処女です！！」

続いて

「私の名前は美紀です…私処女じゃあ有りません！」

自分から、セックス経験者だと告げた！

後ろの男はスリーサイズを発表した、「８８、５６、９０のバストはEカップの大きな乳房です！！」

美紀は

「私もM字開脚するんですか？」

と男に尋ねた！？処女では無いと告知したから、脚を開かなくても良いと思ったから…

しかし男は

「処女幕検査だけではないから、脚をM字開脚に開いてオマンコを見せなさい！」

と命令した。

美紀は仕方なく、脚をM字開脚して、両手で大陰唇や小陰唇のビラビラを開いて見せた…

男は美紀の生殖器の形や色を念入りに見た、やはり膣壁の奥にヒダはみあたらかった…

「美紀は経験者でした！」

４人目で初めて経験者がいた！全員一年生なのに処女の娘が多い、名門女子高生だからかとリーダーは思っていた。

身体検査3

５人目が紹介された。

名前は麻里奈です…

後ろからサイズが報告された「８６、５５、８８のＣからＤに限りなく近いカップです、発育期だからまだまだ膨らみますね、この娘は」

麻里奈も恥ずかしそうにＭ字開脚をして、オマンコを拡げて、膣唇の奥深くを見せた…震える両手で小陰唇のビラビラを開いて、見ず知らずの男に初めてを去らしているだけで、身体中から哀しみや恥ずかしさがにじみ出ていた。

男は、皮の被ったクリトリスやピンクの尿道口に膣唇の奥に膣壁に張り付いたピンクのヒダを見つけた！

「この娘も処女膜は有りました！」

６人目が紹介された。

私は君枝です、処女では有りません…

男は君枝の胸や腰からお尻を触って、サイズを告げた！８８、５６、９０のグラマーなＥカップな娘です！！

君枝も脚を開いて、オマンコを男の視線に去らした…

男は君枝の生殖器をみて、やはりかなりの経験者だと察した！小陰唇のビラビラが少し黒ずみセックスを何回も経験しているみたいだった！

膣唇からは愛液が漏れていた！

男に生殖器を去らして興奮しているみたいだ・・・

7人目が紹介された。

「名前は冬美です、まだ処女です…膜は少し破けて要るかも…」運動部の娘達は、激しい運動を毎日している為に、セックスの経験が無くても、処女膜が千切れたり、損傷する場合がある。

リーダーは、その辺は理解していた。

冬美は、心配そうに脚を開いてオマンコを男に去らした…膣唇の奥に処女膜は有った！やはり少し破けていたが処女である事は確定した。

「この娘も正真正銘の処女です！！」

男はこの娘を気遣い、きっぱりと告げた！

最後の女子高生が紹介された。

「名前は真木です！私も生理中だから恥ずかしいです」
後ろの男が真木の身体を触りサイズを報告した「８４、５４、８３
バストはＣカップです！！」
小柄な女子高生の真木は身長が１５０センチ有るかどうかぐらいだ…

真木もパンティの中にナプキンを入れていた…

恥ずかしそうに、パンティを脱いでいた、オマンコにはナプキンが
張り付いて、生理の血液で少し赤く染まっているのが見えた…

真木は恥ずかしそうにナプキンを剥がして、小陰唇のビラビラを両
手で左右に開いたら、ピンク色をした皮の被ったクリトリスや同じ
くピンクの尿道口に少し生理の鮮血が漏れている膣唇が露になった…

震える両手で膣唇を開くと膣内の壁は鮮血に染まっていた、奥には
鮮血に染まっているヒダか有った！

この娘も処女膜は有りました、テーブル確定です。

８人の女子高生の処女検査の結果、６人が処女だった。

見事に正解したのは、めだかの傍にいた男だった。

男は、正解の褒美にめだかを指名した。

次に教室の前に到着したのは、四班の校庭担当が女子高生達と一人の男の子を連れて来た。

女の子はツインティールの瞳にメガネっ娘の千秋
それに姉の泉
弟の信人

他に探して来た女子高生が更に3人いた、セーラー服にスカート姿だったが…
足元を盛んに気にしていた…

連れて来た四班の男達が、教室に先に入り、女子高生達と男の子を教室に招く!!

四班のリーダーは、男の子の信人がシュンとして、固まって要るのを見て!

余興を思い付いた!

廻りにいる一班のリーダーや男達に向かい!

「姉弟のレイプショーを見せて挙げよう♪」

姉の泉は、男の発言を聞いて、床に倒れ込んでしまった…男達や友

達の目の前で実の弟に強姦されて終う…大切な処女膜は信人によって破られしまう…

此れから出逢う素敵な恋人との為に守ってきたのに…

涙が溢れて頬を伝い床な滴り落ちた…

弟の信人は、まさか!?大勢の男達が居る前でお姉ちゃんを犯すのか?女子高生達もいっぱい居るのに!?

お姉ちゃんのクラスメイトや仲間に、俺がお姉ちゃんを犯す処を見られてしまうのかな…

リーダーは信人に命令した!

お姉ちゃんのセーラー服を破り捨てろ、スカートも脱がさないで破り捨てろ!

此れから君にはお姉ちゃんをレイプしてもらうからな、激しくセーラー服やキャミソールにブラジャーやパンティも両手で引きちぎって破り捨てろ!

姉にむかって

弟に強姦されて、泣き叫ぶんだな…いくら大声を出しても誰も助けには来ないけどな♪

姉の泉は、全身から震えだした!

怖い、恥ずかしい…悔しい…

リーダーは信人に

さあレイプするんだ、思い切り激しく、セーラー服を破け！

信人は姉に近づいて…

お姉ちゃんごめんね・・・

姉のセーラー服の胸当てを両手で掴んで思い切り引っ張ってセーラー服を襟元から左右に！！引き裂いた・・

「イャーッッッ！ヤメテ～ッ…」

姉は泣き叫ぶ

続けてキャミソールも胸元を掴んで真ん中から引き裂いた！

「のぶと～ヤメテ～ッ…」

白い二つの乳房を包んだブラジャーが露になった…

信人はためらいなく、スカートも腰に手を入れて、引き裂いた！

イャーッ！
イャーッッッ…！

姉は涙を流して泣き叫ぶ…

リーダーや男達は弟がお姉ちゃんを今まさに犯して強姦する瞬間を
見て興奮している！！

信人は下着姿の姉に

ごめんね…悔しいね

と一言いって

ブラジャーの谷間を握って引き裂いた！

姉は両手を乳房に被せて恥じらいを隠した！

信人はパンティをわしづかみにして引き裂いた！

姉のオマンコが男達やクラスメイトの視線に曝された！
うっすらと茂みのある痴丘に男達の視線が集中した。

お姉ちゃんを犯す

信人は姉の恥ずかしい姿を廻りに長く曝したく無いと考えて早くお姉ちゃんを犯かしてしまう…と

姉ちゃん犯すからね、脚を拡げて…

信人は泣いている姉の唇にそっとキスをして、右手で姉の頬を伝う涙を拭った…

直ぐに終わるからね…

姉は軽く頷いた♪

信人は姉の大陰唇にキスをしてから、舌で優しく愛撫して濡らしてから、ビラビラの小陰唇を開いたら♪

初めてみるピンク色をした、皮の被ったクリトリスが目に染み付いた！

綺麗なクリトリスだ！

直ぐ下には同じくピンク色をした、可愛いい尿道口が有った！

更に下に膣唇が見えた…ピンクのまだ閉じている膣唇が有った…

夢にも見なかった姉のオマンコを見て信人は感動していた…

「お姉ちゃんのオマンコみんな綺麗な色をしているね♪」

信人は膣唇に自分の唇を近づけて舌で優しく舐め始めた、膣唇から尿道口へ更に皮の被ったクリトリスを舐め廻して、先を吸って皮を剥いて舌をクリトリスに絡まして愛撫した。

お姉ちゃんも信人に愛撫されて、ピクピクと下半身を奮わせ始めた…

少しずつ弟に愛撫されて気持ちが良くなってきた♪

「うっう〜ッ♪」

感じてきた姉はうめき声を出し初めて、膣唇から愛液が滴り始めたのを感じた…弟に見られる恥ずかしい姿を…でもだんだんと、子宮の奥から熱いものが込み上げてくるのも感じていた。

私の身体が♪何かに包まれて逝くように…でも廻りには、クラスメイトや学校の女の子が私が弟に犯されている姿を見ているんだ…恥ずかしい姿を見ているんだ…

お姉ちゃんの綺麗なクリトリスや膣唇をしゃぶったら膣内からヌルヌルした愛液が漏れてきた。

姉ちゃん準備が出来たのかな、膣唇がピクピクと痙攣しているみたいに震えだしてきた!!

だんだんと息づかいも荒く成ってきたお姉ちゃんに

「姉ちゃんの初めてを貰うよ♪」

「信人…もう…ダメ♪ちょうだい…挿入して・・子宮の奥まで♪」

ついにお姉ちゃんが堕ちた!

信人は処女の膣唇にチンチンの頭を擦り付けた♪

「お姉ちゃんごめんね…挿入するからね」

信人は膣唇から膣内にチンチンをゆっくり入れた♪

温かくてピクピクしている、グイグイとチンチンを締め付けてくる

！！

お姉ちゃん！凄いよ♪

更に膣壁を分けて膣内にチンチンが入って、何かに触れたのが解った…

お姉ちゃんの処女膜にチンチンの頭が当たった！

膣壁がピックっとした、お姉ちゃんも感じて要るんだ俺のチンチンの感触を♪

「信人の大きいチンチンが、膣内でビクヒクしてる…熱いものが…子宮の中から…イク♪」

お姉ちゃん！

信人は腰に力を込めて一気に処女膜を突き破った！

イターイ…ッ！

お姉ちゃんは小さく叫んだ！

信人は更にチンチンを子宮口まで挿入した、頭が子宮口に触れたら、お姉ちゃんの子宮が精液を欲しがってチンチンを絞り取るように波打って俺のチンチンを招いてくれている♪

嬉しい♪お姉ちゃんの子宮に歓迎されているんだ♪

お姉ちゃんは、乳房を隠していた両手で乳首を触り始めた…

俺はお姉ちゃんの両手を乳首から退かして…

乳首にシャブリついて、乳首を噛んだり、舌の中で転がして愛撫した！

「信人…キスして・・」

お姉ちゃんが求めてきた！！

そっと唇にキスをしたら、お姉ちゃんは俺の唇をこじ開けて舌を中に入れてきた！！

お姉ちゃん！嬉しいよ♪

信人…イク♪もう頭の中が・・

俺もイキソウだ…お姉ちゃんの膣壁に締め付けられてチンチンは限界を迎えていた！

子宮口に向かい激しくチンチンを出し入れした

お姉ちゃん出るよ♪子宮内に俺の精液出すからね♪

「中に出して…」
お姉ちゃんは頷いた

信人は熱い大量の精液を姉の子宮内に放出した！

熱い…熱いのが私の子宮内にどくどく注がれて♪気持ち…良いの…のぶとの…熱い精子が私の中に…

お姉ちゃん♪気持ち良い～

信人は姉の唇にキスをした。

二班到着

姉と弟の強姦レイプショーが終わった！

姉の膣唇からは、信人の薄白色の精子に混ざって、処女喪失の証が流れ出していた…

二人は疲れと緊張でその場に、全裸の身体を男達や女子高生達に去らしながら床に倒れ込んだ…

二人のレイプショーを凝視していた一班のリーダーや男の下腹部の膨らみは限界に到達していた。

「リーダー俺も犯し（やり）たいっす！」

「待て！今のレイプショーは座興だ！キャスパー様が来て宴がはじまるまで待つんだ！
俺も限界だが、我慢してるから、お前達も我慢しろ！」

ウッス…！！解りました…

今度は二班の男達が女子高生達を連れて教室の前に到達した。

一班の男達や四班の男達は二班の連れて来た女子高生達の姿を見て驚く！？

連れて来た女子高生達は全て下半身裸で、更に着ているセーラー服はビリビリに破られている女子高生達が殆どだったからだ…

醜い…凄いエロ…だ

下半身の脚の付け根からは、男達が出した大量の精液が垂れ流されていた、何人もの男達に強姦されて、種付け孕まされたんだろうと教室の中に居る男達は思った…

俺たちも早く犯したい！！

目の前にいる、純潔そうな女の子達に自分の巨大なペニスをぶちこんで子宮内を掻き回して孕ませてしまいたい…

男達はもはや限界に達していた。

二班の男達は連れてきた女子高生達を廊下で待たせて、自分達だけが教室に入ってきた。

其処に総合責任者のキャスパーが隣の教室から現れた！

一言

「ご苦労様♪さあ！宴を始めよう♪！」

男達が待ちに待った宴が始まった！

宴開催

遂に男達が待ちに待った宴が始まった！

三班の連れてきた女子高生達には特製のジュースを飲ました！

媚薬と排卵促進剤の入ったスペシャルジュースを配って飲ませた…

教室にいる女子高生達にも同じジュースを渡して飲ませた…

三班のリーダーと四班のリーダーは打ち合わせをして、廊下で待たせている女子高生達と目の前でレイプショーをした、姉弟を一年Ｃ組に用意した、お風呂に入って、汚された身体を洗い流して、新しいセーラー服に着替える用に命令した！

リーダーは信人に新たな指示を出した！

お姉ちゃんを綺麗に洗ってあげる様にと、廊下で待たせている女子高生達の中には疲れきっている娘もいるから、君が彼女達の髪の毛や身体を洗ってあげるように指示を出した！

信人は姉を抱えて教室からでて、廊下で待たせている女子高生達を引き連れて一年Ｃ組の教室に向かった！

リーダーは

あの男の子は女子高生達に最後の一滴まで吸い取られるだろうと…

思っていた…排卵促進剤と媚薬で子宮の中が激しく熱く成っている

はずだから♪

キャスパーは自分の席に着いて一班の料理人からスペシャル料理を目の前に用意された♪

処女膜付きの生殖器のフルコースしゃぶしゃぶ♪
と小振りの二つの乳首が薄く黄金色に焼かれた二つの乳房ステーキを目の前に出された！

キャスパーはヨダレが口の一杯に溜まってくるのを感じていた。

シェフはキャスパーに
「乳房が少しこんがりと焼けましたが、中身はジューシーに柔らかく仕上がっていますので美味しく召し上がれますよ♪」

「ありがとう！素晴らしい出来映えだ」

シェフは、テーブルに指名された生理中の処女の女子高生二人をセーラー服とスカートだけの姿にして、男達の前で台に仰向けに寝せられて、足を開いて両足首に紐を結んで、吊るした。処女のオマンコが男達の目の前にさらされた！更に二人の女子高生の膣唇を開いて、クリトリスや尿道唇や膣唇が露になった。

シェフは、二人の女子高生の膣唇を開いて、膣唇の中にクスコを挿入した、処女膜を傷つけない用に慎重に挿入して、クスコを開いた！膣壁から処女膜のピンクのヒダが丸見えに成った♪更に膣壁の奥にピンクの子宮唇までも見えていた…

シェフは、大きく開いた膣唇内に焼き肉のタレを流し込んだ！

更にテーブル化された女子高生二人のセーラー服の中に赤い血の滴る新鮮なカルビやハラミ等を綺麗に並べ始めた…

男達は、唾を飲み込んでその様子を見ていた！

女子高生のセーラー服の中から新鮮なお肉を取り出して、オマンコの中に入っているタレを浸けて焼いて食べるんだと思っただけで、ヨダレが留まらなく流れ出した…

シェフはキャスパーに更に説明した

「しゃぶしゃぶ何ですが♪膀胱には言われた通りにスープを詰めてあります、子宮内には処女膜を痛め無いように注意しながら、ごま垂れを入れて有ります」

「ありがとう♪早速頂く事にしょう！」

シェフはキャスパーの前に置いたしゃぶしゃぶ用の容器に火を点けた！

キャスパーは生殖器しゃぶしゃぶが出来上がるのを待ち望みながら、乳房ステーキにナイフを入れて、フォークで刺して口に運んだ！

「うん素晴らしい出来映えだ！美味しいぞ」

キャスパーは乳首を切り取って口に運んで噛み締めながら食べた♪

宴ゲーム

キャスパーは、一班に労いの褒美にと、まだ犯されていない女子高生達を一班の男達一人に一人づつ与える事にした！

男達はキャスパーに

「お心遣いありがとうございます！！」

一班のリーダーは、女子高生達を男達に振り分けた！
後はお前等の好きにするがいい、巨大に膨らみ弾けそうなペニスをしゃぶって貰うんだな♪

男達は、テーブルに成っている女の子の胸やお腹に盛りだくさんの赤い新鮮なお肉を箸で摘まんで、膣唇の中のタレに浸してから、バーベキューのコンロにのせて鉄板で焼き始めた…

新鮮な女子高生の股肉やハラミ、を食べ始めた！

まだ強姦や持て遊んでいない四班にも、女子高生達を振り分けた！

セーラー服の女子高生達にリーダーは命令した。

御酌をしなさい！口移しで呑ませたり、空いてる手で男達のペニスを触って気持ち良くさせるんだ♪

女子高生達は、媚薬と排卵促進剤の効果で全員が眼を虚ろに、息も荒くなってきていた！子宮内は激しく男の精液を求めて要る・・・

四班のリーダーはキャスパーの食材に注目していた？

「キャスパー様が召し上がっているのは、本物ですか？」

キャスパーはシェフに向かって、「おい！知らない男達に説明しなさい」

シェフは、説明を始めた！

「勿論♪キャスパー様が召し上がっいる食材は全て新鮮な女の子の生殖器や乳房です！それも処女膜付きの新鮮なオマンコですよ、膀胱にはスープを入れて有ります、軽く押すだけで尿道唇から、オマンコにスープが流れ出して美味しい頂けます！！子宮内にはごま垂れを仕込んであり、子宮を軽く押すだけで、膣壁を伝い処女膜のダシを吸収した美味しいごま垂れが膣唇から、湧いて出てきます♪」

男達はシェフの説明を聞いて更に興奮してきた！

シェフは説明を続けた♪

テーブルに成っている二人のセーラー服姿の女子高生にのせて盛り

だくさんの新鮮なお肉も取れたての二人の女子高生のお肉だから、存分に味わって下さいませ♪まだまだ在庫はたっぷり有りますから！！

モツナベもたっぷり用意して有りますから召し上がれ！！中身はこれも新鮮な女子高生達の臓物が入っています♪

男はあてがわれた女子高生にキスして、口移しでお酒や、ワインを飲みながら、セーラー服を捲り、ふくよかな乳房を両手で揉んだりしゅぶったりと、堪能しだした。

早くも、女の子のスカートを脱がして、パンティの中に手を入れてオマンコを掻き回している男もいた…

宴ゲーム2

キャスパーは美味しく生殖器しゃぶしゃぶを食べ始めた♪
膀胱を摘まんでスープを尿道唇から絞りだして、オマンコに浸けて、子宮も摘まんで、ごま垂れを膣唇から絞りだして、オマンコ全体にごま垂れを浸してから、口に運んで食べ始めた♪

回りで見ている男達は羨ましく思った、俺も処女の生殖器しゃぶしゃぶを食べたいと…

キャスパーはそんな男達に「これは俺様特製だから、お前達は駄目だぞ！決して傍にいる女の子には手を出すなよ！」

キャスパーは男達に女子高生達を傷つけないように指示を出した！

更に男二人に、一年C組に先程お風呂に入り、身体を綺麗に洗いながして、セーラー服に着替えるよう指示を出した、女子高生達を迎えに行くように言った！

男二人は席を立って、一年C組に女子高生達を迎えに行った…二人の男達は二つ先にある一年C組の教室のドアを開けると♪

とんでも無い様な光景を目にした！？

女子高生達ば全裸で身体中にボディソープを塗り泡だらけの姿で1

人の男の子の回りに群がって、チンチンを舐めたり、男の子にキスをしたりしていた。

膣内が熱いの～♪

身体の火照りをどうにかして～♀

おチンチン美味しい♪

等を言って男の子の精液を吸い採っていた…

排卵促進剤と媚薬の効果絶大だった！

「こら～っ！！なにやって要るんだ！！」

男達は女子高生に向かい大声で叫び、淫乱な行為を止めた！

1組の教室へ行くぞ、向こうで好きなだけ犯らさしてやるから～早く泡だらけの身体を流して、良く拭き取り、新しいセーラー服に着替えるんだ♪

女子高生達は、一旦行為を止めた、向こうに行けば好きなだけエッチができる♪

身体を洗い流して、乾いたタオルで拭き取り、セーラー服に腕を通した！

下着は着けていない！セーラー服とスカートだけ履いた♪

男達は、男の子か精力を使い果たして倒れ込んでいたのを見て、そのままにして女の子だけを連れて１組の教室へ向かって行った…

訪問者

一年C組に迎えに行った男達が教室に女子高生達を連れて入って来たすると媚薬や排卵促進剤の効果絶大の少女達は、理性や羞恥心は全く無くなって、性欲のみの身体になっていた♪

下腹部から愛液を垂らしながら男達に抱き着いたり、キスをしたりした。

二班や三班の男達は、淫乱少女達を待ってましたと向かい入れた、後は食事をしながら乱姦パーティーになって行った…

男達は女子高生に焼きたての柔らかいお肉を採って口移しで食べさせたりしながら犯し続けた♪

しばらく少女達を取っ替えては、少女達の子宮内に精液をたっぷりと排出していた

子宮内に精液を放出しまくって受精させていた♪

此処に居る女子高生達は性欲の塊状態で男達の精液を膣内から子宮

内で受け止めている♪

女子高生は全員１０ヶ月後には出産祝いを貰う事に成るだろう♪

誰の子供か解らない位に次々に男を変えてセックスしていたから女子高生達少女は今女の子から女に変わった！

男達も精力を使い果たして床に倒れ込んでしまう者が出始めた。

女子高生達も全身に痙攣を起こして、口から泡を吹いている者もいた…

それでも、まだ精力の残っている男達は女子高生達を犯す事を喜びにしている♪空いてる女子高生を見付けては犯し続けた♪

しばらく淫乱パーティーをしていると

教室の入り口のドアをノックする音がした？

男達は一体誰が来たのかと思っていると！？

ドア越しに女の子の声が聞こえてきた。

「スミマセン相原夏実お姉ちゃんは中に居ますか？、遅く成っても帰宅しないから迎えに来ました！」

声の主は夏実ちゃんの妹なのか？

１人の男がドアを開けると、可愛らしい、ミニのワンピースを着た少女が立っていた！

男は少女の手を引いて教室の中に入れた・・

少女は教室の中の異常な雰囲気や淫乱女子高生達を見て悲鳴を上げた！

「イャ～ッ何なの～？！！」

１人の男が少女に問い掛けた

「君の名前は？何年生？」

「あけみ…中学一年生です…お姉ちゃんはどこ…？」

男は少女の手を引いて教室に招き入れた男はそのまま、少女に抱きついて唇をうばった・・・

いきなり知らない男に大切なファーストキスを奪われてしまった少女は、全身から力が抜けて床に座り込んでしまった…

何が起きたのか…お姉ちゃんは・・どこに…いるの…

あけみは教室内を見渡して眼を疑った？！

沢山の女子高生達の悲惨な姿の中にお姉ちゃんを見っけたから…

夏実お姉ちゃんは裸同然の姿で男に持て遊ばれていた…

誰が見ても男に強姦されている様にしか見えない…

お姉ちゃんを見ていたあけみに男は

君にも女の子の喜びを味わって貰おうか～！！

男に腕を捕まれて仰向けに抑え込まれた！

そのまま唇に男の唇が重なり、無理やり口を開かされて男の舌が荒々しくあけみの口内に入ってきた。

ミニのワンピースの裾を捲って、白いパーティーが見えた、直ぐに少女の足を思い切り開いていった。

「イャ～ッッ！！…お姉ちゃん助けて…」

あけみのお腹の上に乗ってまだ膨らみかけたばかりの乳房を両手で鷲掴みにして揉みだした、さらには、「お姉ちゃんをこの娘の隣に連れて来て、一緒にイカせようじゃないか♪」

と提案した！

「良いね！面白いな！」

リーダー達は言い出した！

夏実を犯している男は、妹のあけみの隣に夏実を引きずってきた…

「お姉ちゃん助けて…！？」

夏実を犯している男は妹に
「お姉ちゃんは今俺のペニスが欲しくて欲しくてたまらないほど子宮内が喜びで悲鳴をあげていた要るんだよ、妹の君と一緒にたっぷりとイカしてやるから楽しみんだな、子宮内に俺達の熱い精液を出してあげるから、喜んでお姉ちゃんと一緒に孕むんだな♪

男はビンビンに元気なペニスを少女の膣唇に当ててそのまま濡れていない膣壁を突き刺して、ゆっくりと処女膜にペニスの頭を当てて突くと膜は破れるような音がしてペニスは一気に子宮唇に当たった！

「痛い！！痛いよ！お姉ちゃん助けて痛いよ！！」

姉の夏実は妹の強姦されている姿を見ても、ヨダレを垂らして見ているだけだった…意識がもうろうとしていた…

妹は男に処女膜をぶち壊されて、泣きながら叫びをあげていた！

まだ濡れていない膣壁を無理やりこじ開けられて、子宮唇に男のペニスが激しくぶつかっている。

お姉ちゃんと一緒に孕ましてやるからな♪

男は妹の唇にキスをしながら、ミニのワンピースを肩からゆっくりと脱がして、白いブラジャーの上から妹の乳房を激しく揉みくちゃにしていた

ブラジャーも捲ってまだ乳首が乳房に陥没しているのが見えた！無理やり乳首を吸出して、舐め回したり、歯で噛んで刺激を与えた！そのたびにピクンピクンと全身を震わせいた…

キャスパーは姉妹を見て、リーダーに「二人に夏服の半袖セーラー服を着させろ！」

「夏服のセーラー服だけですか？スカートは要らないのですね！」

キャスパーは頷いた！

セーラー服プレイを希望したキャスパー様の指示で直ぐに夏服の半袖セーラー服を二着リーダーは持ってきた…用意周到だった…

姉妹の着ていた全てを剥ぎ取って、夏服のセーラー服だけを着せて更に強姦は続けられた！！

姉の上に乗っていた男も激しく膣壁から子宮唇にむかい激しくペニスで刺激して、今にも精子を放出寸前だった…

「俺もイクぞ！、一緒に孕ましてやるからな♪」

妹の上に乗っている男も熱い精液を子宮唇に向かって出し始めた！

少女は処女膜を破られて、更に子宮内に精液を出された哀しみや痛みで気を喪った…

男達は姉と妹の子宮内に熱い精液をドクドクとたっぷりと放出した！

姉は子宮で男の精子をうけて、喜びのヨダレを滴ながら、妹の犯されている姿を見ていた…

一部完了

男は気を喪った少女の膣からペニスを抜いた！
少女の膣唇からは、処女膜が破られた証の鮮血と男の精液が垂れてきた…

少女の処女は呆気なく奪われてしまった…

回りで見ている男達は強姦シーンを見て興奮していたまだ中学生にしか見えない少女に前戯もしないで濡れていない膣唇に無理やりペニスをぶち込んで、膣壁や処女膜は男のペニスにより傷つけぶち壊された・・・

痛さのために泣き叫ぶ少女そして気を喪った少女…

男達はさらに少女に仕打ちを仕掛けようとしていた…

1人の男が

「吊るせ！！」

と一言叫んだのが始まりだった…

その声につられて更に別の男も

吊るして、少女を切り刻んで食べようぜ♪太ももが美味しそうだ！

別の男は

「姉も一緒に吊るすんだ！」

「いいぞ、姉妹を並べて吊るせ♪」

俺は小振りの妹の乳房が食べたいな♪

いや！姉の大きな乳房が俺はいいぞ♀

悪魔の囁きは続いた！

キャスパーはそんな男達に

「お前は何を言って要るのか？まだ幼い少女何だぞ！」

男達はキャスパーに進言しだした！

キャスパー様が美味しそうに少女の生殖器を召し上がっているのを観まして俺達も食べたく成ったんです！！お願いします、この少女達をを吊るさせて下さい♪

キャスパーは仕方なく頷いた…

少女達姉妹は、気絶ながら～

男達に吊るされていた…半袖の白いセーラー服に赤いリボンをつけられた姉妹を並べ♪

姉妹は下半身はツルツルのオマンコを男達にさらしていた…

男達はもうセーラー服は要らないだろ♪

犯したんだから♪

リーダーは気絶している姉の半袖のセーラー服の赤いリボンをむしり取って、胸当てを掴んでセーラー服を左右に切り裂いた♪

姉のDカップの乳房が露になった、乳首は勃起して立って要るのが良く見えた！

次に妹の赤いリボンが外されて、同じように胸当てを破り両手で胸元から左右に破かれた♪

白い肌に、まだ乳首が乳房の真ん中で、陥没している全裸の少女の身体を

回りで男達はヨダレを垂らして見ていた♪

更にリーダーは、過激な言葉を吐いた！

妹は逆さに吊るせ！

両足を開いて別に天井から吊るせ♪オマンコが良く見える位置に吊るせ♪

妹は足を大きく開かされて逆さまに吊るされてしまった…ピクン色をした大陰唇やビラビラの小陰唇に皮の被っているクリトリス、傷つけられた膣唇やお尻の肛門が露に去らされた！

女子高生やクラスの仲間が見ている前で…しかし姉は媚薬と排卵促

進剤の影響でまだ口からヨダレを垂らし、膣唇からも大量の愛液を垂れ流していた…淫乱な夢のなかの少女だった

少女は姉の目の前で…
女子高生達の目の前で
大勢の男達により全裸のまま幼い少女の体は、

教室の真ん中で吊るされてしまった…膣唇から太ももに掛けて処女膜喪失の鮮血が垂れているのが痛ましい…

男達に吊るされた少女の運命は・・・

小振りの乳房やまだ幼い女の子の生殖器を大勢の男達により汚されて終うのか…

女子の足首を男達は掴んで、

右側に

左側に・・・拡げた

少女の股間からはまだ男の精液と破弧の鮮血が大腿から垂れていた…

大陰唇を開かれで小陰唇のピンクのビラビラを男達に掻き分けられて、まだ皮の被っているクリトリスを指で摘まれたり、突つかれ始めた…

無理やりペニスをぶち込まれ荒らされた、膣唇は赤く腫れて男の精液と赤い鮮血を滲ませてた、男達は傷つけられた膣唇に指を入れて掻き回し始めた…

膣壁が男達により激しくいたぶられている…

酷い仕打ちを受けていた少女は、まだ意識を喪ったまま幼い少女の女性生殖器は男達に玩具に去れていた…
スクールハイソックスを脱がされて、足の指先を男達はしゃぶり、美味しそうなまなざして足の先からオマンコまでの間の大腿部を舐め回していた。

姉妹は足の指先から男達により餌食にされて終うのか…

男達はヨダレを垂らしてナイフを片手に、吊るされいる少女達の足にや女性生殖器に目線を寄せていた。

旨そうだ♪と口ぐちに言っている…

一部完了（後書き）

第1部完結に成ります、ご愛読ありがとうございます。感想をお待ちしています。

目覚め

相原姉妹を吊し上げて弄んだ男達は、精力を使いはたして、次々に床に座り込み眠りに就いた…

姉妹は生殖器をもて遊ばれただけで、身体に危害は加えられないで済んだ…

半袖の白いセーラー服は破かれ左右に開かれて、白い乳房やピンクの乳首が露になって、逆さ吊りの妹は生殖器が男達に荒らされてクリトリスや尿道唇に膣唇や小陰唇のヒダがが赤く腫れていた

男達に何回も、指やラブドールを膣唇から入れられて膣壁や子宮唇を掻き回された後がはっきりと解るほど姉妹の乳房や乳首それに生殖器全てから残酷さが残されていた…

女子高生達も男達に代わる代わる強姦中だしをされて体力を無くして眠る要に気を喪っていった。

キャスパーは別室に移動して明日からゴールデンウィークが終わる迄のスケジュールをリーダー達と詰める事にした!

そして日の出と共に学園はゴールデンウィーク初日の朝を迎えた…

キャスパーとリーダー以外の男達はまだ眠りについている

女子高生達も全身の疲労と媚薬の後遺症のためまだ深い眠りに堕ちていた♪

リーダー達は裸の女子高生達を一年C組に運んで、眠りに堕ちてる彼女等を1人1人丁寧にシャワーで精液や愛液で汚れた身体を洗い流してから、新しい半袖の白いセーラー服とスカートを履かせて今日の宴の準備を始めた！

もうじきにクラブ活動をやりに、新しいセーラー服を着た獲物達が学園にくる筈だから！！

リーダー達は男達を起こすとキャスパーの指示通りに、今日クラブ活動がある更衣室やグラウンドに向かい、女子高生達の来るのを待っている事にした！

男達のメンバーはキャスパーに各班のリーダー4人とサブリーダーの4人の下に男達が18人の27人で新たな獲物を待ち構えていた…

すると校門から白いセーラー服に身を包んだ女子高生達の姿が1人2人と見え始めた♪

体育祭？

キャスパーとリーダーによる女子高生の屈辱劇の内容が男達に開示された…

女子高生達を二つに分けた体育祭を行う♪

内容は
一時耐久レースとして、

強制交流バイブレータによる膣内にバイブを差し込んで、三分置きに先端から媚薬と排卵誘発剤いり精子を噴射して子宮内を掻き回す！一回の噴射量は１００ミリリットル！それを一時間休み無しに続けて、電極を乳房や乳首とクリトリスに着けてイッタ回数を競う！！時間が経つに連れて、精子が女子高生達の子宮内に溜まり続けて妊娠中の様にお腹が膨れてくる…

勿論ギブアップしたら負けになり、バツゲームが与えられる…

二番目の種目は、一時間耐久フェラチオ♪一時間で男達のペニスを口だけで何人もの精子を口内に噴射注せて数を争うゲーム！口の中だしだけを数に入れる！！
必ず飲み込んでから次の男のフェラチオをする。

三種目めは
中だし耐久レース、その名の通りに女子高生達の膣だけを使い、一時間により多くの男達の精子を子宮内に中だし注せるかを争うゲーム！

四種目めは
綱渡りゲーム、下半身はスカートだけになり、腰位に張られた荒縄の上を脚を開いて荒縄を股に挟んで渡るもの、一時間でより長い距離を進んだ者が勝利者になる、しかし荒縄には所々に結び目のある障害物競争に成っていた、クリトリスや尿道唇、小陰唇が擦れて進む事を阻む事になっていた五種目めは

綱引きゲーム！
女子高生達の下半身をスカートだけにして、一番感じるクリトリスの根元を糸で縛り引っ張り合うゲーム！相手を自分の陣地に引き込むか！痛さでギブアップするか、クリトリスが引きちぎれた場合は負けとなる！
女子高生達の上半身はセーラー服だけになり、ブラジャーは脱がされて、左右の乳首に紐で縛り、引っ張り合うゲーム、セーラー服は乳房の上まで捲られて乳房や乳首が露にされてからゲームは始まる！！
これも相手を自分の陣地に引き込むか、ギブアップや乳首が引きちぎれたら負けになる！

体育祭？（後書き）

新たなゲーム内容を募集中です、本日零時までにコメントお待ちしています、負けた時のバツゲームも同時に受付ています、宜しくお願いいたします。

新たな狩

朝日が登り出して、学校の教室内にも陽射しが差し込んできた。

眠っていた女子高生達も次第に眼を覚まし始めた…

自分達が、今いる状況を確認したり、昨日の夕方から夜中に掛けて、男達に汚され傷つけられた身体を見つめながら、涙を流している女子高生達も数多くいた…

昨日の夜には裸同然だったのに…今は身体中綺麗に洗われて!?半袖の夏服の白いセーラー服にスカートを履いている…ても下着は無かった!?相原姉妹も眼を覚ました…妹は姉に寄り添い、抱き付いたまま涙を流して震えていた…昨日男達に強姦された恐怖と処女喪失の哀しみにより、お姉ちゃんに甘えるしか無かった…

夏実のクラスメイトが、姉妹に昨日の一連の様子を話してくれた!

媚薬と排卵促進剤の影響で詳しく覚えていたクラスメイトは居なかったが…姉妹が裸にされて天井から吊るされて、今にも男達に餌食に去れそうな時、キャスパーが何回も男達に止める要に進言をしてくれた!

「だから貴女達姉妹は男達に餌食に去れることが無く助かったのよ♪」

夏実は泣いて抱き付いている妹を立たせてから妹の手を引いて、教室を出て行った…

夏実は妹を連れてキャスパーを捜しに男達に何処に居るのか聞いていると!?
その度に男達のいやらしい目線に去らされた、「おっぱい触らせてくれたら教えてやる」からとか、「スカート捲ってオマンコ見せろ」等強要された…
姉妹は恥ずかしい想いをしながら男達に朝から身体を曝す破目に成ってしまった…
姉は我慢して男達の要求通りにおっぱいを触らせたり、スカートを捲ってオマンコを見せたが、妹は泣いてばかりで脅えていた。

どうにか、キャスパーの元にたどり着いた姉妹は

「キャスパー様おはようございます。昨日は助けて頂いてありがとうございました。」

「ああ!気にするな!丁度良いところに来たな、君たちに命令する、動けそうな女の子達を連れて、全員の食事を作れ、昨日の調理室に材料はあるから、出来たら一年B組に運んで置くように!!」

「わかりました!直ぐに準備します」

キャスパーは姉妹に
「食事の準備が終わったら俺様に知らせに来てくれ!君達姉妹には俺様のメイドに成って貰うからな♪」

夏実はキャスパーに向かい
「解りました！御主人様」
と告げて頭を下げた…
「さあ食事の準備に向かいなさい」

姉の夏実は妹の手を引いて女の子達の処に向かって行って、まだ動けそうな娘を連れて調理室に行き食事の準備を始めた…

☆☆☆

男達はリーダーの指示通りにクラブ活動の為に登校してきた女子高生達の様子を探っていた、全員で朝練が始まるタイミングで女の子達を襲う計画だ、セーラー服を脱いでクラブ活動用に着替えている女の子達を隠れながら見ている…ついでに品定めをしながら♪

狩人2

朝練にきた女子高生達はテニス部の女の子達だった、部室の外から覗いて見ていると、セーラー服やスカートを脱いでからアンスコを履いて、テニスウェアを手に取って着ていた…女子高生の生着替えを目にして男達は下半身が膨らみ始めていた…最近の女の子達は休みの日には派手なフリルが付いた物やブランド物のブラジャーやパンティを履いている、乳房か発達した女の子が多く見られる♪

早く犯したい気持ちを押さえてテニスウェアを着ている女の子達を見ていた…

まだ早い後３０分は待たなくては成らない全員集まってから襲う事にしたからな♪

他のクラブ活動に来るのを監視ている班がいた…

此方は、体育館でバレーボールの朝練に来る女子高生達を監視していた…

セーラー服を着た女の子に自宅から既にトレーナーを着て登校した娘もいた。

男達は襲うタイミングを今か今かと固唾を呑んで待っている…此方も全員が集合してから、一斉に襲う事にした決めていた。

狩人３

三班は校庭の入り口に車を停めて登校してきた女子高生達の監視をしていた…

手荷物や服装をチェックして、どのクラブ活動なのかを判断してリーダーに連絡していた…

更に時間に成ったら、門の中に移動して後から来た女子高生達の捕獲をしなければならない…１人１人捕まえてサイズを測ったり、処女の確認が主な任務に成っていた！

今のところ、クラブ活動の為に登校してきた女子高生達はラケットを持っていたテニス部とバレーボールシューズを持って登校した二つのクラブ活動の女の子達だった、人数にして３５人を確認していた。

この人数で体育祭を行うのかと男達はまだ少な過ぎるのでは？と感じていた。

三班のリーダーも後２０人位は登校して欲しいと男達に話していると、

校門前にバスが停まった！中から白いセーラー服の女子高生達がバスから降りてきた。

肩から大きなバックを提げた２０人位のグループだった男達は何ですかね？ラケットの先に網みたいのが付いていますが？

リーダーはラクロス部員だよあれは…

ラクロスって最近全国的に人気が上がってきたスポーツだぞ、お前等も覚えておくんだな！

ラクロス部員は全員で２１名が一斉に校門から入って行った、

朝早く一斉に来たのは何故なんだろと男達は思った？

後で聞いてみよう♪これで女子高生達の人数は５０人を大きく超えた！

体育祭が盛大に行われて行く事になった♪俺達の生け贄に成るとも知らずに！！純粋な白い肌を俺達に見せつけて欲しいと、女子高生達の子宮内にたっぷり精子をぶちこむ瞑想をしている男達だった

いよいよ計画を実行に移す時間が近づいてきた…

一班リーダーを先頭に三人で、テニス部員が集まり準備体操を始めたのを見て一斉にテニス部員に襲い掛かった！手にはライフル銃を持って近づいて行った…

テニス部員は全員ウェアにスコート姿で男達が近づいて来るのを見つめていた！？

リーダーはテニス部員に

部長は誰だ？居なければリーダーは誰だ？名乗りでろ！

男達はテニス部員にライフル銃を向けた！

「キャーッ…ギャー！」
「キャーッッ！」
「キャーッッッ…」

「五月蝿い！！静かにしろ！」

「何なのよ―貴方達は～？」

「君がテニス部長か？」

「違うわ…私は二年だから、今日は三年生は来ていないの！だから私が部長の変わりに一年と二年を指導するように言われたの…」

「名前は？」

「安藤七海…」

「七海ちゃんか！君は此方に来なさい！
後の女の子達は俺の前に一連に並ぶんだ！早くしろ！！」

七海はびくびくしながらリーダーの傍に近づいた…

テニス部員達も震えながらリーダーの前に一連に並んだ…

リーダーは七海に命令した

「後ろ手にして、脚を開くんだ！」

七海は言われた通りに手を後ろで組んで脚を少し開いた…

リーダーは七海に動いたり騒いだりしたら容赦なく痛め付けるからな！解ったな！と言った。

リーダーによる七海やテニス部員達の恥辱が始まろうとしていた…

リーダーは安藤七海の後ろ手を紐で縛ってから、恥辱を始めた…

テニス部員達に命令した
「始めにテニスウェアのスカートを捲りアンスコを脱ぐんだ！」

「えぇ～っ！シンジラレナイ…！！」

五月蝿い！！静かにしろ！！
「声を出したり騒いだら直ぐに犯すから覚悟して脱ぐんだ！」

リーダーは見本に七海のスカートを捲りアンスコに手を掛けて引き下げた・・

七海は恥ずかしさで眼を閉じて震えている、声を出せないために…
足も左右に揺らしていた…

テニス部員達もゆっくりとアンスコの両脇に手を掛けて脱ぎ始めた…

次の命令が下された！
「パンティを脱ぎなさい」

テニス部員の１人が

「そんな事出来ません、貴方達は何が目的何ですか？」

「五月蝿い！！静かにしないと犯すと言った筈なんだが覚悟は出来て言って要るんだろうな！」

リーダーは男達に「今発言した娘を犯して、孕ませるんだ！手段は自由だいたぶるんだ！やれ♪」

男達は発言した娘に向かって行った…いきなり腕を掴んで地面に叩き付けた！

「イャ～ッッ！痛い～っっ！」

男達は娘のお腹の上に股がりテニスウェアを破りだした…

娘は叫び出して、泣き叫んだ！

「イャーッッ…誰か～っ助けて～っっよ・・・」

テニスウェアに続いてスカートやブラジャーも瞬間に破り棄てられて、パンティ一枚の姿にされて、恥辱を受け始めた…

男達は2人係で乳房を両手で激しく揉んだり、乳首を口に加えて噛んだりしゃぶり出して恥辱した、娘の口も男達に激しいディープキスをされて、舌を引っ張られたり、唇を噛まれたりした。

更にパンティを引き裂いて全身が露にされると、脚を大きく開かれた。少女の秘部が男達の目の前に恥ずかしく曝された…

此れから男達に犯されるんだと…少女は涙が留まらなく流れ出した…

破瓜2

リーダーは七海の脚を大きく開いて見せしめの恥辱を始めた！
オマンコを男達の目の前にさらした七海に

「君は処女なのか答えなさい！」

七海は首を横に振った。

それを見たリーダーは

「なら直ぐに入れても大丈夫だな♪たっぷりイカせてやるからな、楽しみにするんだ♪時期に子宮が喜びを挙げるようになるからな♪」

リーダーはテニス部員達の目の前で七海のオマンコにしゃぶりついた、

ジュクジュク♪と音を発てながらオマンコを舌で堪能して、大陰唇を拡げながら少女の小陰唇のヒダをなめまわし、クリトリスの皮を舌で絡め取る用に剥き出してしゃぶり付いたり歯で噛んで刺激をした、

「あぁ～ん！ダメ…！ヤメテ…ッ！」

七海は腰をピクピクと痙攣させ始めた…

「君は感じて要るんだね、皆の目の前でも恥ずかしく無いのか、淫乱娘が！」

「違うわ…そんなわけ～無いで…しょう♪あぁ―っ！」

リーダーは七海の膣唇から液体が光って流れ出したのを見ていた…愛液がドクドクと絶え間なく流れ出したのをしゃぶり付いて

チュルチュルチュル♪ジュルジュル♪

なめまわしながら舌を膣唇の中に入れて掻き回しながら吸い採っていった…

リーダーは十分に濡れた七海の膣唇に勃起したペニスの頭を当てて
一気に膣内にぶち込んだ！
七海の膣内は愛液がドクドクと流れ出した為にスムーズにペニスは
子宮唇まで達した！
子宮唇はペニスを歓迎するように強く締め付けて、精液を欲しいと
吸い付く用に求めていた…

リーダーは七海に

「君の膣内（なか）は最高に感じて俺のペニスを迎えてくれているぞ♪」

そんな…わけ…ない…あっ～ぁぁ～ん・・イッチャウ♪
ダメ…頭が…真っ白に…オカシク…イク～ッッ…

七海は膣内をピクピクさせながら絶叫した！

「イッタな！！・・・」

リーダーは七海の子宮唇に激しくペニスをぶつけて刺激をすると、
七海は全身にピクピクと痙攣を興して絶頂期を迎えた！

リーダーも熱い精液をビュッッービュッツと何回も放出した、子宮唇
や膣壁に絞り出される用に精液は子宮内に吸収され続けた！

君は間違いなく俺の精液で孕んだ♪嬉しいだろう…七海は絶頂期を迎えて言葉が喋れ無いほどに、全身で余韻に浸っていた…

リーダーは一回で終わると思うなよ♪

七海にそう言うと

乳房を掴んで乳首を舐め廻しながら、膣内にペニスをぶちこんだ！
更に激しく腰を突いて子宮唇を刺激しながら何回も精液を中に放出した！
七海は遂に何回も絶頂期を向かえさせられて気を喪ってしまった…

テニス部員達は

テニス部員達の顔つきが変わった…仲間の七海ちゃんが目の前で男達にセーラー服を破かれ下着も脱がされ乱暴された。目の前で行われた恥辱に女子高生達は信じられない、怖い、恥ずかしい…でも言うことを聞かないと同じ目に会うんだと思い知らされた…

仕方なく仲間を見渡して、スカートを捲ってパンティを脱ぎだした…

男達に向かって一例に並ばされた女子高生達の下腹部が次第に露に成っていった…

恥ずかしくゆっくりと脱ぎ捨てる娘やまだもじもじしてなかなかパンティに手を掛けられない娘もいた…

リーダーはそんな女子高生達に「後十秒以内に脱がない娘は強姦するからな！」
とイライラしながら激を飛ばした！

女子高生達に焦りがみられて、急いでパンティを脱ぎ捨てた。

「中々良い物を見せて貰ったよ！全員スカートを捲ってオマンコを我々に見せるんだ！」

テニス部員の女の子達は恥ずかしい気持ちで、スカートを捲り上げ

てパンティを見せた…

二班狩人

一斑がテニス部員を捕獲しているときに二班は体育館でバレー部の女の子達が集まるのを監視していた。

リーダーが予定時間を告げた！

バレー部員はコート前に集合して準備運動を始めた。

キャプテンらしい女の子が1人前に出て、準備運動を始めたのに合わせてバレー部員がおなじ様に準備運動をしている！

二班のリーダーの掛け号で一斉に女子高生に詰め寄った！

貴方達は誰です？私達のクラブ活動の邪魔をしないで下さい！！静かにして・・・

キャプテンらしい女の子が話終わらない内にリーダーはライフルをバレー部員に向けた！

「きゃーあっっ！！」

「キャー～ッッ…　」

女の子達は一斉に悲鳴を上げて騒ぎ起てた…

「黙るんだ！静かにしろ！！」リーダーが大声で怒鳴った！

バレー部員はリーダーの叫び声を聞いて、おとなしく成った…しかしまだヒソヒソ声で仲間内て囁いていた

「静かにしろ!!聞こえないのか?」

この声を聞いてやっと静かに成ってきた。

男達は大きな段ボール箱を女の子達の前に置いた。

リーダーはバレー部員に命令した!

「せっかくお揃いのユニホームを着ている処悪いんだか今すぐにこの段ボール箱に入って要るセーラー服とスカートに着替えなさい、ユニホームは俺達の目の前で全て脱ぎ捨てるんだ、勿論下着も全て脱ぎ捨てから、段ボール箱のセーラー服に着替えなさい、下着を着けるのは禁止だ!3分以内に着替えない娘は俺達手で脱がしてから強姦するからな!」

「よし始めろ!」

男達は段ボール箱を開けた中には半袖の夏服が入っていた、サイズもバレー部員の為に大きめな三種類の白いセーラー服とスカートだ

バレー部員

バレー部員はリーダーの命令に仕方なく従っていた、ライフルが狙っていたので反抗する女の子はでなかった。

全員がユニホームを脱ぎ捨てて、下着姿になっていた、白や水色、青いブラジャーに揃いのパンティを履いている女の子達が恥ずかしそうに、手で胸や下半身を押さえて震えている。

ブラジャーのホックに手を掛けて外したり、パンティをゆっくり腰から下げ始めた…

床に下着を脱ぎ捨てて、手で恥ずかしい部分を隠しながら段ボールに近付いて、自分に合ったサイズの半袖セーラー服とスカートを手に取って、直ぐに着ている。

バレー部員が全員セーラー服とスカートをきちんと着た処でリーダーが命令した！

「一例に並んで俺達の目の前でスカートを腰まで捲って君たちのオマンコを見せなさい！」

バレー部員達は恥ずかしそうにスカートを捲って男達の視線に恥部を去らした！
男達は更に

「このまま屋上に向かうからスカートを捲ったまま手を離すなよ♪」

リーダーは、バレー部員を1人ずつ名前と学年、サイズと処女か経験者かを確認してから屋上に向かって連れて行った。

三班の使命

三班はクロノスクラブの更衣室前で時間の過ぎるのを待っていた！

このクラブは殆ど全員がバスで登校していたので、指定の時間前に集合していた、更衣室でセーラー服を脱いで、ユニホームに着替えて、準備運動を既に初めて、ラケットを握り、素振りや、シュート練習を初めている娘も要る！

テニス部員と同じ用にアンスコを履いている！

素振りや、シュートをするときにスカートが捲れてアンスコが見えているのを男達は見ていた…リーダーは少し予定時間には早いが、部員達の様子を見て、「行くぞ！」

ゴー！！と指示を出した！

男達は一斉にクロノス部員目掛けて駆け寄った♪

手にはライフルを持って、部員達に向けながら、リーダーは叫んだ！

「注目せよ！」

ラケットを持ったままラクロス部員達は男達の姿を見て、叫び出した！

「ギャーッ…何か来たっっ―っ！！」

「何なの～っ！あの人達…銃みたいな物を持って要るよ…」

「静かにしろ！！此が見えないのか！？騒いだり、声を出したら容赦無く制裁を加えるぞ！おとなしくしろ！！」

ラクロス部員たちは、男達の声を聞いて、おとなしく成ってきた…

リーダーは部員達の目の前に立ち命令した。

「今すぐに、着ているユニホームを全て脱いで裸に成るんだ、勿論下着も全て脱ぎ捨てろ、命令に逆らう娘は強制的に俺達の手で脱がしてから、強姦するからな！覚悟して置くんだな…」

ラクロス部員の1人がリーダーに向かって

「そんな恥ずかしい命令は聞けません…貴方達は何がしたいんですか？」

「五月蝿い！！俺達の命令は絶対なんだ、おとなしく従え！」

ラクロス部員達は、震えていた、眼には涙を浮かべて頬を伝って滴り堕ちている娘もいた…

ラクロス部員

早く脱いで俺達に君達の若い裸を見せて欲しい♪ラクロス部員達は泣きながらユニホームを手を添えて上着から脱ぎ始めた…

リーダーは部員達に

時間を掛けるんじゃあない！3分以上掛けた女の子は俺達の手で脱がしてから強姦すると言ったはずだぞ♪「そんな事…聞いていません…」

リーダーは傍の男に尋ねた？

「俺言わなかったのか？」

「男は応えた！リーダー！まだ言ってません！！」

「悪いんだか！！追加命令をする、今から3分以内に、着ているユニホームや下着を全て脱ぎ捨て、俺達の前に並んで手を後ろに組んで君達の若い裸を見せて欲しい♪」

ラクロス部員達は、震えてユニホームを脱いで地面に置いた…まだ殆ど下着を着けている女の子達に

リーダーは、残り2分だぞ早く脱いでしまうんだ！

リーダーはラクロス部員のキャプテンらしい女の子に近付いて♪

「まだ下着を着けて要るじゃあないか早く脱いで裸に成るんだ！俺が手伝ってあげるから、手を後ろに回せ！黙って直ぐに言うことを聞くんだ♪」

「君達の名前を教えなさい！キャプテンなのか？」

「木村彩乃…キャプテンです」

リーダーは目の前の女の子を眺めて、彩乃ちゃんか、水色のブラジャーとパンティの下着姿が可愛いな♪

思わず犯してオマンコの中にペニスを突っ込みたいと思った！しかしキャスパー様の指示と朝の打ち合わせで反抗した女の子以外は犯さないで、屋上に連れて行く事に決めていたから、悔しい想いで、目の前の女の子を見ていた…

リーダーはキャプテンの木村彩乃の背中に手を回してブラジャーのホックを外して、脱がした！

綺麗な乳房が表れた！乳首もピンク色をしている、パンティに手を触れた時に

彩乃ちゃんの身体中がピクンと震え出した！

恥ずかしそうに、眼を瞑り横を向いている。

リーダーはパンティを素早く足元まで下げた…

木村彩乃の恥部には手入れをして要る様に綺麗な茂みが見えている。

部員に検査

リーダーは木村彩乃に命令した、脚をM字開脚してオマンコを開いて俺に見せなさい！クリトリスも尿道唇も膣唇も指で拡げて膣内も良く見せなさい！「更にリーダーは木村彩乃に聞いた?君は処女なのか?」

恥ずかしい気持ちで彩乃は頷いた！

リーダーは、M字開脚してオマンコを曝した処女の女の子を興奮しながら視姦した。

膣内にピンク色をした膣壁の奥に同じようにピンク色のヒダを見つけた♪ホントに処女だった！

他の部員達は1人の女の子を残して、全裸で手を後ろに組んで裸体を曝していた。

リーダーはひとりの女の子がパンティを掴んだままでもじもじしている姿をみて

「君はいま生理中なのか?」

と聞いた！この娘のパンティの隙間から、ナプキンがチラッと見えたから…

少女は恥ずかしそうに頷いた…

リーダーは容赦なく少女のパンティに手を触れて下げ始めた…

「イャッ～ッハズカシイ～・・」

少女は小さな声で囁いた…

リーダーは少女のパンティの中からナプキンを指で引き抜いた…

「命令違反したのだか仕方無いだろう…心配するな…君は処女なのか教えなさい！」

（ハイ…）

更に小さな声で囁いた…

罰を与える、脚をM字開脚して、生理中の処女膜を俺に見せるんだ！拒否したらこのまま強姦するからな！たっぷりと中だしをして孕ませるぞ…生理中だから妊娠はしないかな…

屋上へ

リーダーは少女に名前を尋ねた?

少女は恥ずかしそうに・・・「弥生です…」と応えてくれた。

「弥生ちゃんか♪何年生なのかな?」

「二年生です」

「そうか弥生ちゃんは彼氏は要るのかな?」

「いません…」

リーダーはその言葉を聞いてニコヤかに

さあ、脚をM字開脚に開いて生理中のオマンコを見せなさい!

弥生は仕方なくゆっくりと生理で鮮血が滲んでいるオマンコを見せた…

「少し拡げるからな、我慢するんだぞ」

おお♪可愛いクリトリスに尿道唇がみえる！膣唇は鮮血で少し赤く染まっているね、生理の血は綺麗だ！固まらないからな♪可愛いよ

リーダーは鮮血が滲んでいる膣唇をゆっくり拡げた、生理食塩水を容器に入れて、膣壁や処女膜を傷付けないように筒さきを膣内に優しく入れて、生理の鮮血を洗い流した…筒先を子宮唇の更に奥に差し込んで中まで綺麗に洗い流した…

膣唇から、鮮血が流れ出てきた♪

生理の鮮血を綺麗に洗い流した処で膣壁の奥にピンクのヒダを確認した、綺麗だ♪

「これでもう、見られても大丈夫かな！」

「・・・」

弥生ちゃんは恥ずかしさの余り声を出せないでいる

「君が良ければ、俺の女に成ってくれないか・・まだ俺は２２歳なんだけど彼女がいないから」

「・・・」

「今すぐに返事はしなくて良いから、気が向いたら返事してくれ、そしたら俺が弥生ちゃんを他の男達から守るからな」

「わたし・・・リーダーさんの…彼女さんに…なります」

弥生ちゃんは震えながら返事をした。

このままでは、知らない男達の餌食に成って強姦されかねない…ならば優しそうなリーダーの傍に居たいと…

「解った弥生ちゃんは俺の彼女だ！俺が守るから♪」

弥生ちゃんの裸の身体を抱きしめて、唇にそっとキスをした。

リーダーは回りを見たら、男達やすでに半袖のセーラー服にスカートを履いたラクロス部員達が、自分達二人を見ていた…

リーダーは箱の中から弥生ちゃんに合うサイズのセーラー服とスカートを取り出して、着せた！

「よし！屋上に行くぞ！」

体育祭

キャスパーの指示通りに各班の男達は女子高生達を半袖の白いセーラー服とスカートだけの格好にして屋上に連れてきた。

既に屋上では、四班によって体育祭の準備が整っていた。

この学園の屋上はドームに成っていて、全天候対応のシールドとして使われていた。

各種の機器が据え付けられて、女子高生達を待ち構えて要るようだ！

屋上の入り口の壁に今日の体育祭のスケジュールが張り出されていた、しかし一種目だけが現れていた、綱渡りと、後は白い紙で塞がれて見えていなかった？

キャスパーは、各班のリーダーを呼んで、打ち合わせを始めた！

女子高生達は体育祭と書いてあるスケジュール表示に目線を向けていた、「綱渡りって何だろう？」

男達は、ブルーシートを被せて有った一種目めの綱渡り用の器具を女子高生達の目の前で披露した！

直径５メートルぐらいで高さが８０センチぐらいの所に固定されて、

所々に結び目の付いたロープが露に成った！ロープは液体が染み付いてテカテカと光っていた。

キャスパーは女子高生達を二列に並ばせた、男達のリーダーに聞いて、予定通りに体育祭を開始する宣言をする

「此れより学園の体育祭を行います、君達は二班に別れて貰っている、前列が青組だ、後列が赤組た、準備運動は済ませた筈だから早速一番目の種目から始めよう！

リーダーは、一番目の種目に出る選手を八名づつ選出してくれ、但し最低四名は処女を選ぶんだ！

リーダーは、リストを見て青、赤、八名の選出を選んで一種目の始まる場所に案内した！

八名はほぼ同じ用な体格の女の娘を選び出した！

リーダーから一種目の内容の説明が始まった！

良く説明するから聞くように、後選手以外は、両脇の応援席で脚を開いて体育座りをして応援しなさい、それに応援団長とチアリーダーも何人か決めておけ！！

リーダーの説明が始まった…

女子高生達は何が始まるのか、何をさせられるのか、不安と恐怖でドキドキしながら話しに集中した。

一種目めは、見ての通りに綱渡りをしてもらう、一時間でより多くの距離を渡ったチームの勝ちとする、負けたチームの女の子には罰ゲームをして貰うから覚悟して早く綱渡りをするんだぞ！

君達の足の長さに合わせて、サンダルも用意してある、から差別は差ほど無いから案内しろ、君達はロープを跨いで歩いて前に進むだけたから、難しくはない、所々に結び目が有るのは、障害物競争だと思ってくれ、青と赤それぞれ４人づつ１５分経ったらバトンタッチで次の選手に変われるから頑張ってくれ！！

ロープの高さは１分後とに変わるから気をつけて歩く様にするんだ♪

体育祭2

綱渡りは4人づつに別れて、二回行う、負けたチームは罰ゲームをして貰う事に成った！

青組と赤組に別れて、順番を決めるたら、試合を開始するから、後3分経ったら1人めの娘は、ロープを跨いでスタート位置に付いて名前を告げてから試合を開始する。

青組と赤組に別れて打ち合わせが始まった。順番を決めている。

女子高生達はまだこの綱渡りゲームのホンとの目的と快感や怖さを知らないでいる、ゲームが始まったら嫌と言うほどに身体で体験する事に成る筈だから…

この綱渡りゲームの趣旨は女子高生達を快感の嵐に曝す事を目的としたモノだから♪

1人めの娘が決まって、自己紹介が始まった！

青組一番め「あや」

赤組一番め「みち」

リーダーはキャスパーに進言した、最初の二人は両方共に処女です

！！

「なら最初は低めに！少しずつ高くするように設定するんだ」

「了解しました」

屋上にスタートを告げる音楽が聞こえ出した♪

スターターが合図をした！
位置について…

最初の女の子二人が、ロープを跨いで位置に付いた！

ようーい・・・

スタート！

いよいよ一番最初の試合が始まった！

青組、赤組の女の子二人がロープを跨いで、真剣に歩いて進み出した♪

まだ位地は低く設定されていたが♪女の子二人は声を出して感じ始めた♪

うぅーん・・・

アァ～アァン♪

濡らしたロープには、たっぷりとローションや媚薬が塗って有るから、進めば進む程に女の子二人は下半身に快感を覚える、特に結び目では尚更快感に浸る筈だから、見物だった！

体育祭3

１種目めがスタートして、青組、赤組の女の子二人が一周が１５メートルのロープに股がり、喘ぎ声を出しながら歩いていると、下から送風機により風が舞い上がった♪スカートが捲られて下半身が曝された、ロープに食い込んでいるオマンコがチラチラ見えていた、セーラー服も捲り上がって、乳房がチラッと見えた♪

男達は

色っぽい～アァ見えたぞ♪と冷やかし始めた！

女の子二人は、両手でスカートの裾を押さえたり、セーラー服の袂を押さえている・・

「イャ～ッッ♪見ないでよ～ぉっ！」

「色っぽいぞ！もっと風を強めろ！！」

女の子二人は、ロープに染みた媚薬がオマンコから体内に浸透してきた見たいで次第に、顔が潤んでいるのが解った。

だんだんと喘ぎ声を大きなうめき声に変わり始めた♪

ロープの高さが上がり始めているから、余計につま先歩きに成ってきて、なかなか前に進めない…

ァァ～ダメ～ッ…アソコが～ジンジンする♪見ないでよ～ダメ～ッ♪

最初の女の子二人は処女の為に、初めての快感に全身を振るわせて、つま先だけで少しずつ、少しずつ前に進んでいた…

罰ゲームを恐れて…

体育祭４

第一走者が１５分歩き終わった！赤組が一周リードして第二走者にバトンタッチされた。

第二走者は、赤組範子、青組瑠奈、に受け継がれた、二人は経験者だと、リーダーからキャスパーに捕捉した。

第二走者のロープが少しずつ高くされ始めた♪

第一走者の二人は、息を切らしてその場に倒れ込んだ…リーダーは負けた青組の女の子を椅子に腰掛けさせた、しかも脚を開いて、第二走者を応援するようにと…女の子は強制的に脚を椅子の両脇に固定された、スカートは、はだけて、濡れたオマンコが、男達や女子高生達に丸見えにされた。まだ息を切らして、ハアハア言って、目鼻立ちは虚ろにとろんとしていた、媚薬の効果で自分の意識を保つのが精一杯の用に見えた♪

リーダーは女の子に負けた罰だから、第二走者が終わる迄の１５分間はそのまま応援するんだ♪と云い聞かせた！

第二走者の女の子は段々とロープの位地が上がりだして、オマンコやクリトリスを刺激しだして、

「ハアハア～モウ♪イキなり上げないでよ…」

下からは送風機で風が舞い上がり、スカートをひるがえして、濡れた下半身が見えていたのに、二人は気にしないで歩き続けた、負けたらサラシモのにされるのが恥ずかしいから、必死で興奮しながら、歩いていた…

送風機により、下半身が丸見え状態で、ロープに擦れたオマンコから、ローションや女の子二人の体液や愛液がロープを伝って滴り落ちている♪

乳房もチラチラとセーラー服の裾が捲れて、ピンクの乳首までもが、見え隠れしている、実にエロイ格好を見せていた。

リーダーは二番手の女の子に話し掛けた！

君達はセックス経験者なんだから、負けたら皆の前でオナニーして貰うからな、頑張って負けないように歩きなさい！

「そんな～酷い事を言っちゃ～ァァ♪イャ～アアアッ…」

最後は声に成らない…かなりの興奮状態に堕ちて要るんだとリーダーは思った♪

まだ残り5分間有るから、無理しても、進むんだ！

ムリ～ッ…モウ！ゲンカイーッッ…デ・・ス

「ギブアップしたら、俺達に強姦レイプされて、子宮内にたっぷりと熱い精液をぶち込まれて、種付けられて受精され孕ませるぞ！」

二人はリーダーの嫌らしい言葉を聞いて、気を引き締めて身体が動かなく成るまで、前に進もうと…

頭がクラクラして、胎内がジンジンと子宮を締め付ける感覚に意識

がフラフラと飛びそうに成りながら…

少しずつ前に、前に、スカートが捲れ垂れ流しの愛液を見られようと、乳房や乳首を見られようと、前だけを見て歩いていた…

綱渡り2

第二組も15分間の綱渡りが終了した。

結果はまたも赤組の勝利だった！今回も一周と少しのリードだった！

第三走者にバトンタッチしたら、二人は床に息を切らして、下半身からはタラタラと体液を滴ながら倒れた。

三番めの娘は赤組がさゆり青組がみはる

この二人は処女ですとまたもリーダーは進言した。

キャスパーはリーダーにこの二人はイカせろと指示をした。

リーダーは、ロープに更に濃くて激しい快感を味わえる媚薬を使って、第三走者の女の子達を見ていた♪周回毎に胎内に浸透して、理性を喪い淫乱な処女の女子高生二人の変わり果てる姿を想像していた…

第二走者の負けた青組の女の子は、マットの上に引きずられていた、男達の手にはラブドールが握られていた。

男達は負けた女の子の脚をM字開脚にして足首を紐で縛った、スカートは腰まで捲られている。女の子の秘部は男達の視線に丸見えで

曝されている。

男は手に持ったラブドールを女の子に渡して、「第三走者が試合している間、ラブドールでオナニーをし続けるんだ、休んだら俺達に強姦レイプ去れるからな！直ぐに始めるんだ！」

負けた女の子は、まだ媚薬の為に意識がもうろうとしていた、ゆっくりとラブドールを乳房に当てて、オナニーを始めただした…

薄れゆく意識の中で強姦だけは去れたくなくて…

綱渡り3

リーダーは三番走者の女の子二人に告げた！

君達には楽しい勝負をして貰いたいから、負けた女の子はその場で処女膜を頂くとしょう♪頑張って負けないように歩きなさい！

二人の女の子は

「嘘でしょう…信じられない？」

第一走者の敗者は脚をM字に開いて、大切な女の子の秘部を去らして応援していた…第二走者は同じように脚をM字開脚にしてオナニーをしている、ラブドールを乳房や乳首に当てて…今にも下半身にラブドールを持って行って、オマンコに触れそうなくらいに、膣唇からは激しく退治から体液が滴り、床を濡らしていた。リーダーの策略なのか段々と罰ゲームの内容が女の子達を恥ずかしい仕打ちに追い込んで要るように、第三走者の女子高生二人は感じていた、早く隣の女の子には負けられない！

気持ちが焦りだしていた…

リーダーは、ロープの位置を少しずつ高くしてゆく、それに伴い今まで以上の刺激と快感が下半身から伝わって、胎内に刺激と震えを与え始めた♪

二人は、フラフラになりながら、結び目にオマンコが触れるたびに♪「アァ～♪ッツ～ゥ♪」

全身に快感の嵐に見舞われていた…

かなり強い媚薬がロープに触れている、オマンコから、胎内に吸収されて、青組の女の子が歩くのが止まってしまった…

リーダーが近付いて耳元で囁く♪

「犯されたいのか？中だし去れて、孕まされるのだぞそれでも良いのか？」

モウダメ…ムリ…オカシテ…クダサイ♪膣(なか)内がアツイ♪モウダメ…頭のナカガ…マッシロに

遂に青組の女の子は、その場に倒れ込んでしまった…

リーダーは倒れた青組の女の子を抱きしめて、マットの上に仰向けに寝せた！

女の子の上に股がり、唇にキスをして、セーラー服の裾を捲りあげて、ふくよかな処女の乳房やピンク色をして、勃起していた乳首にしゃぶりついた♪

イイョ〜っ・・キモチ…イイ〜ョョ…！！

女の子は媚薬で快楽の頂上に登り詰めていた♪

リーダーは女の子の脚を開いて濡れて愛液を垂れ流し手いる膣唇に勃起して大きく反ったペニスを当てて、一気に膣壁を分けながら処女膜を突き破った！

ペニスが子宮唇にあたった！

女の子は大きく唇をあげてハアハア言って要るだけに成った！

処女膜を破られた痛さや恥ずかしさは無いみたいだった…

綱渡り4

第三走者の青組の女の子は棄権してリーダーに犯された、処女膜を奪われ子宮内に射精されてしまった…受精して孕ませられたかも知れない！

膣唇からはリーダーの精液と破瓜の印の鮮血が流れている～

従って第三走者失格の為にまたしても赤組の勝利に成ってしまった…

第四走者は形だけの試合に成った！

赤組は英美

青組は野依

リーダーは試合開始を告げた！

この二人も処女ですと告げた！

ロープはまたも媚薬をたっぷりと染み込まして、少し高めに設定されて試合が始まった！

この二人も淫乱少女へと落とされる・・多分完走は出来ないで途中棄権してしまうだろうとリーダーは思った♪

先程の女の子達と同じように媚薬と他に排卵誘発剤もロープに染み

込して有るのだから…

間違いなく二人の少女は棄権して俺に犯されて処女膜を突き破かれて仕舞うだろう♪

膣唇をこじ開けられて、媚薬効果でハアハア言いながら、更に処女喪失も解らない位に全身が敏感に感じながら初めての快感に浸るはずた…

処女の女の子を強姦して、子宮内に射精をたっぷりと染み込ます！！受精された子宮内に赤ちゃんを孕ませるのだから！

と想像しながら、最終走者の二人の女の子を見詰めて要ると…まだ残り時間は7分以上有るのに、全身から湯気を上げて、熱い息を吐いている・・

二人共に

ハアハア…モウゲンカイ～ダメ…ムリダよ～！！

モウゲンカイ～デス～オカシテ…クダサイ♪

モウダメ…ダメダっテバ…

二人は同時に意識を喪って

バタン～ン！

と床に倒れた！

リーダーは二人を棄権と見なして試合を打ち切った！

更に二人をマットに運んで、男二人を呼んだ！

リーダーは男二人にこの女の子を犯して処女膜を奪い子宮内に種付け、孕ませるように指示をした。

男二人は、直ぐに女の子達を犯し始めた♪セーラー服の中に両手を入れて乳房や乳首をもみくちゃにしたり、唇にむしゃぶり附いて無理やり唇をこじ開けて激しく舌を絡めてもて遊んだ！

更に脚を開いて、オマンコを開き処女のクリトリスの皮を剥いて先を舐めたり噛んだりして、いよいよ膣唇を舌で舐め始めた♪処女の女子高生の初めてを飽きるまで堪能してから、膣唇の中に舌を入れたり、指を入れて掻き回している。

男二人はペニスが最大限に勃起して、ズボンが飛び立つ様に膨れていた、直ぐにズボンとパンツを脱ぎ捨てた。

反り立っているペニスを処女の膣唇に当てると一気に子宮唇まで突

き刺してしまった、女子高生は破瓜の痛みは気絶しているために解らないだろう…しかし処女膜を破かれた瞬間に膣壁や下半身がピックッと何回も痙攣した。

男二人は女の子の子宮内に熱い精液を種付けした。排卵誘発剤の効果で間違いなく孕むだろう。

綱渡り5

最終的に青組の勝利が決まり、第一試合は終了した!!

続いて第二試合が始まった

新たに青組四名
赤組四名が綱渡りゲームの前に集まった。

リーダーから指示が告げられた!

今回は一時間の持ち時間内で自由に交代しながら綱渡りをしても良い!!４人で協力しながら綱渡りをして、寄り長い距離を走行したチームが勝利となる!

負けた女の子達は全員、一時間掛けて男達に、代わる代わる犯される!!たっぷりと子宮内に熱い精液を受精されて、孕まされるから覚悟して、試合を楽しんでくれ!!

第一走者は位置に着くように、名前を告げてからスタートする事!

赤組は千鶴

青組は奈緒

位置についた…

ヨオイ…スタート！

赤組、青組ともスタートした！！

今回もロープには媚薬がたっぷりと染み込んでいる、女の子達の敏感な下半身からゆっくりと胎内に吸収されて、悶え、快感に女子高生達は曝される事になる筈だ、

動けなく成る前にいくら交代しても、胎内に吸収された媚薬は蓄積されていく筈だから…

どちらかのチーム全員が快楽の虜になら動け無く成った時が試合終了となり、男達により、負けた女の子達は処女を奪われて、代わる代わる男達に種付けされて、孕まされる♪

罰ゲーム

第二試合に参加した8人の女子高生達は全て処女の女の子だとリーダーは紹介した。

ロープに染み込ました、排卵誘発剤と媚薬が効いて、最初の二人の女の子達は、限界に達していた

モウダメ…交代して・・頭のナカガ…お腹のナカガ…ゲンカイナノ～

コウタイ～イ…シテ～ッ！

二人同時に二番手に交代した…

同時に二人は床に倒れた…まだ意識はハッキリとして、セーラー服とスカートの乱れを直している。

第二試合が始まってからまだ5～6分した経っていない…

リーダーは応援団長に各々応援するように言った！

青組の応援団長は永友

赤組の応援団長は玲美
に決まった！
リーダーは応援団長に「負けたら君達にも責任が及ぶから真剣に応援するんだ！」
赤組、青組に別れて応援を始めた♪
第二走者に声を掛ける
青組の応援団長が「早苗ちゃん頑張って、無理なら早く交代した方が良いからね♪」
赤組の応援団長も「秋吉ガンバだよ～負けないで！イヤだよ、男達に一時間も犯されるのは、ガンバだよ！！」
第二走者は2人共に媚薬効果で快楽の虜に成り初めていて、喘ぎ声を挙げながら、応援団長の投げかけに、頷いていた。

罰ゲーム2

リーダーは応援団長に負けたら罰ゲームとして、毛剃りか処女膜喪失どちらかを選ばせてやるから考えと置くように！！
応援団長の二人は下半身の毛をツルツルに剃られるのだろうと思って、処女喪失なんて信じられない…まだ毛剃りの方がましよと思っていた。

まさか全身の毛を剃られるとは思っていなかった！

第二走者も全身汗だくに成ってきて、白いセーラー服の胸に、汗で濡れた乳房やピンクの乳首が透けて見えはじめた♪

ハンカチで額の汗を拭いながら、

キモチ…イイヨ…オカシク～ッッ♪ナッチャツタ…ナカガ…アツイヨ～！！

第一走者と同じく、もう限界に達した二人は第三走者と交代した！

まだ綱渡りを初めてから5分しか過ぎていないのに快感に襲われて余儀なく交代した…

第三走者の赤組の女の子は、交代した直後から、ロープが膣唇やクリトリスに当たった瞬間からうめき声を挙げている

アァン～ン…アヒュン～アゥ～アゥ♪

ロープの結び目に当たると更に激しく悶えた♪

ヒャィン～アゥ♪

赤組の応援団長は女の子に「つま先立ちして歩きなさい！少しは刺激が減るから…」

女の子は言われた様にかかとを上げてつま先歩きを始めた…

しかし処女のオマンコは媚薬漬けの為に、歩くスピードがだんだんとゆっくりに成り、遂には歩くのを止めてしまった・・・

まだ一周歩いたばかりなのに…

第四走者と交代した！

罰ゲーム3

青組も第三走者が悲鳴をあげだした♪

ピチャ♪ピチャ♪と下半身からロープに愛液が垂れたり、擦れた音がしている…

青組も最終走者に代わった！

これで４人が試合に参加した、此れからは回復した女の子が順番に入れ替わる！！

「ギブアップした娘にはお仕置きするからな！」

リーダーは８人の女の子に告げる！！

ギブアップした娘は、X字に縛り付けて、男が強制潮吹きをするからな！仲間の見ている前で、男の指で膣唇から膣内を掻き回して、たっぷりと処女の潮吹きをしてもらう♪

何回もイコうが、潮吹きをするまで処女の膣壁をいたぶりまくるからな♪

女の子達はリーダーの新たな罰ゲームにセーラー服の越しに、震えだしているのがわかった…

怖がって、涙を流し始めた娘もいる。

４人目の女の子達も、限界に近付いていた、気を失ったり、倒れたら男達に潮吹きをされてしまう、早めに交代したい・・

ダメ…モウダメ…コウタイ！！

先に赤組の娘が音を上げた！

直ぐに交代の女の子が、綱渡りを始めた…しかしまだ回復していないようで、眼が虚ろな状態であった。

罰ゲーム４

第二試合が始まってから２８分が経過した！
まだ半分にも届いていないのに…赤組は交代を繰り返して、次の女の子の準備ができていないのに…

モウダメ…ダレか～カワッテーシンジャウヨ～！

盛んに交代をアピールしていた…しかし三人共に～

まだムリダヨ～ォオ…モウ・・チョイマッテネ…ゴメン～ッ…アツイヨ・・カラダガ…アツイ・・

交代できる娘が居なかった…

ワ…タ…シ…モウダ・　・　・　メ・・・
意識が飛んでしまい、赤組の女の子はロープをまたぎながら、スローモーションを見るように、ゆっくりとヨダレを唇から垂らしながら床に倒れた…

青組の選手の女の子は、赤組の女の子がゆっくりと倒れたのを見て

「私達の…勝ちなの？」

と呟いた！

リーダーは「赤組のギブアップ！！」

「よって第二試合は青組の勝利とする！！」

ここで第一種目の綱渡りゲームは、赤組、青組の一勝一敗の結果と成った。

負けた赤組の女の子達を、中央に集めて、天井から吊るしたロープで両腕を縛り付けて吊るした、脚は左右に大きく開かせて、固定した。

セーラー服とスカート姿の赤組の女の子達４人は東、南、西、北、向きにＸ字に縛り付けられた…

リーダーは４人の男達に指示を出した！

負けた罰として、処女の女の子に潮吹きをさせること！

女の子達は媚薬や排卵誘発剤の効果でまだ全身性感帯のように、ピクピクと震えて、唇からは唾液が垂れたり、下半身の処女秘部からは愛液が垂れ流されて、大腿部を伝って、足元に滴り堕ちている。

男達はリーダーに確認した「女の子の唇は奪って良いんですか？」
「クリトリスや乳房は揉んだり、触って良いんですか？」

リーダーは「潮吹き以外の事は禁止する、セーラー服やスカートも絶対に脱がすな、スカートは捲りあげるのは許可する！！」

リーダーはキスや乳房やクリトリスへの愛撫は禁止した、また処女膜を破るのも禁止した。

いよいよ、男達による潮吹きショーが始まる♪

処女の潮吹き

男達４人は各々負けた赤組の選手の女の子に近寄って、スカートを捲って、処女のオマンコを見つめた…

初めての潮吹きをされる女の子達の眼は潤んで涙が頬から首根っこまで滴り、
処女の膣唇からは愛液が滴り太ももを伝って、光っていた。

大陰唇を開いて小陰唇のピンクのビラビラを指で左右に開いた、綺麗な皮を被ったクリトリスが濡れて光っていた、尿道唇も小さな食い込みの穴がみえた、その近くにびしょびしょに濡れて、愛液を子宮の中から果てしなく出し続けている膣唇が有った！

男は膣唇にそっと指で触れたら、膣内に溜まっていた体液がどっと滴り堕ちてきた♪

ピチャ♪ピチャ♪ピチャ♪指で触ると嫌らしい音を発てて流れ堕ちていった。

更に膣唇に指を当てて中に、まず人差し指をゆっくりと、処女膜を傷付けないように入れると♪

膣唇や膣壁がピクピクと痙攣をした女の子が感じているのを、指を通じて感じ取る事が出来る♪

更に膣壁をグリグリと掻き回す！！

ァァン～アゥ♪

指を更に激しく動かすと

処女の女の子は悶えた♪喘ぎ声を挙げながら、脚や腰をくねくねと動かして快感に耐えていた。

潮吹き2

男達４人は罰ゲームとして、X字に縛り付けにされた女子高生たちの処女膜内に指を入れて、掻き回して潮吹きを強要している、

最初は人差し指一本でゆっくりと膣壁を刺激して、次に中指を加えて二本立てにして、処女の膣内を掻き回したり、だんだん速く指を出し入れし出す♪

男の一人が、女の子のピンクのクリトリスが余りにも綺麗な色をして濡れて光っていたために、遂には理性を喪って、膣内に入れた指を抜いて…

皮の被ったクリトリスにシャブリついて、舌を絡ませて、吸ったり、噛んだりしだした♪

「イャ～ン♪キモチ…イイイイッッ♪」

クリトリスをしゃぶられた処女の女の子は初めての快感に全身がピクピク痙攣していた…

リーダーは異常な動きをした男に気が付いて、大声で怒鳴った！

「ナニヤって要るんだ？直ぐに止めろ！！」

男はリーダーの怒鳴り声を聞いて我に還って、少女のクリトリスをシャブリっていた、唇や顔を離した！

リーダーは男に近寄って手を引っ張り、女の子から遠ざけた！

お前には特別な罰を与えよう！「この男を裸にして縛り付けておけ！！」

男は裸にされて、柱に縛られた！

罰を受けていた、女の子には別の男が就いて、潮吹きショーの続きを始めた…

女の子達は男の指で何回もイカサレていた、しかしまだ潮吹きはしていない…

更に激しく、しかも処女膜を傷つけない用にテコギをしなくては成らない！

男達は、クリトリスを刺激することも、乳首を刺激することも許されていない…

指だけで刺激して、潮吹きをさせる事を、必死で膣壁や膣唇を激しく愛撫する。

するとやっと1人の女の子の淫乱なうめき声がした！

イク～ッッ♪子宮が・・・ジンジンスルョョ～オ…ナニカが～クル～ョ♪アツイ♪オナカガアツイ♪オナカガ♪

遂には大量の潮吹きが始まった…

股の間から初めての、処女の女子高生の潮吹きが見られた♪

第二種目

最初の種目で負けた女の子達は全員潮吹きをして、罰ゲームは終了した、今は男の罰ゲームを女の子達も参加して行っている。

リーダーに柱に縛られた男は、全裸で、女の子達の玩具にされていた♪

チンチンの皮を引っ張られたり、玉を握られて悲鳴を上げていた！

リーダーは女の子達に好きに虐めて言いと言われて、男のチンチンを見たことのない娘は興味深いく、触ったり、つねったりしている。

リーダーから第二種目が発表された！

「第二種目は綱引きを行う！！」

綱引きってどうするのかな？

綱引きの縄が見当たらないね？内容が告げられた！

赤組、青組から各八名の選手を選びなさい！選考基準は第一種目と同じだ。

４人以上処女の娘を入れる事とする。

ゲームの内容は、綱引きだ、赤組、青組、２人づつによる、二回戦

４人づつによる二回戦を行う！！

合計四回試合が行い、同点の場合は、８人全員による決勝戦を行う！

各選手は、セーラー服を捲り、二つの乳首に紐を結んでもらう、

更にスカートを捲り、クリトリスを摘まんで勃起させて、クリトリスの根本に紐で輪を作り結んでもらい、赤組、青組の女の子同士で綱引きを行う、自分のの陣地に相手を引っ張り込むか♪

相手をギブアップさせるか、

乳首やクリトリスが千切れて仕舞いそうに成ったら負けとする！

説明は以上だ…

エッ～ッッ…シンジラ～レナイヨ…

ウソデショウ～？

イャダョ～ッッ…！！

女の子達から、ブーイングと非難の声が出た…

陵辱

第二種目はとんでもない内容だった！

女の子達からは、悲鳴と鳴き声が上がった…

「ドウスル？乳首が千切れたらお嫁に行けないよ…シンジラレナイ…ナニカが試合よ…」

「コンナノ…陵辱される…ダケダヨネ…」

リーダーは騒いでいる女の子達に新たに告げた！

男達にも参加して貰うから、男はペニスの根本を紐で縛り付けて君達の援護をさせる、こうがんにも紐で元を縛って引っ張らせるから、君達も頑張って試合に挑みなさい！

今回は負けても、罰ゲームは行わない！

しかし、結んだ紐が外れたら、相手チームにいじめられる事にするから、確りと結び付ける用に！

赤組、青組の８人の女の子達が別れて、スカートを捲り、一番感じるクリトリスを指で摘まんでまだ皮の被ったクリトリスを勃起させ

ていた。

処女の女の子達は、他人に初めてクリトリスを触られた感触に脚や腰をビクッ、ビクッとさせている♪

緩く結ぶと、抜けてしまう、強く結ぶと激痛に見舞われた…

「イタイ～ョ…！」

「我慢するんだよ…負けても良いの！？」

クリトリスを勃起させてから、剥き出して根元を紐で縛るだけでも、処女の女子高生達は、悲鳴と、涙を流していた…

綱引き2

第二種目の内容が変わった!?

第一試合は、女の子2人と男一人が1チームとなり、この三人の性器に結んだ紐を3メール先で一つに結んで、相手のチーム三人に繋ぐ!!

相手のチームの三人も同じように性器に紐を結んで引っ張り合うように成った、

三人の呼吸と意思の疎通が大切な要素になる。

赤組、青組、共にチームワークが必要とされる。

リーダーが、紐の確認をした!

青組、赤組共に、性器に紐を結び付け終わり、スタート位置に着いた!

女の子達は、スカートが捲れて、下半身が丸見えの上クリトリスから延びる紐が卑猥に見えている、セーラー服も乳首の上まで捲られて、ピンク色の乳首の根本から紐が延びている、まだ引っ張り初めていないので目立たないが…

試合が始まったら、引っ張られて、延びるクリトリスや乳首の形はどうなるんだろう…

千切れたらお嫁に行けないよ…負けてもイイから～ムリはデキナイと…女の子達は思っている…

リーダーが試合開始の合図をした！

紐がピーンと張られた！

イタイ～っッツ…！

ジン・・ジンスルョ！

チギチャウ～ゥヨ…イイイイタタタッッ！！

始まると同時に、屋上に悲鳴が轟いて、赤組、青組ともに引っ張るのを止めてしまった！

女の子達の乳首は引っ張られて、三角スイの様に二つの乳房のてっぺんに乳首が飛び出している…

腰も前に突き出されて、クリトリスが延びて男のチンチンの様に成っていた…

一方男のチンチンも根元の紐が締め付けられて、こうがんも、引きちぎられる手前になって伸びている、涙を出して、叫んでいる！！

陵辱2

リーダーは赤組、青組の女の子達や男2人が悲鳴と涙を流しながら叫んでいる姿を見て、無理だと判断した！

そくキャスパー様に、第二種目の中止を進言した！

キャスパーも状況をみて、承諾するしか無かった！

従って第二試合も中止をした。

女の子達はクリトリスと乳首を縛った紐を取り外した…

イタタツ…ッッ～！

乳首やクリトリスに食い込んだ紐を外すだけでも激痛が頭から、敏感な処女のオマンコに駆け抜けた…イツイイイタタタッ～！！

乳首は千切れそうに赤く腫れている。

クリトリスも赤く勃起して飛び出していた…

見るからに痛そうである…

リーダーは此処でしばらく休憩タイムにすると発表した。

すると、昨日男達に持て遊ばれた女子高生達が、デザートと軽食にドリンクを沢山持って屋上にやって来た。

デザートや軽食にドリンクを男達や女の子達に配り始めた！

束の間の休息が取られた！

次の種目の題目が発表されるまでの一時を味わう♪

何故なら次の種目は、更に酷しい内容だから！

男達には快楽が待っている、女の子達選手は、一時間に渡る拷問に近い種目と成る。

フェラ1

休息タイム中にリーダーから第三種目の内容が発表された！

「第三種目は、一時間バトル！フェラをしてもらう♪赤組、青組、5人づつのチーム選にする」

「フェラダッテよ…男達を喜ばすダケダヨネ…」

女子高生達はヒソヒソ話をしている…

「第二種目の2試合目は中止したから、其処に出場予定の女の子達は第三種目に出場するようにする！」

「えぇ～っっ！ヤッパリデルノカ～ョョ～！」

嘆き声がした！

リーダーから更に説明が続いた！

選手に選ばれた赤組、青組の女の子達は、チームで男達の、ペニスを唇だけを使い、口内射精をさせてイカせる、更に口内に射精された精液は必ず飲み込み事にする、飲み込み次第次の男のペニスを唇で口内に含んで同じように射精させて、飲み込むんだ！一時間で寄り多くの男達をイカしたチームの勝利にする。

コツは、ごうがんを刺激しながら、手で扱き、唇でペニスのガリから先を吸い付く用にシャブリ付くことが、ポイントだ！！

男に乳房や下半身を触らせてはならない、触りは禁止する。

後5分後に、第三種目を開始する、トイレに行くなら早く行くんだ！

リーダーから第三種目の内容が発表されて、女の子達は、初めてのフェラチィオに戸惑っていた。

フェラ2

リーダーにより第三種目の開始が告げられた！

赤組

青組

女の子達は一例に並んだ！

男達を迎える準備をしていた、うがい用のペットボトルとコップにハンカチ、ウエットティッシュ等をテーブルに置いて試合は始められた♪

すると、赤組の応援団長がリーダーに

「作戦タイムを少し下さい！！お願いいたします。」

リーダーは、少し考えた…まだ処女の女の子がいきなりフェラをするんだから、やり方なんかを話し合いするのは、仕方ないと思い！

「よし！5分間の作戦タイムを与える！！」

赤組、青組共に作戦タイムに入った！

赤組の応援団長は、セックス経験者を作戦会議の中に入れた！二年生の奈美恵さんが、まだ処女の為にフェラを知らない女の子達に、上手なやり方を伝授してくれた…

先ずは、ペニスの一番感じる場所は、尿道唇から、くびれたガリが一番敏感なポイントだから、集中的に、舌や、唇で刺激すると男は早く射精する、その瞬間に舌や頬を使って、尿道内に残っている精液を強く吸出してあげる事が大切だから、必ず思い切り吸出してね。こうがんも優しく揉んでやると、直ぐに射精するから、忘れないで！後は、フェラの最中は、成るべく相手の顔を見てあげてね、それが男の人は喜ぶコツだからね♪

リーダーは時間を告げた！

いよいよ一時間バトルのフェラが始まった！

フェラ3

赤組、青組の女の子達は男のペニス唇でくわえてしゃぶり始めた…

処女の女の子は、初めてみる勃起して、反り立ったペニスを見つめて!?直ぐには唇でくわえる事が出来なくて、指で触ったり、見詰めて要るだけだった…

隣の女の子から、激が飛んだ!

「何!ボッとシテンノよ、別に裸に成って、ヤルんじゃあ無いんだから~しっかりフェラしなさいよ♪さっき言われた通りにすれば、良いのよ♪」

言われた通りに…

女の子は、目の前の男の顔を覗きこんで、

「有紀です、初めてなので宜しくお願いいたしますね」

男も「気持ち良くさせてくれたら、たっぷりと口内に熱い精液を放出してあげるからな♪楽しくしょう」

ゆっくりと男のペニスを唇で触れたら…熱くてピクピクと躍動している…

ペニスの先の尿道唇からは、液体が染みでている、舌でそっとその液体を舐めてみた…ペロンペロンと舌をペニスの先の膨らみを舐めてみた！

苦い味がした、臭いも生臭い・・

初めて味わう・・・男のペニス～

男の顔を見て、「オイシイ～デス」

と一言…

ペロンペロンと舌を使って先を舐め回すと？ペニスがピクピクとして、また大きく成ってきた？

何処まで大きく成るのかな！？

グロテスクなペニスを舐めながら、不思議な気分に成り始めた…

フェラ4

1人目の前にいる男が息を揚げて気持ち良さそうな顔に成ってきた…ペロンペロンペロンペロン～チュンチュンチュン～

まだ良くフェラを知らない女の子達は、言われた通りに、ペニスにしゃぶり付いたり、ごうがんを手のひらで握って射精を即していた。

男はまだ絶頂期には達する事が出来なくて！

「君のオッパイを見せて欲しいな、そしたら速く射精するかも知れないよ、どうする？」

男のオチンチンを見たのも、初めてなのに、まだ男の人にオッパイなんて見せたく無いんだから…と内心では思った…しかし…まだ1人も射精させていない自分に…このままだと罰ゲームをしなければならなくなるよ…どうしょう！

口内で、吸ったり、舌でしゃぶるだけでは、男のチンチンを射精させられないのかな！？

仕方なく、乳房を見られるだけなら…触られる事はないと思うから…

リーダーがさっき、男の人は、キスしたり、乳房に触るなって言ってたから・・

男のチンチンをしゃぶりながら、セーラー服のサイドジッパーを少しずつ手で開いた！

男は「君のオッパイを見せてくれるのか？」

女の子は、ジッパーを全て開いてから、頷いた！

ゆっくりと、ノーブラのセーラー服の裾に手を添えて捲り上げた…

男は、上から女の子の恥ずかしい仕草を見て、更に興奮してきた♪

セーラー服が乳房の下から乳首まで捲られて、ピンクの可愛蕾が男の目に止まった♪

「綺麗だ！」

処女のまだ汚れていない女子高生の生の乳房に乳首がピンと立っていた。白い地肌にピンクの蕾が新鮮に見えていた。

女の子は恥ずかしそうに、唇をチンチンから離して、下を向いてしまった…

男の人にオッパイを見られて恥ずかしそうにしていた。

男は「速く続けないと、射精出来ないぞ、まだ後に支えて要るんだ

からな」

男達は、並んでいた、前の男が口内に射精し終わるのを待っていたのだ…

新たな獲物２

第三種目が行われて要る処に校門で見張り番をしている男が私服の少女三人を従えてやって来た！

男はリーダーに
校門から入って来た娘を連れて来ました！

少女三人は、まだ幼さが残るような感じを与える…

リーダーは少女等に、名前と学年を聞いた！？

最初にブラウスに白いサマーベストに水色に青のチェックのミニスカートを履いた女の子が名前を告げた

私は津波、この学園の一年生です、隣の二人は妹の真夏と理菜です、二人は双子で中学二年です…

妹達はお揃いの黄色サマーセ―ターに白いミニスカート姿

三人の姉妹は、半袖のセーラー服姿の女子高生達が男のチンチンを加えている姿を見て、震えだして…

何して要るのよ…あの娘等は…？

目の前の状況を理解できないでいた、

「お姉ちゃん、怖いよ…」

妹達は姉の傍に寄り添って震えながら…お姉ちゃんに小さな声で呟いている・・

リーダーは男にこの姉妹にも夏服の半袖セーラー服とスカートに着替えさせるように指示した！

皆の見ている前で生の着替えをさせる用だ…

第三種目

リーダーは三人の姉妹に半袖のセーラー服とスカートを渡して、此処で生着替えをするように命令した！

下着も全て脱いで、セーラー服とスカートだけを着る様に言い聞かせた！

姉妹達は、恥ずかしそうにして衣類を脱ぎ始めた…

しかし男達の視線は、第三種目のフェラに向いていて、姉妹の生着替えを見ている男達はほとんどいなかった…

お姉ちゃんは妹達に、今見られていないから、早く着替えましょうと、告げてブラウスやミニスカートを脱いで、下着姿に成っていた…

３姉妹が下着姿に成っても視線は、フェラの女の子達に向けられていた！

姉妹達は、急いで下着を脱いで、半袖セーラー服とスカートを身に付けた！

其処へ、シェフが現れて、キャスパーにそっと耳打ちをした。

キャスパーは指を一本立てた…しかしシェフは納得しないでまた耳打ちをした。

すると今度は指を三本立てた！

シェフは微笑み、三人の姉妹に一緒に料理を造るから手伝う様につげて、３姉妹を連れて屋上から、姿を消して行った。

☆☆☆

第三種目の選手達は、早い女の子は、もうすでに三人目に掛かっていた。白い精液が口元から、あごの下に垂れていた。

「デル～ッツ♪口の奥にたっぷりと出してヤルカラナ～ァア～イクゾ～アァ…デル～！！」

処女の女の子達は、やっと１人目の男の射精を口内に取り込んでいる最中だった！

やっと１人目の射精を口内に含んで、呑み込んだ…

（ニガイ～デス…）

小さな声で女の子は吐き捨てた！

次の男が目の前に現れて、ズボンを脱ぎ始めた、ブリーフの前が膨らんでいた。
男は「君がブリーフを脱がしてから、フェラしてくれないか?」

と言ってきた…

女の子は、ゆっくりブリーフを脱がしたら、黒くて、血管が浮き出た、チンチンが茂みと同時に現れ始めた…大きい!!

ブリーフを足元に下げて、勃起したチンチンに、唇を付けてキスをすると、男が嬉しそうに、微笑みを浮かべた・・・

フェラ5

第三種目は４０分が経過した！
赤組、青組ともまだ差はほとんど無い…

シェフに連れて行かれた3人の姉妹は、調理準備室で食事の準備をさせられている、余り自分で料理をしたことが無い姉妹は戸惑っていた！

シェフは、姉には、野菜のみじん切りや、フルーツの皮剥きをするように指示をした、妹二人には、お米を磨いだり、パンを焼くように言った…

しかし妹達は、満足にお米を磨ぐ事や、パンを焼くことが出来なくて、姉に何回も聞きながら作業をした！
「シェフは、君たちは女のクセに満足にお米やパンの準備が出来ないのか？」

「ごめんなさい…余り料理したこと無いんです。」

「しょうが無いな…まったく！」

シェフは3人の姉妹に、飲み物を渡した。

「これでも飲んで私のやってる事を良く見て覚えるんだ♪」

シェフから渡された、飲み物を3人の姉妹は美味しく飲んだ！

シェフは最初から、3人の姉妹には手伝わせるつもりでここに連れて来てはいなかったのだ…

先ほどシェフは、キャスパーにそっと耳打ちをしたのは、今居る人数だと食材がかなり不足するから、新鮮なお肉を回して欲しいと相談したのだった…

新鮮な若いみずみずしお肉を手に入れるために♪

3人の姉妹を手伝いと言う名目で調理準備室に連れて来た…

何も知らない姉妹達は、睡眠薬入りの飲み物を美味しそうに飲んでしまった！

3人は次第に意識がボヤけてきて、

「お姉ちゃん…何だか…眠く…なっ…て　」

姉妹は床に座り込むように腰を落として、横になって次第に眠りについていった～

シェフは姉妹の柔らかな身体に触れて、肉の感触を確かめ始めた…

食材検査

シェフは新鮮な食材を手にして、早速に食材検査をすることにした、肉質や色、形に匂いを確かめた上で、料理方法やメニューを極める為には必要不可欠な作業だから！

先に姉のセーラー服のファスナーを開けて、裾から胸に捲り上げて、綺麗な乳房にピンクの蕾が新鮮に目に映る！！セーラー服を頭からゆっくりと脱がした！

指で白い乳房の至るところを突いて、弾力性をみてから、ピンクの蕾を人差し指と親指で摘まんで硬さを見た、柔らかい♪

そしてスカートのホックを外して、足元に下げてから、片足づつ持ち上げて脱がした！

下腹部からタテスジに沿ってうっすらとした茂みが見えていた。

下腹部を人差し指て触った！柔らかい新鮮な感触を得た♪
素敵な食材に成りそうだ～更に大腿部を触るとぷよぷよとした、ふんわりして張りのある感触が伝わってきた♪

足を開いたお尻の穴が有った、右足だけを持ち上げて少女の秘密の唇をこじ開けた♪乳首よりも素敵なピンク色をした、生殖器が露に成っている、まだ皮を被ったクリトリスに尿道唇に余り使っていないみたいなビラビラの小陰唇、まだ綺麗に閉じている膣唇もピンク

色をしていた♪

そっと指で膣唇を開いて膣壁や更に膣内の奥に綺麗なピンクのヒダが見えてきた♪この娘は処女なんだ！

シェフは姉の調理方法が浮かんだ！

生殖器は半生の状態ど調理しょう、身体は乳房や乳首が綺麗に見える用にオーブンで時間を掛けてゆっくりと黄金色に成るように、たっぷりとオリーブオイルを何回にも分けて、乳房や乳首におへその回りやお尻に塗りながらゆっくりと焼き上げよう♪

頭は、セミロングの髪を傷め無いように、頭の上で纏めてから、ゆっくりと蒸して調理しょう。

シェフは姉の調理方法を更に詳しくメモしながら決めていった…

食材検査妹

続いて妹達の食材検査を始めた…

シェフは二人の妹の1人を目覚めさせる事にした、調理を手伝わせるために…

妹二人を見比べた、外見は双子だから、ほとんど見分けがつなかい…二人の格好は同じだ

髪型も肩までのストレートの黒髪で目鼻立ちも同じ

では、肌はどうかと、二人のセーラー服にストレートを脱がして裸にした

同じように、膨らみかけの白い乳房にピンクの蕾が二つ、下腹部の茂みは姉より更に薄く、タテスジがハッキリと見えている！

姉と同じように、乳房を指で触り、弾力性や張りを調べも二人の妹は同じだった、一卵性双子だな♪と思った。

1人を眠りから目覚させる為に気付け薬を自分で口に含んで、妹の1人を抱き起こして、口移しで流し入れた。

これで暫くすれば目覚めるだろう…

その前に双子の姉妹の食材をもっと詳しく調べて、調理方法を考えないと…

気付け薬を飲ませていない娘の足を開いて、姉と同じように右足を上げて、生殖器を指で触り、大陰唇を開いて少女の秘部調べ始めた…クリトリスや尿道唇は勿論膣唇も綺麗なピンク色に耀いて見えた！

膣唇を開いて、膣内から膣壁を拡げた、ピンクのヒダが光って見えた！綺麗だ更に奥には子宮唇が閉じている・・

全く男を知らない処女の少女だった！

やはり、妹も姉と同じようにまるごと姿焼きにしょう綺麗な処女のまま調理しょう、と決めた！

気付け薬を飲ませた娘はまだ眠りから覚めない…

食材検査妹（後書き）

感想お待ちしています、罰ゲームの内容や次の種目などコメント下さい！

エロイ読者様の為に、ｎｏｎ・ｎｏは日々エロスに努力しています。

フェラ決着

第三種目の試合が後１０分足らずで終了になる…

赤組の最多の女の子は男６人目を加えている、平均値で１人を８分ぐらいてイカせて口内に射精して飲み込んでいる。凄い女子高生が居るんだなとリーダーは感心している。

遅い女の子はやはり処女の女の子達だ、まだやっと二人目のチンチンを加えている。

リーダーは「残り時間は僅かだ、赤組、青組とも頑張るんだ！

一番成績の悪い女の子には、罰ゲームとして、下の唇で男のペニスを加えて受精して孕ませるから、残り時間頑張るんだ！

処女の女の子達は、急にリーダーが罰ゲーム発言を告げた事に、皆顔を引きつる…チンチンを加えた頬を膨らます。

負けたら、純潔を男に奪われてしまう…そんなのは～イヤダ！

それに膣内や子宮内に中だしされて、孕まされる・・？まさか！？妊娠させられるのかな…そんなのは…ゼッタイにイヤダ！

まだ高校生なのに、無理やり処女膜を奪われて、中だし…受精なん

で死んでもイヤダ！

女の子達は、必死に男のチンチンを口に加えたり、手でコウガンやチンチンを激しくシゴキ始めた…

公開受精

リーダーは第三種目の終了を告げた！

「第三種目これ迄！！」

担当の男達が赤組、青組の女の子が口内射精した回数の確認をした。

結果が発表された！！

赤組、２８人

青組、２６人

「よって赤組の勝利とする」

続いて、最優秀選手を発表する、最優秀選手は赤組の葉山ちゃんに決まりました！皆さん拍手して下さい！

場内から歓声と拍手があがった！

葉山ちゃんにはリーダーから記念品が贈呈された♪

リーダーは葉山ちゃんに一言感想を言う用に告げた！

「皆さん～応援ありがとうございました、精一杯頑張りました…」

（ホントは嫌で仕方なくフェラをしたのに・・・）

「もう一度フェラチャンピオンの葉山ちゃんに拍手しましょう」

再び場内に拍手がわき上がった！

続いて最下位の罰ゲーム者を発表する。

最下位は瑠美ちゃんと真弓ちゃん二名に決まりました！

「えぇ～っ…！」

最下位の二人はまだ処女で男を知らないのにフェラをやらされたから…やり方を知らなかった少女に下された罰ゲームは

リーダーは罰ゲームの内容を発表した！

「2人には公開受精をして、孕んでもらい妊娠させる事にした」

「イヤ～ッッッ…！」

「妊娠ナンテヒドイ…」

男達により2人は分娩台にM字開脚に脚を開かれてスカートを捲られ秘部が丸見えの状態で拘束された！！

公開受精2

キャスパーは昨日排卵誘発剤を与えた女の子達から、既に卵子を子宮内から取り出して保管していた♪

取り出して有った卵子に自分の精液を試験管の中で一緒に逢わせて受精させた♪

今目の前に分娩台に拘束した、女の子の処女の膣唇を開いて、クスコを挿入した。

膣壁を分けながらゆっくりと膣内に入った！ピンクのヒダが見えた！キャスパーは、受精卵子を取り出して、女の子1人づつ子宮唇を拡げて、子宮内に着床させた♪

2人にはキャスパーから素敵なプレゼントが子宮内に贈られた・・・種付けというかたちで・・・

女の子二人は涙を流していた、頬から止めどなく下に…滴り落ちた…

リーダーは2人の女の子に

「良かっな、キャスパー様から素敵なプレゼントを頂いて、感謝す

るんだぞ、早くお礼を言わないか」

「キャスパー…様…素敵なプレゼントありがとう…ございました」

…クスン～ッッッ

少女達は、処女膜はまだ失ってはいない…しかし、子宮内にはキャスパーの受精卵が着床していた。

ディナーパーティー

２日目の体育祭前半が終了した。

ディナーパーティーを三時間後に開くと主催者のリーダーから発表があった♪

其れまで後２試合が行われる！

第四試合が発表された！

リーダーは

第四試合は、騎馬戦野球拳を行う！

内容は、赤組、青組に３人一組になり、各組五騎づつ１５人で試合を行う！

上に乗る女の子はハチマキをして貰う、騎馬戦の騎馬の女の子２人には目隠しをしてもらい、上に乗る女の子が動きを指示して移動する。

更に相手の組の上に乗っている女の子のハチマキを取る、とられたチーム３人は、リーダーと野球拳をして負けたら、セーラー服かスカートを脱いで頂く。

どちらかのチームが全滅したら、第一試合を終了する。

これを繰り返して、五試合をしたら、第四種目を終了とする。

野球拳に続けて負けて、全裸になり、更に野球拳で負けたら…男の言う事を一つだけ聞いてその指示に従って貰う！！

以上が第四種目の試合内容だ！

赤組、青組は人選を行ってくれ、準備時間は5分やる…

赤組、青組ともに１５人づつのメンバーが選出された、騎馬と上に乗る女の子が決められていく！

進行の男が第四種目の野球拳騎馬戦の開始を告げた！

赤組、青組、五騎による野球拳騎馬戦が始まった♪

騎馬戦

騎馬は目隠しで上に乗る女の子が目標を指示しながら、第四種目の野球拳騎馬戦が始まった♪

青組の騎馬戦リーダーは、綾波

赤組の騎馬戦リーダーは
明日香

を先頭に集団を組んで、右回りにゆっくりと近付いていた！

ハチマキを守れば、罰ゲームの野球拳は無い！！

青組の綾波は
「いい、こっちはふた組で赤組の１騎馬を前後か左右で挟み撃ちして、ハチマキを奪いましょう！
上に乗る女の子は、早く指示しながら移動するのよ！」

青組のリーダー綾波は、赤組の騎馬を一つ、また一つと確実に潰す作戦を立てながら実行していった…

前の騎馬が囮になり、後ろから近付いて、ハチマキを奪う♪

更に横から近付いて、一旦相手が此方を見て、向かって来たら、逃げて、別の騎馬が後ろから、ハチマキを奪う♪

等と計画通りに、第一試合を進めて、赤組の騎馬は全滅した。青組の騎馬は一組だけがハチマキを奪われただけで済んだ！

チームワークと作戦勝ちを治める事が出来た♪

ハチマキを奪われ負けて、男達と野球拳をした青組の女の子は2人が、男達に負けて、1人はスカートを脱がされた、1人はセーラー服を脱がされてしまった…

最初から、セーラー服やスカートの下には何も着けていない為に、下半身の茂みやタテスジや乳房や乳首を曝す事に成ってしまった。

青組の15人は、野球拳で8人が負けて、セーラー服やスカートを脱がされて、第二試合に向かった！

リーダーが第二試合開始を告げた！

今度は赤組も作戦を練って挑んだ…

その作戦とは・・

騎馬五騎で相手の一騎を取り囲んで、ハチマキを奪う作戦だった！

騎馬戦2

騎馬戦の二回戦がスタートした。赤組は奇襲作戦にでて、全騎馬で青組の一つの騎馬を取り囲んでは、ハチマキを奪う、取り囲んではまた奪うという作戦が成功して、第二試合が始まって、５分で勝利した。

結果は、赤組でハチマキを奪われた騎馬は一つも無く、完全勝利した。

負けた、青組は、男達と野球拳をしたら、１５人の内7人が負けて、セーラー服やスカートを脱がされた、第一試合を負けて、更に第二試合に負けた女の子は3人共に全裸にされた！！

続けて第三試合の開始を告げた！

青組も警戒心を持って、五騎馬ともに纏まって行動しだした…

赤組のリーダーは、新たな作戦に出る！！

青組の騎馬の女の子達は第二試合に負けて、乳房や下半身を曝している娘が多い…恥ずかしさで動きが鈍っていた！

だから、相手の前から近付いて、わざと♪

「イヤダ～おっぱい丸見えじゃあないの♪」

と相手に聞こえるように呟く♪

すると相手の女の子の動きが鈍り上に乗る女の子の指示が遅れる…

イマだ！一斉に動きの鈍った騎馬に襲い掛かって、ハチマキを奪った！

「ヤッター♪上手く成功だね！！」

赤組のリーダーは、奇襲作戦を次々と成功させていった。第三試合も作戦が成功して、赤組の勝利と成った！

しかし赤組も2つの騎馬でハチマキを奪われてしまった。

青組の女の子達はまたもや男達と野球拳をしなければ成らなくなり、嘆いていた…全裸にされた女の子が3人要るから…

その3人は男達に野球拳で勝って喜んでいた…全裸なのに…

他の12人の内負けた8人が全裸になった…

2人がセーラー服だけに、1人はスカートだけの姿

1人だけまだ脱がされていない。

赤組の６人が男達と野球拳をして、負けたのは２人で済んだ！

２人はセーラー服を脱がされた…

赤組は、乳房を曝して要るのが４人

下半身を曝して茂みやタテスジを露出した女の子が３人いる

第四試合が始まった！

赤組の女の子達はほとんど肌を曝している、恥ずかしさで動きが鈍く成ってしまう。

青組のリーダーは、「今度負けたら、男達が何を指示するか解らないよ？恥ずかしくても、我慢して相手のハチマキを奪い取るからね！」

騎馬は目隠しされて要るから…少しは…全裸でも見えない分良いのかな？

と赤組のリーダーは感じていた、自分も上半身裸で白い乳房やピンクの乳首を露出しながら騎馬戦を戦っていた！

第四試合は、激しいハチマキの取り合いに成った！

後がない青組の怒濤に、赤組は押されていた。

団体で相手の騎馬を囲む作戦は上手くいかなくなり…
一対一の闘いに成っていた！

結果は、何とか赤組の勝利で終わった！

やはり青組の女の子達は、恥ずかしさで赤組より動きが鈍く成っていたのが敗因だった～

赤組の騎馬は三騎がハチマキを奪われた。

女の子達は又しても男達と野球拳をさせられた…

負けた赤組の女の子達は野球拳で更に9人が負けてしまい、5人が全裸にされた…
全裸の女の子は、野球拳でも負けてしまい男達の指示に従って、最後の試合には、アソコにバイブを入れて試合をする破目に成った！
赤組の9人が野球拳に挑んだ…

5人が負けてしまい、3人が全裸にされた…

2人はセーラー服を脱がされた…

そして最終の第5試合が始まった！

負けたら、全裸にされて過ごさなければ成らなくなる…

赤組、青組ともに必死でハチマキを奪いに前進していた～

これで全て終わると

青組の女の子3人はアソコにバイブの振動が当たり、全身が震えている、特に腰から足にかけてピクピクとハッキリ解る程に震えいた…

赤組のリーダーは、震えている青組の騎馬を最初から狙いを定めて襲った！

青組の三騎は直ぐにハチマキを奪われて失格した、残りの二騎に集中して襲い掛かり青組は全滅してしまった…

圧倒的に赤組の勝利で最終試合が終わった！

赤組の被害は無く完全勝利した。

負けた青組の女の子達は、男達との野球拳に向かっている。

野球拳の結果は、１５人の内7人が負けてしまい、全裸にされていた5人は、男達の命令で、全裸で奴隷にされた…今日1日男達の命令を聞かなくては成らない…御主人様と言って、キスを求められたら何処でもしなくては成らない…乳房やオマンコを触られるかもしれない…最後は、処女を奪われてしまうだろう…と女の子達は思っていた…

第5種目

いよいよ最後の第5種目が発表された!!

種目は当初予定した、女の子の膣内強制バイブによる中だしは罰ゲームとして残す事にした。

新たに、女の子達によるレズフェスティバルに決まった!

まだ試合に参加していない全ての女の子が赤組、青組で2人一組になり、イクまでレズフェスティバルをする。

但し、相手が処女の場合は処女膜は奪わない事が付け加えられた。

勝ち上がった娘は、二回戦に進み、同じようにレズフェスティバルを行う!!赤組と青組2人で行う!!

赤組、青組で人数が合わなく成ってきたら、同じ赤組、青組同志でレズフェスティバルを行う事にする!!

リーダーから、最後の第5種目の内容が告げられて、試合が始まった!

人数調整の為に、昨日捕まえた女子高生達も何人か参加させられて始まった。

赤組、青組合わせて３６人が参加して、トーナメント形式ではじまった。

先ずはベスト１８人を決める！！

目についた試合には
応援団長同士のレズフェスティバルが見物と成った！
次に赤組、青組のリーダー同士のレズフェスティバルが眼を惹いた！

応援団長同士のレズフェスティバルは、流石に他の女の子達とは一味違い、２人はキスから始めた…更に白い半袖のセーラー服越しに胸を揉み合い、スカートの裾を捲って、右手をオマンコに這わせて、大陰口を愛撫しはじめた♪

最終トーナメント1

赤組、青組の女の子達のレズフェスティバルトーナメントが行われている。

応援団長同士の激しいレズフェスティバルが男達が見ている目の前で、イヤらしい音を奏でている。赤組の玲美が青組の永友のセーラー服をゆっくり脱がせ始める…

青組の永友は、負けずに、玲美のスカートのホックを外して、腰から足元に脱がしていた。

永友は、セーラー服が裾から脱がされて白い肌があらわれて乳房やピンクの乳首がゆっくりと露になってゆく♪

玲美は下半身のスカートがゆっくり腰から足元に脱がされ、茂みや恥部が次第に曝されて、タテスジや大腿部か曝されていった。

玲美は、永友のDカップの乳房に両手でゆっくりと揉み初めて、ピンクの蕾に口付けをして、舌で舐めたり、転がして愛撫を始めた。

永友も玲美の割れ目に、舌で舐めて、クリトリスを舌で探し出して～皮の被った上から、シャブリついたり、噛んだりしてから、指先で膣唇を刺激していると、膣内から、暖かい液体が流れ出してきた。

玲美のクリトリスを親指と人差し指で摘まんで皮を剥いて先端の敏感な部分は舌で刺激したら、

「アッッッ～ッ♪ダメ♪ダメ♪」

腰から足元にかけて、ピクピクと痙攣しだした。更に指先でクリトリスを刺激しながら、膣唇を舌で開いて膣内に舌を這わして入れたり、出したりした

「アッ～アッッッ…！！」

喘ぐ声がした

膣壁を舌を使って掻き回していると、膣内から、暖かい愛液が止めどなく流れ出してきた。

膣内がびしょびしょに濡れてきたのを見て、中指をゆっくりと膣内に入れたら、更に中指で膣内や膣壁を掻き回すように刺激しながら人差し指を加えて、二本の指で刺激を与えた！

更に子宮唇から流れ出した愛液で指がびしょびしょに濡れている、彼女はかなり興奮していると感じられた♪

玲美も反撃に出た！

永友の乳房や乳首では、イカせる事は出来ない！ならば…永友のスカートのホックを外して、一気に足元に下げて脱がした！

2人はシックスナインの格好になり、玲美は永友のオマンコに唇を当ててシャブリ出したり、大陰唇を指で開くと、ピクピクと小陰唇が震えていた、指でビラビラを開いたら、ピンクの皮を被った小さなクリトリスに尿道唇、まだ膣唇は閉じていた。

この綺麗な生殖器は、まだ処女のようだと思い、膣唇を舌で舐めて刺激を与えてから、指で膣唇を開いたらピンクの膣壁の奥に綺麗なヒダが有った♪

やはりこの娘は処女だった無理やり指を膣内に入れて掻き回したら、処女膜を破ってしまうかもしれない…
先ずはクリトリスから攻めようと、皮を被った小さなクリトリスを舌でシャブリ、ゆっくりと皮を剥いて舌で愛撫した！

「イィ～アッッッ…！！」

急に喘ぐ声が聞こえた♪

更に激しくクリトリスを攻めながら、膣唇も指で触れながら愛撫した！

応援団長同士の激しい、愛撫が回りにいる、女の子達や、男達を興奮の渦に巻き込み初めていた。

応援団長2

応援団長同士の激しい戦いは、処女の玲美が先に絶頂期を迎えてしまった♪

「ダメダメ～ッッ…アタマノナカガ～ッッマッシロ～にナッチャウヨ～ォ♪」

最初は膣壁から痙攣が始まってきて、やがて腰や、大腿部…乳房から全身がピクピクとしてきて、足を振るわせながら、グッタリと成った・・・

リーダー同士のレズフェスティバルは、赤組は花菜、青組は椿の戦いが激しく行われていた…

こちらは、初めからシックスナインの形になり、スカートを脱がさないで、捲りながら、お互いオマンコを舐め始めた…

花菜が椿の秘部に唇でキスするように触れてから、椿も花菜の大腿部や大陰唇を攻め始めた♪

お互いにクリトリスや尿道唇に膣唇を激しく舐めたり、指でクリトリスを摘まんで、皮を剥いて愛撫して攻め立てている。

リーダー同士は、セーラー服にスカートを履いたまま責め合って要るのが、応援団長達より、女子高生ならではの卑猥さや恥らしさが余計に男達の目についた♪

2人はお互いの脚を開いて、舌でクチュチュクチュチュ♪とイヤラシイ音を奏でてクリトリスや膣唇を愛撫して、やがて、膣内に人差し指を入れ始めた♪

最初は第一間接まで入れたり出したりしながら、膣壁をまさぐるように、膣内のヒダが指先で触手のように触られているのを2人は感じとっていた…

一本から中指と人差し指の二本に増やして膣壁を掻き回した・・・

お互いに、「貴女は処女なの?」

と口にだした…

玲美は「私は男性経験無いよ…」

「私も同じかな…」

お互いが、処女だった!

「無理やり膣壁を刺激しながら中までは指を入れられないね♪」

「うん♪優しくしょうね」

リーダー同士のイヤラシイ会話が回りの女の子達や男達にも聞こえ

た、まだまだリーダー同士のイヤラシイ戦いは続いている…♀

シェフ調理場

最終試合が行われている、同時刻に、シェフはディナーの準備をしていた♪

新たに仕入れた新鮮な食材を調理場て丁寧に仕込み中だった！

３姉妹の処女の女の子
姉津波仁美、妹真夏に理菜
理菜は眠りから目覚めて、たっぷりの媚薬と排卵誘発剤を与えてあり、ふらふらの状態で処女のオマンコをびしょびしょに濡らしながら、ベッドで喘いでいた。

姉の仁美と妹の真夏にも睡眠薬と同じように媚薬と排卵誘発剤を与えて、いま二人を全裸にして、脚をＭ字開脚状態にして、膣内にクスコを挿入して、排卵誘発の効果で卵管から、子宮内に排出された卵子を摂取し終わった処だった。

姉の仁美は白い肌にＤカップの乳房にピンクの蕾がピンと上を向いている、髪の毛は肩までのセミロング、身長は１５８センチ、サイズは８５、５６、８６のプロポーション、体重は４８キロ

シェフは正確に計測した。新鮮な卵子を摘出して、冷凍庫に保管した！

ベッドで喘いでいる理菜は後で卵子を摘出する予定にしていた。

姉の仁美から、調理場へ運んで調理台に乗せて、脚を大きく開いた！

下準備をするために、

大陰唇を開いて、器具でビラビラを左右に引っ張り固定した！

綺麗なピンクの皮の被ったクリトリスに尿道唇それに閉じている膣唇が露になった。

先ずは、尿道唇に管を差し込んで、膀胱に溜まっている液体の排出を始めた♪

管を伝って、液体が尿瓶に吸い込まれる様に排泄された～

更に菊門が綺麗な、お尻の肛門に浣腸を差し込んで、直腸内に残っている、排泄ぶつの撤去をする、三本浣腸を差し込んで、お腹をマッサージすると、音を奏でて直腸内に残っていた全てが排泄去れた…

調理場2

シェフは姉津波仁美の調理に掛かった…

尿道唇からは既に液体は出尽くしていた、アナルからの排泄め済んでいた、綺麗に尿道唇やアナルの回りを洗い流した。

生殖器は半分生の状態が最も良いと考えて、処女膜に注意しながら、膣内のヒダや、子宮唇にも傷が付かない様に慎重に管を子宮内に挿入した、体外の管は冷水タンクの蛇口に繋いで、冷水を子宮内に送り込んで、胎内から生殖器管を冷やす…

乳房の回りにはたっぷりのオリーブ油を塗り込んだ

お腹や、お尻にもハーブエキスを塗り込んだ！

太ももやふくらはぎには、チーズスパイスにハーブエキスを塗りみ、良くマッサージをして、肉を柔らかくした。

口からは、管を差し込んで直接胃の中に、秘伝のスパイスと、タレを大量に流し込んで、胎内からの味付けとした。

最後に、処女の膣唇を開いて子宮から冷水が流れ出しているのを確認して、膣内にハーブの粉末を乾燥して固めた棒状のステックを挿入した、生殖器に薫をつける、子宮から流れている冷水に少しずつ

溶けて薫りを付けるために…
頭は、髪の毛を白い布生地で何重にも巻いて、顔も白い木綿生地で幾重にも丁寧に巻いた、ミイラ見たいになった、女の子の笑顔を壊さないように、蒸し焼きにする。

姉の津波仁美の下ごしらえを終えて、オーブンに入れた！

ゆっくりと時間を掛けて
オーブンからだしてオリーブ油やスパイスを振りかけ、肌を揉みながら、何回も乳房や乳首の形や焼け色を確かめながら、調理してゆく…

姉の仁美をオーブンに仕込んだら次は妹の真夏の調理に取り掛かった！

姉に比べたらまだ乳房やお尻の発育は進んでいない！
身長１５５センチ、サイズは８２、５６、８０のバストはまだＣカップ位だ♪

しかし体つきは柔らかく、乳房やお尻に太ももは、張りがあり美味しそうだ！

姉と同じように、脚を開いて、大陰唇やビラビラを左右に引っ張り固定した！

尿道唇から膀胱に管を差し込んで、液体を排泄してから、アナルにも浣腸液体を挿入して、直腸内に送り込み、中の排泄物を流しだした。

綺麗に下半身を洗い流してから、姉と同じように調理を始めた♪

第五種目2開戦

第五試合の一回戦が終わろとしていた～

リーダー同士のイヤラシイ戦いは、赤組の勝利に終わった♪

一回戦で勝利した女の子達は二回戦に進める！

負けた女の子達は、まけぬけゲームに進んだ、此処で負けた８人は、罰ゲームとしてセーラー服だけにされて、スカートは脱がされ、オマンコを曝されながら、一時間交流電気バイブによる膣内掻き回した及び子宮内に五分置きにバイブの先から精液が１００ｃｃ注がれる事になる、一時間後には子宮内が膨らんで妊婦の様にお腹が膨らむ事になる、女の子達はバイブで一時間掛けてイカされる！！何回絶頂期を迎えようが、気を失っても、バイブは一時間止まらない！

勝ち上がった女の子達には、一回戦より、二回戦、そして三回戦を勝ち上がった女の子達にはディナーショーを鑑賞しながら、素敵なプレゼントも用意される！！

そして、一回戦がすべて終了した。

敗者は、まけぬけゲームに進んで、負ければ罰ゲーム確定！一時間止まらないバイブレイプが待っている。

勝ち上がった１６人は、ベスト８を掛けてレズフェスティバルを行う♪

二回戦の開始が告げられた、…

二回戦の見ものは、赤組と青組の応援団長とリーダーの戦いが男達の一番の注目となった♪

２人はいきなり、白い半袖のセーラー服を胸当ての部分を掴みあって、力任せに破り棄てた！

ほとんど同時にセーラー服を破いて、二人のフクヨカナ白い乳房とピンクの蕾が回りにいる、男達や、見守っている女の子達の視線に曝された♪

二回戦

レズフェスティバルの二回戦が終了した女の子達のうめき声も次第に静かに成っていった。二回戦は、激しい攻めあいで終わり、勝った女の子も負けた女の子も疲れ気ってぐったりとしている…主催者から第三試合が告げられた。

第二試合で辛うじて勝った応援団長は、くたくたに疲れて肩で息をしている。

「モウダメだ～カラダが…ハアハア～ウゴカナイ…」

ベスト８に勝ち残った女の子達の姿は、殆どが全裸で、ハアハアと全身疲れ切っていた…

主催者は、女の子達の様子を察して

この試合で、第五種目を終了すると女の子達に告げた！

そして、最後のレズフェスティバルが開始された。

女の子四組の全裸レズフェスティバルが始まった！

男達は、裸の女子高生たちの激しい攻めぎあいを、鑑賞していた、
此が終われば楽しみな宴が待っている♪

女の子達も、最後の力を出しきって、お互いの性感帯を刺激しあって要る。

クリトリスを摘んだり、シャブリあったり、膣唇や膣内に舌や、人差し指を入れて掻き回して性感帯を次々と攻めていた。

試合が終わって

赤組、青組の体育祭が終了した。

女の子達も疲れきって、全裸の姿のまま床に倒れて、ハアハアと息を切らしている。

リーダーは、宴の準備をするように指示を出した！

会場のセッティングが開始された。

まだ元気な女の子達も、会場作りを手伝い、宴の準備が進んでゆく！

メインアトラクションにまけぬけが決まった女の子８人を半袖のセーラー服だけの姿にして、分娩台に脚をＭ字開脚に拡げて、交流バイブレータをオマンコの前にセットしてゆく、宴が始まったら、膣唇から挿入して、一時間の快楽の時を迎える事になる、８人の内五人がまだ処女だった！巨大バイブレータに処女膜を突き破られイカされ続けて、五分置きに、バイブレータの先端からは精液と媚薬に排卵誘発剤が放出されて、快楽の世界に浸される筈だ♪

相原姉妹は、キャスパーの専属メイドとして、世話を始めた、姉の夏実は、シェフの調理場へ向かって、キャスパー専用の食事の用意をしていた～

妹は、キャスパーの傍でマッサージをしている。

会場は、男達により体育祭で使用された器具のかたずけが急ピッチで行われていた。

会場には、校門で待機していた、係りの男達が新たに、女子高生五人を連れて来た、学校に遊びに来ただけのために捕まってしまった。

この女の子五人は、宴のアトラクションに参加して貰うと、リーダーが女の子五人に告げた、着ている服を全て脱いで、ストリップショーをさせる、その場で全裸を男達に曝す、そして半袖のセーラー服とスカートに生着替えをしてもらう♪

更に、男達と野球拳をさせて、負けたら公開レイプされて、中だしされて孕ませられる…

☆☆♀

調理場では、シェフが宴の為の調理が進んでいた、夏実も手伝って、キャスパー専用のメニューが作られていた。

シェフは、三人姉妹の妹理菜には身体から、少し血を抜いて、ベッドに横たわしていた、たっぷりと媚薬を与えて要るので、目鼻立ちは虚ろになり、自意識は無い状態にされていた…

姉や双子の妹は、何回も味付けされたり、身体中を揉まれて、美味しそうに全裸の身体が焼かれている。

乳房や乳首は黄金色に焼けて、光っていた、お腹やお尻も程よく焼

けて、香ばしい匂いを出していた！

もう少しで美味しい、料理が出来上がる♪

宴の始まり

シェフから、キャスパーにまだ調理に少し時間を頂きたいと連絡が入った♪

美味しく、更に素晴らしい出来映えにするためには後一時間近く必要だと～

キャスパーは了承した、シェフの腕前は確かだから、きっと素晴らしい出来映えに成るんだろと想像できた。キャスパーは、宴のリーダーに今来た娘達を前菜として男達にヤラセロ♪

リーダーは本番用にと、考えていたのだが、一時間遅く成ると、せっかくの宴が寂しくなると、思っていた、キャスパー様の助言を貰い、男達に指示を出した。

「今来た女子高生五人をおまえらに犯させてやる、やりたい奴は今すぐに、申し出ろ！！」

男達も時間潰しに、と１５人が申し出た！

じゃん拳により五人が決定した。

女の子五人は、お互いに顔を見合せて、震えている、一体何をされるんだろうと…

リーダーは女の子五人に、半袖の白いセーラー服とスカートに着替える様に命令した。

女の子五人は、着ている服を脱いで、下着姿になり、指定された半袖のセーラー服とスカートを履いた…

男達五人は、各々女の子の隣に寄り添って行く♪

宴前のアトラクションが始まる♪

アトラクション1

リーダーからアトラクション開始が告げられた！

更に回りで見ている者に誰が一番激しく更に犯す姿が良いか審査をするように指示を出した。男も女の子達も良く見て興奮するんだ！

最初の五分は脱がさないで愛撫をして馴染ます…

中だしをしたら相手の女の子を代えて一時間たっぷりと犯す事になった♪

男達は女の子の名前や経験を訪ねてから、アトラクションが始まった～

女の子五人は、希美は処女、綾は経験、美帆は処女、菜々は処女、真弥は経験者の一年生だった！

希美は立たせたまま、腕を後ろ手にされて、キスされた！処女の希美は、キスをされて抵抗をした、男は、騒いだり抵抗すると、あのような姿にされて終うぞと分娩台に下半身を曝してバイブレータを膣唇の前に突き付けられている、女の子達を指差した！

希美は屋上に連れて来られた瞬間から、この女の子達の酷い姿を見た時から震えていた・・

男の成すがままにするしかないと…諦めて…しまった…

男は、希美の唇をこじ開けて舌に舌を絡めて、吸い取ったり、唾をからめて口内を犯した！

次第に右手をセーラー服越しに乳房を揉み始めた…

最初はゆっくりと次第に激しく乳首を探し出して指で摘んだり、引っ張って遊んでいた。

乳首に触れた瞬間希美は

ピクピクと震えていた

「アッッ～ッ…」

舌を絡ましていなから、あえきごえを出し始めた。

セーラー服の胸当てから白いブラジャーが見えている、男はセーラー服の裾を乳房の辺りまで捲った、まだ脱がさない…

二つの白いブラジャーに包まれた乳房が次第に現れた！女子高生の白いブラジャーに右手を添えてゆっくりと揉み始めた…柔らかくて弾力がある、ブラジャーの中に手を入れて、乳首を摘んだ、生の女子高生の乳首は、柔らかい、少しずつ揉んでいるとだんだんと勃起して、固く大きくピンと成ってきた。

アトラクション2

希美は、始めての快感に息がハアハアと荒くなり、全身が震えていた…涙を流して屈辱感を耐えていた…

乳房や乳首を堪能した男の右手は、次第に乳房から下に移動してゆき、スカートの裾を持ち上げて白いパンティの上から、タテスジに中指を這わせ始めた…

「ウッッ！イャ～ァァァ～ッッッ♪」

ビクッと腰を振るわせて、脚をビクッビクッとさせた♪

始めて男に大切な部分を触られて敏感に反応してしまった～媚薬や排卵誘発剤が効いてきたのだろう♪

五分が経過して、男達は一斉に女子高生を脱がし始めた…

強引にセーラー服を引き破ったり、スカートを脱がして、パンティの中に手を忍ばしていた。

イャ～ッッ～ヤメテョ～ォ…私マダ処女ナンダカラ…！！

ヤダッバ～ヤメテ～ッッ！！

イタイョ～ヤメテ～タスケテ～ダレカ…

女の子達の激しい悲鳴が響き渡った！

希美は、仲間の悲鳴を聞いて更に全身が震えていた…

男は希美のパンティの中に手を忍ばして、クリトリスを探しだした
～親指と人差し指で突起を摘んだ！

「ヒャッ～ッッ♪」

希美は初めてクリトリスを触られた衝撃に頭の先から足の先まで電気が通るようなビリビリとした。

男は、唇を離してゆっくりと屈んで、希美のパンティを腰から膝に下げ降ろした！

茂みの中に、初々しいタテスジが見えていた～指を大陰唇に充ててビラビラのヒダを掻き分けた♪
綺麗なピンクの皮の被ったクリトリスに尿道唇に閉じている膣唇が顔を出した。

綺麗だ…まだ男を知らない処女の生殖器を目の前で見て興奮はピークに達した
早く犯したい！！

アトラクション3

希美のクリトリスにシャブリついて、皮を剥いて舌で転がすようにして刺激をすると、ピクピクと下半身を痙攣させている～

可愛い処女の女の子なんだなあと染々感じた、処女の女子高生を此れから犯すんだと、処女膜をぶち破り子宮の中に精液をたっぷりと放射して、処女の女の子を孕ませる、排卵誘発剤が効いたなら必ず今日か明日には排卵がある筈だから、間違いなく孕む筈だから、見ず知らずの男の種子が、卵子と結合して、妊娠する恐怖は計り知れない…

まだ男を知らない女の子だから、媚薬の効果が無ければ、発狂してしまう筈だと男は思いながら、希美の膣唇から膣内に舌を入れ始めた…

「キモチ…イイョッッ♪」
媚薬が効いてきた…

初めての絶頂か近付きつつ有るみたいだ～人差し指を膣唇に充ててゆっくりと第一間接まで膣内にに入れた、ヒダが指を締め付けて、挿入を拒否している。

人差し指を膣内に抜き差しを繰り返していると中から暖かい濡れた愛液が流れ出し始めた…処女の子宮から膣唇に向かってイヤらしい女の子の体液が流れてゆく♪
指を増やして中指と人差し指を膣内に入れて、膣壁やヒダを掻き回して刺激を加えた。

子宮からは更に多くの愛液が滴り出て指にまとわり付く…指を膣内にいれたままクリトリスを舌で刺激をした。

男のペニスはビンビンに勃起して、早く処女膜をぶち破りたいと言っていた、先走り液が出始めていた…

男は、ズボンをずり下げて、ブリーフを脱いで、目の前の処女の女の子に勃起したペニスを見せてから、女の子を立たせたまま、膣唇にペニスの頭をすり付けて

希美に「君の処女膜を貰うよ！」

「・・・」

希美は恐怖と恥ずかしさで言葉にならない…

男はペニスを膣唇の中にゆっくりと挿入してゆく、処女膜のヒダがペニスの挿入を阻止して膣壁が締め上げる、男は腰に力を入れて、更に膣内にペニスを差し込んだ！ブリッ♪と音が聞こえて処女膜をペニスが突き破り、子宮唇とペニスの頭がキスをした。

イタイョ～っッッ！！　ヤメテ…

処女膜が破られた瞬間希美は、男の背中に爪を起てて処女喪失の痛みを耐えている！！

男は更に腰を使い、ペニスを膣内に出し入れを繰り返して

イクゾ、たっぷり子宮内に俺の精液を出してやるから、受け取るんだぞ♪

男は絶頂を迎えて、処女の処女内に精液を放出し続けた！

希美も男の熱い精液を子宮内で受け取った感じを味わって涙を流しながら、震えていた…

妊娠してしまうのかな…処女喪失した少女は、まだ他の男達にもレイプされる…

希美は、子宮内にたっぷりと男の精液を放出されて、立って要られなくなり、膝から崩れて、床に倒れ込んでしまった。

男は、希美に覆うように被さり、レイプを続けた、子宮口をさらに激しく突き刺して、二回目の精子を放出した。

回りの女の子達も、処女喪失の悲鳴を挙げて、泣いたり、叫んだりしている。

隣にいた男が、交代しないかと声を掛けた！

男は、「この娘は処女だったぞ♪、膣壁がきつかったが、気持ち良く出せた！最高の少女だよ♪」

「俺の娘も処女だったぞ♪」

男達は、女の子を取り替えながら、一時間かけて、少女の子宮内に精液を放出して、孕まし続けた！

少女達の、叫び声と、男達の精液が下半身から、垂れ流し状態のままに、知らない男達に犯され、誰の子供か解らない種子が子宮で着床して、孕ませられている…

間もなく、一時間が経過していく！

調理場から、宴のメニューが出来たから、取りに来るように会場係りに連絡が入った！

男達は、動ける女の子達を何人か連れて、調理場へと向かって行った♪

調理場に近づくにつれて、芳ばしい匂いや、食材を調理している音が聞こえてきた。

男達は、ヨダレを拭きながら調理場へと入って行くと

目の前に、素敵な焼き立ての食材を２つ眼にして、一瞬心臓の鼓動が止まる思いをした！

目の前には、こんがりと焼き上がった、乳房や乳首がピンと上を向いて、黄金色をした、素晴らしい出来栄えの少女の食材を眼にしたから…

二部最終話

調理場から、屋上に次々と食材が運び込まれた。

罰ゲームの女の子8人は膣唇に交流バイブを無理やりにぶち込まれて、処女の女の子達は、悲鳴を上げていた、純潔が犯された、機械により処女膜をぶち破られてしまった…更に処女膜から鮮血を流すことがなく、バイブレーターにより膣唇は塞がれて、先端からは、五分置きに精液と媚薬に排卵誘発剤が噴射されて、受精させられる…

8人の女の子達は、悲鳴をあげなから、一時間掛けて、何回も絶頂を迎える事になる！

キャスパーの目の前には、2つの素晴らしい食材が並んだ♪

処女の黄金色をした、芳ばしい薫りや、食欲を誘う裸体が並べられた…

妹の理菜は、大きな鍋の上に、セーラー服だけの姿で吊るされた、下半身は何も着けていなく、秘部は綺麗に剃られて、割れ目が剥き出しになっていた。

シェフは、下処理を既に終えて、両脚の付け根は、紐できつく縛って有った！

シェフから説明があり、この娘は薬で処理してあるから、足の指か

ら、順番にむしり取って食すように…
生の骨付き肉を、その場で焼いて食べる、狂ったような状況が、媚薬で理性を狂わせられている、男達や女子高生達には、

ただ興奮の坩堝でしかなかった…

女子高生達を犯しながらの宴は続いた…

バイブを膣内に差し込まれた女の子達は、媚薬の浸透で子宮内が膨らみ、妊婦のようにお腹が膨らんでいた。

第二部完・・

二部最終話（後書き）

第二部終了です。

宴の内容は、読者の想像と空想的にお楽しみ下さい♪

続きは、感想や要望が有れば書きます、コメントお待ちしています…

駄作に付き合って頂きありがとうございました。

あとがき

楽しい宴も終わりに近づいていた。

男達は女子高生達を手当たり次第に犯して子宮内に精子を放出している。

女子高生達には排卵誘発剤に媚薬をたっぷりと与えている！！

女の子達は全員息を切らしながら、ハアハアとうめき声をあげながら、膣唇から、男達の精子や自分の子宮内から溢れだした愛液を垂れ流して床を濡らしている。

間違いなく女子高生達は全員男達の精子を子宮内にたっぷりと呑み込んで孕んで仕舞うだろう！！

排卵誘発剤の他に成育促進剤も飲まされている。

受精卵はすぐに子宮内に着床して、細胞分裂を普通の１０倍以上のスピードで行う筈になる、ゴールデンウィークの終わる頃には女子高生達全員は、妊婦の様に、いや！正確に妊婦となり、子宮内に子供を宿し、お腹を膨らませる。成長速度が異常に早いから直ぐに出産祝いを貰う事になるだろう。

男達の人気メニューは、順番に

処女膜付き生殖器のしゃぶしゃぶ

乳首付き乳房の黄金焼き

ピンクのクリトリスの踊りぐい飲み

太ももものシチュー

女子高生の姿焼き

の順番だった。

この作品の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
https://novel18.syosetu.com/n0251bk/

ミッドナイトハイスクール

2024年6月21日02時33分発行